

断面圖(Section) (縮尺百分の一)横断面及縦断面

但し階段の部分<sup>カ</sup>を現はしたる断面圖をも添ふるを良しとす、又小屋組の断面は十分の一乃至二十分の一を用ふる事多し。

以上三種の圖は小建築の場合には縮尺五十分の一に作製することあり

透視圖(Perspective delineation) 透視圖は觀望者の眼より物體までの距離及眼の位置等を圖上に定めて物體が視界に現はるゝが儘に之を線にて表現せるものにして物體の實象をさながらに現はせるものなり。

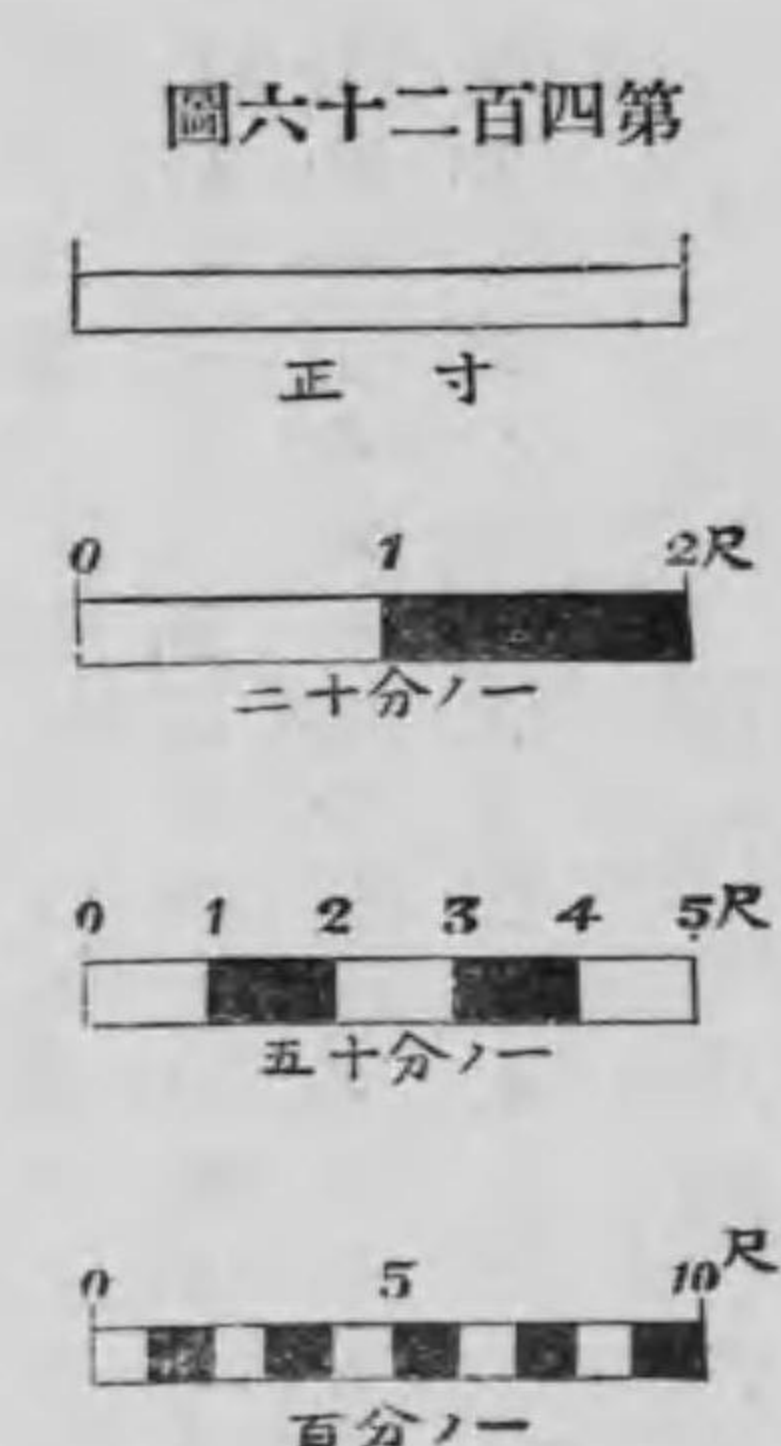
配置圖(Block plan) (縮尺三百分の一乃至六百分の一)敷地内に於ける家屋其他の配置を示し且つ下水、溜樹等の設備を現はすことを要す。

詳細圖(Enlarged detail) (縮尺二十分の一乃至十分の一)建物主要局部の矩計圖を初め入口、窓、裝飾柱、階段、腰羽目、煖爐前飾其他建物内外の局部を精細に現はしたる物

備考 稀には二分の一、五分の一、二十分の一、二十五分の一、三十分の一、等の縮尺を用ふる事あり。

現寸圖(Fullsize Section) 巾木、額縁、手摺、階段、蛇腹、柱及柱脚等を實際の大きさに圖示したるもの。

現寸圖は工事の進行するに従つて之を調製し最も複雑なる型物、或は裝飾的の彫刻物等は特に現寸圖と共に雛形を製作することを要す。以上の外(1)軸割圖(2)石割圖(3)鐵骨組立圖(4)鐵筋配置圖等ありて何れも詳細圖に屬し(1)は縮尺百分一又は五十分一、(2)は重に五十分一、(3)及(4)は二十分の一又は十分の一に圖するを普通とす。



第四百二十六圖

正寸

2尺  
二十分ノ一

5尺  
五十分ノ一

10尺  
百分ノ一

建築現場に於ては建物の一般的部分の

断面を地形より軒先に至るまで現寸を

以て木板上に圖示し之れを矩計カキバカリと稱す。

縮尺の撰定は其圖示するものゝ大きさに

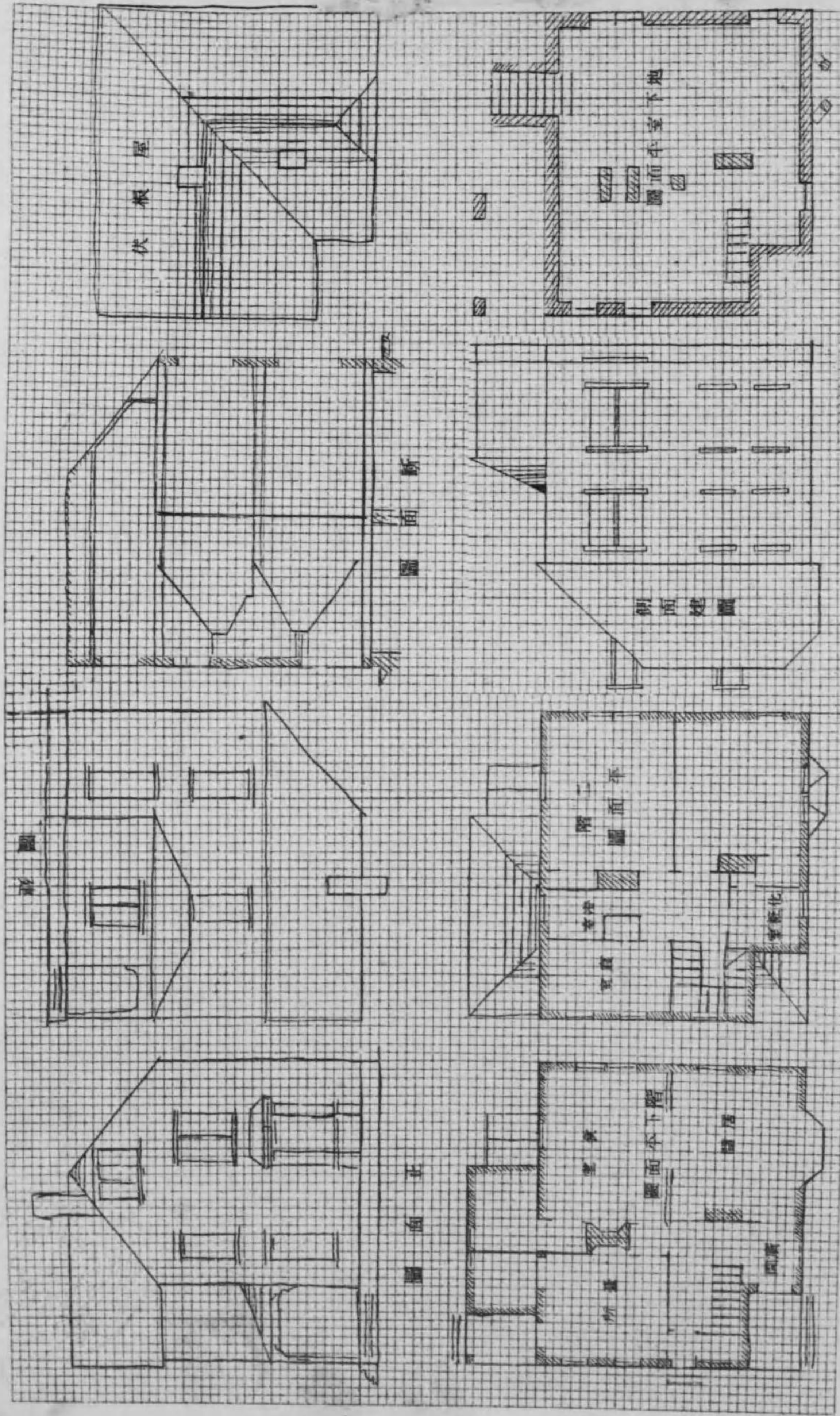
依るべしと雖も圖面を非常に大きくな

らしめざる限り成るべく大なる縮尺を

用ふるを可とすると言ふを俟たず縮尺は第四百二十六圖の如く尺度の目盛を適宜に定めて作ることを得可く、製圖に際し之を用ふるを便利とすれども、實際には日本の一尺指英の一呎指佛の米突指等を其儘用ひ其の細かさ目盛に依りて適宜



圖七十二百四第



七二六

$\frac{1}{20}$   $\frac{1}{50}$  又は  $\frac{1}{100}$  等を測り出し其長さを圖上に現はすを普通とす。建築製圖に於て現に行はれ居る主なる尺度は日本尺なるも、鐵骨類の大きを示すには英尺及佛尺を用ふる場合多し、米突法の一般建築材料に適用さるゝに至らば建築製圖の尺度も勿論之に應ずべく、米突も亦日本尺と同様十進法に基けるが故に之れが採用の曉に於ても圖面の縮尺は在來日本尺に於けるが如く十分の一、二十分の一、五十分の一、百分の一等を用ふることを得べし英の尺度は十二進法なるが故に其縮尺も亦十二分の一、二十四分の一、四十八分の一、九十六分の一等に區別せらる。

第九十八節 製圖用具

製圖に際し必要なる器具の主なるものを舉れば左の如し。

- ダイヤター(普通にコンパスと稱するもの) 普通分割器及加減分割器各一個
- スプリングコンパス 一個
- 同 (鳥口付) 一個
- 同 (鉛筆付) 一個



- コンパス(差替鉛筆付、針付及烏口付) 一組
- 烏口 大小二個
- 比例コンパス 一個
- ビームコンパス 一組
- 尺度(日本尺、インチ指、メートル指等) 二個
- 丁形定規(長三尺五寸及長二尺五寸) 大小三組
- 三角定木(四十五度、六十度) 一個
- 長定規 一組
- 曲線定規 數個
- 雲形定規 一枚
- 圖板(普通品 二尺七寸、三尺五寸) 一打
- ピン(圖紙留針)

以上の外太線引用烏口、曲線引用烏口、並行線引用烏口、等あれども特別のものに屬し一般には用ひられず、定規の中にも並行線用定規、傾斜附丁形定規、勾配定規等あ



り之れ亦特用に屬す。

尺度は日本製竹尺を普通に使用す舶來には拓製象牙製等の吋指米突指等あり何れも目盛は細かに施せるものを可とす。

圖板は前記の大きさのものの外特に大なるものを用意するを便利とす重に檜製にして裏に蟻棧を附したるものを可とす。

備考 圖板は外國にては重に白松ホワイトパインを用ふ何れも表面平滑にして四方の縁は正確ならざる可からず。

此の外製圖用消耗品としては製圖紙、トレンシングペーパー、薄美濃及パラフィン紙等あり、臘、布、製圖ペン、鉛筆、ゴム、墨、墨汁、繪具、毛筆、羽帚、刷毛等を要すべし。

毛筆は主として彩色用に供せらるその良否を検するには筆を清水に浸し引上げたる後振りて水を切り其先が平均に奇麗なる尖頭となるものを可とす然れども先の餘りに細きものは宜しからず。

備考 筆の軸の曲らざるもの即ち眞直なるものを撰ぶべし且つ筆を試むるに水に浸す能はざる時は先の方の毛も平たく指の間にて揃へ毛の先が一直線に揃ふものは宜しけれども毛の不揃にして長短出入あるものは宜しからず。

製圖紙 普通製圖紙にても良質のものは製圖に鮮明なる外觀を與へ仕上を良好ならしむ、ワットマン紙は諸種の紙の有する好き性質を併有し其紙質頗る堅硬なり故に繪具を施すべき圖面には是非とも此紙を用ふるを要す、ケント紙は雪白なれども繪具を施すときは叢ムラを生ずる虞多し。

鉛筆 非常に硬き鉛筆は成るべく用ふべからず常に先を能く尖らしたる柔かなるものを用ひ綺麗にして輕快なる線を描くことに留意を要す。

墨は上等の品を用ひ硯にて磨りたる墨は紙或は布にて漉過し使用するを良しとす、墨汁は使用上便なれども良質品にあらざればニジミを生じ易き缺點あり。

備考 墨汁の粉茶褐色なるものには藍又はベルシャンブリーを加へて純黒となすを可とす。

トレンシングペーパー 蠟布には両面の透明なるものと一面は透明にして他の面は不透明なるものとの二種あり後者の種類を優れりとす、透明なる面に圖を寫して不透明なる面に繪具を用ふることを得べし。



## 第九十九節 製圖上の注意事項

製圖を爲すには前節に記述せる器具類鉛筆、圖板、圖紙等を用意し普通の場合には圖紙を圖板に留針<sup>ピン</sup>止めと爲すも狂ひを生ぜざらしむる爲には圖紙を板に貼り付くるを可とす。

圖紙を板に貼るには先づ紙の四方を五分通り折り上げ次に其裏を返して海綿<sup>スポンジ</sup>に清水を付け紙の裏面を洩れなく浸し次に紙を返へして濕ひたる面を圖板に着け折り上げたる四方の縁に糊を付して板面に貼り指を以て四方に引き平になすにあり、紙の裏面に空気を包藏する虞あれば針にて二三の孔を穿ちて之を去り塵埃なき位置へ圖板を水平に置き紙を乾かすを要す。此作業を適當に行ふ時は紙は板上に緊張して製圖に便なり。

次に圖面の作製に關し注意すべき事項を略述すべし。

(A) 平面圖<sup>フロア</sup>は地上に建築物の置かるゝ形態を正確に定むるものにして家の四壁、室及階段の配置、窓入口の位置等を示すものなり設計の最初に試むべきものは此

平面圖にして先づ其略圖を鉛筆にて坪野紙等に單線引とし第四百二十七圖の如く立面圖の高さをも略圖し家の出來上りたる格好の如何を知るの地步と爲す可し、尙ほ此平面は或る場合には必要なる室の大きさを原紙に切抜きて組合せ廊下と廣間にて其間を接ぐものと考へて最終の決定に至る迄數回組合はせ適當なる配置を案出することあり。

平面圖には室の大きさ、廊下、階段等の巾、壁厚等を記入するを要す。

特に誤謬を避くるには窓、戸、暖爐等の巾を示すに單線と矢印とを以てし戸口は扉の開閉する方向を示すことを要す。

床平面圖には家具類置戸棚、湯殿、手洗場、雪隠、流描寫し等の位置を明確にし其使用材料の異なるものは色を變へて表はすを可とす。

平面圖を造るに當りては、其間取配置が建物の特種の使用目的に適合すること、各室の交通便利にして直接的なること、構造及び配列の簡單なる事等を常に考慮するを要す此等の事項は平面圖に於ける最も重要な素因なり。今各室の配置に關し次の如く五大別することを得べし。

## (1) 主要なる各室の配置



- (2) 主要なる各室に附属せる室の配置
- (3) 特に衛生に注意すべき各室の配置
- (4) 貯蔵用室の配置
- (5) 交通用室の配置

是等の室を圖上に配置するとせば(1)に屬する室は最良の位置に設け(2)に屬するものは其附属なれば適宜の位置に置き(3)に屬するものは其目的に應じて可成小室とし下水等と接続せしむるに便利なる位置に置き(4)に屬するものは貯蔵品の供給を受くべき室に最近く設け(5)に屬する廊下階段等は無益に場所を取らざる様之を配置するを要す。

以上の區別に相當せる西洋風住家の室名を擧ぐれば左の如し。

普通	(1) 座敷、居間、 (2) 臺所、寢室、 (3) 厠、食器置場、
住	

家	(4) 食料貯蔵室、石炭庫、櫃、蘆桶、 (5) 廊下、階段、
上流住家	(1) 座敷、食堂、勉強室、上等寢室、小兒室等 (2) 臺所、寢室、化粧室、朝食室、使用人室、同上寢室、等 (3) 上便所、浴室、食器置場、食物戸棚、洗濯場、下便所、等 (4) 食料貯蔵室、石炭庫、酒庫、麥酒庫、外套帽子掛室、リネン室、倉庫櫃、蘆桶置場等 (5) 廣間、廊下、廻廊、待合室、表階段、裏階段、躍場、等

尙ほ更に大なる住家において左の各室を加ふる場合あるべし。

- (1) 第二客室、玉突室、朝食室、家族に向ての各室、喫煙室、
- (2) 學校室、管理人室、使用人用廣間、靴及ナイフ掃除場
- (3) 使用人食堂、同浴室、同洗濯場等
- (4) 薪炭庫、果物、ジャム庫、葡萄酒倉庫、牛酪倉庫等



(5) 食堂の傍には配膳室を設け食物は地下室より物揚器械を以て自由に運搬す。

(6) 植木室、養花室、馬丁、馭者室、厩舎、門衛舎、園丁舎等

各室の容積に就ては制限なしと雖も英國にては邸宅は公館と異り普通の室は巾九呎高八呎の室を最小限とし化粧室は巾六呎、食器置場、食物戸棚、浴室は巾六呎乃至八呎、厠は巾二呎六吋乃至四呎六吋、廊下は小なる住家にて巾二呎九吋乃至三呎三吋とし大なる住家にて巾三呎乃至六呎とす。階段は或る場合には二呎六吋となせども大なる建物にては貴紳の邸宅にて巾三呎乃至五呎とし公館にては巾四呎乃至十呎とす。

備考 階段の巾に就ては第二巻に説明せり

室の比例の最適なる標準は其長さを巾の約一倍四分の一に爲し高さは巾の約四分の三(廊下等には適用し難し)となすことあり、天井は低きに失するよりも寧ろ高きに過るを可とす。

平面にて長方形を爲せる室は構造上經濟的なれども變化と趣味とを缺くを以

てL形或は丁形と爲し或は一端を半圓形又は半六角形と爲し内部に美觀を與ふることあり、又外部に向けて方形半八角形、半圓形等の出窓を設くることあり。

方位は土地の氣候と地とに關し一定せざるのみならず市街にては道路に沿ひて家屋を建築するを以て殆んど此問題は隨意となり居れども郊外の家屋に至りては能く方位を撰擇せざる可からず、其方位に付ての利害を擧げんに北の方位は太陽が此方向を照さざるを以て不快にして陰氣なり東の方位は朝間日光を受くるのみにして寒冷なる風の吹入る場合あり、西の方位は日没に先づ二三時間日光を受け土地に依りては猛雨の襲來すること多し南の方位は日中最も温度高き陽光を受く、而して最も良好なる方位の取り方は概して正位を避けて斜位を用ふるにあり、即ち東、西、南、北を建物の隅角の方向と爲し而して南東即ち俗に辰巳と稱する方向に食堂居間の如き最も肝要なる室を取るを可とすべし、斯の如くせば北東なる一方向のみ不良なれども他は何れも良方向となる又其北東の方位には食器置場、食物戸棚、厠等の如き餘り肝要ならざるものを置く



を普通とす或は廻廊、玄關等を設けて寒風を防ぐも可なり。  
採光 室内に採光するには直接に外壁より光線を導くを可とす、若し如斯なす能はざる所にては天井明取りを設け直接に屋根上より光線を導くことあり一度硝子へ差込みたる光りを再び他へ導く所謂借り明り(Borrowed light)は効果少きものなり。

各室の獨立 平面の設計上注意すべきは屋内の各室何れも單獨に出入し得べき様工風することなり即ち玄關及廊下より或室に達せんが爲めには成るべく他の室を通過することなく直接に出入し得る様配置するを好しとす。

各室の位置 尙ほ家内の各室を適當に配置せんには左の點に注意を要す。  
客室(Drawing room)は眺望好き場所を撰び玄關より近き場所に設け來客をして徒に長き廊下を歩ましめざること。

温室(Conservatory)は客室に近く設け其方向は南、南東、南西等の如き日當り最もき所を撰定すること。

食堂(Dining room)の位置は主人の意向に依て其趣を異にすべく假令は景色を主

とするか便利を主とするかは其好む所に従ふべし、然れども概して便利よく考案する場合多く臺所より直ちに温かき食料を運びて主客に満足を與へんには廣間、廊下、客室等の如き場所を通過せざるやう配置するを要す。  
勉強室(Study)或は圖書室(Library)は乾燥せる位置と愉快なる外景を有する位置に取るべし。

朝食室(Morning or breakfast room)は朝陽に面して窓を設くるを可とす。

寢室(Bed room)普通の寢室は方位と景色に依て適宜に配置すれども化粧室を附屬せる廣き上等寢室は最良の位置に置かざる可からず。

小兒室(Nursery)は温暖にして日當り能き場所に置くべし。

技術室(Studio)には北面せる大なる窓を設け尙ほ天窗を設くるを可とす。

玉突場(Billiard room)は主なる應接室及び寢室に近く置くべからず主なる建物よりは離して設け床を堅牢になし充分光線を導くことを要す。

臺處(Kitchen)は已に述べたるが如く食堂に近く設け横窓より光線を導く様爲すを可とす。



食器置場(Scullery)は臺所に隣接して置くを要す。

食料貯藏室(Larder)は充分の注意を要す北、北東、或は東等に面して其室を設け便

所下水等の悪臭を受けざる様注意を要す窓は必ず外氣に通ぜしめ其室の周

圍の壁へは暖爐、或は烟道を設けることを禁ず。

浴室(Bath-room) 廁(W.C.) 洗濯場(Laundry)は周壁に窓を設け直接に換氣をなさしむ

るを要す。

階段(Stair)及び廊下等の採光にはなるべく大窓を設けるを要す其特に光線の

必要を感じずるは階段の昇り初め、昇り終り及び躍場、並びに廊下の曲り角等な

り。

備考、階段の割合は第二巻に之を説明せり。

入口の位置は平面圖の作製に際し便利と外觀とを考察せざる可らず而して一

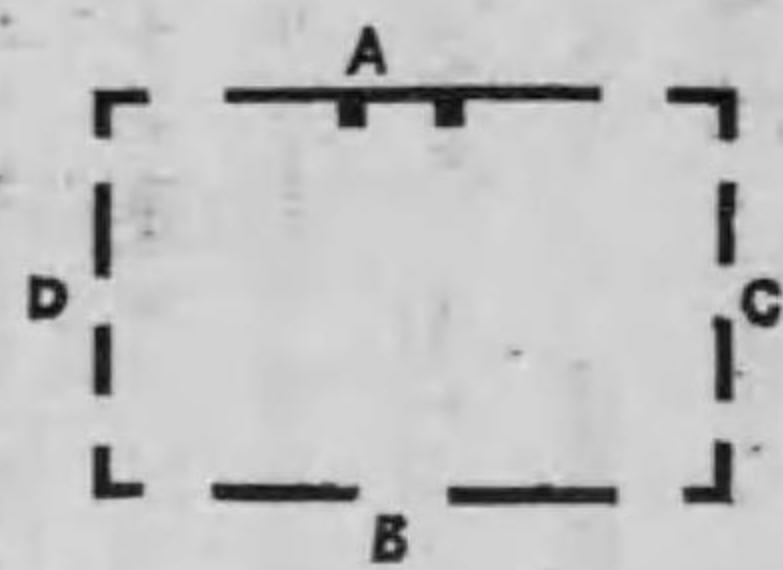
般には戸を開きたる時可成室内を透視されざる様配置するを可とせらる今第

四百二十八圖にてAは暖爐を有する壁とし、Bは其向側の壁としCは暖爐に向

て右側の壁Dは其左側の壁とす然る時はCDなる壁のBに近き端に入口を設

くるを良策とし次はBなる壁の兩端とし、又可もなく不可もなき位置はC、Dな  
る壁の中心及びAなる壁の兩端なりとせらる、又最不良の位置はCDなる壁の  
隅及びBなる壁の中心とし特に後者は直接に入口より暖爐を見るを得るを以  
て不可なりとせらる、最も好しからざる装置は窓に向合ひて入口或は暖爐を設

第四百二十八圖



くることにして、入口と窓とを餘り密接して置く時は一  
方の額縁を取付くる能はざるに至り内部の仕上に不都  
合を生ずるを以て是亦不可とせらる。室内に繪畫彫刻を  
置く場合は天窗の設なき時は窓の位置と直角の方向に  
油繪彫刻等を置くを可とす(以上グーンドレー氏の建築設  
計法其他に據る)。

立面圖は建物の外形を紙面に投射せる圖にして實際の寸尺を表はすものなり  
故に或る隔りし距離より望見せる圖(透視圖)とは異なれり。

立面圖を作らんとするには構造上の法則の外に二三の注意すべき點あり又立  
面圖に於ける各局部の配置及び釣合の良しきは一に製圖家の手腕に存するも



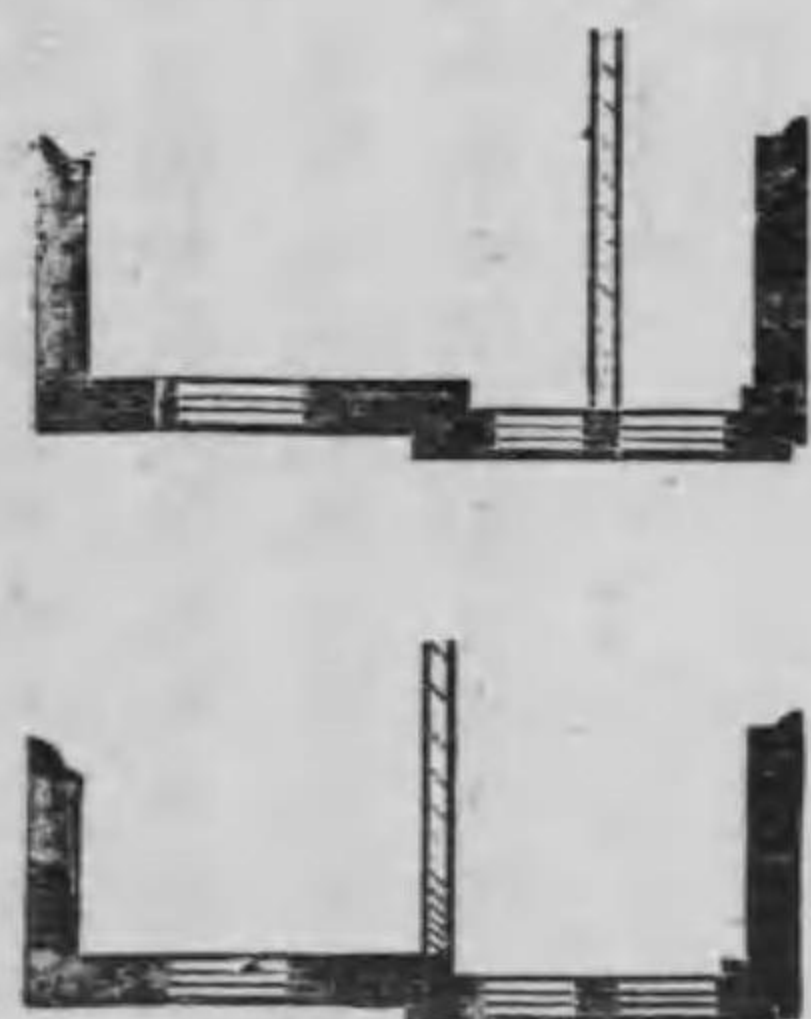
のにして研鑽の功を積みたる美術的技能に富める製圖家を俟て始めて完美なる

七四〇

デザインを期待し得べし。



圖九十二百四第



圖十三百四第

圖一十三百四第

(1) 立面圖は平面圖に符合せるものたるを要す假令ば第四百二十九圖に於ける立面圖は四百三十一圖なる平面圖の立面たることを要し四百三十圖の立面に非ざるを要す。

(2) 特別の理由なき時假令ば平屋根を用ふべき形式に非ざる時の如きは屋根も亦外觀上の考案の一部に加ふべし力強く且つ奇抜なる家根を設くるも亦可なり然れども餘り他の部分に比して重きに過ぐるは不可なり建物の上部を適當に終結す

るものたらしむるを要す。

平面圖に突出及凹入等ある時は其屋根は數多に分かたるゝを要す此場合には一の主なる大屋根を造り他の家根は之れに附屬するものたらしむべし大小屋根の格好に依りて其外觀を美しくし從つて全家屋の美觀を得るに至る可し。

備考 家根の恰好は平面圖を造る最初より之を考量するを要す。

(3) 假令平凡なる立面も窓の付方に依りて其集合配置の宜しきを得る時は外觀よき建物となるべし窓は立面の釣合を保ち家屋の内外に愉快にして無窮なる變化を與ふるものなり。

窓の集合は製圖家の好みに依りて其數は如何なる風にも爲し得べきも唯平面圖と一致するを要す。

(4) 建築物の比例プロポーションに就ては第四卷に述べたるが如く種々の規範あれとも實際に當りては製圖家を裨益すること少し是れ物の適當なる比例は教へらるゝよりも直覺せらるべき性質のものなればなり而して製圖家の或る圖を畫くや



其各部に於ける權衡の宜しきを得從て全般の調和と統一とを得るに至らば始めて此比例の能き態を知得するに至る可し。立面圖の中に於ける一部分にのみ力を與へて他の部分を省みざるは宜しからず之れと同時に總ての部分が同一の程度の強さにあることも避けざる可からず假令ば一の建物に高樓ありとせば此高樓は他の部分と鈞合能きものなるを要す高樓が他の部分を壓倒せるが如く感ぜしむるは宜しからず又建物の他の部分が高樓を遮蔽するが如きも好ましからざるなり。

(5) 設計の主眼點を捕へて常に是に注意を向くるに努むるを要す又常に記憶すべきは立面圖の未だ多く進捗せざる間に主なる平面を決定して之を圖を仕上ぐべきなり。

始め平面圖を作りて次に立面圖を畫くべし立面圖よりして平面圖を案出するは變則の場合なり圖面は總べて鉛筆の儘になし置き詳細圖を悉く作りて其調和を得たる後初めて墨入を爲す可し。

總ての圖面は注意し明かに寸法を記入するを要す此數字は容易に知れ易き定

まりたる位置を基本として記入し何時にても検査し得べからしむるを要す

(6) 主なる平面圖と立面圖とは投射して一枚の製圖紙上に描き平面圖上に立面圖を置けば互の關係を容易に了解し得べく全設計の大意も自から明瞭となるべし。

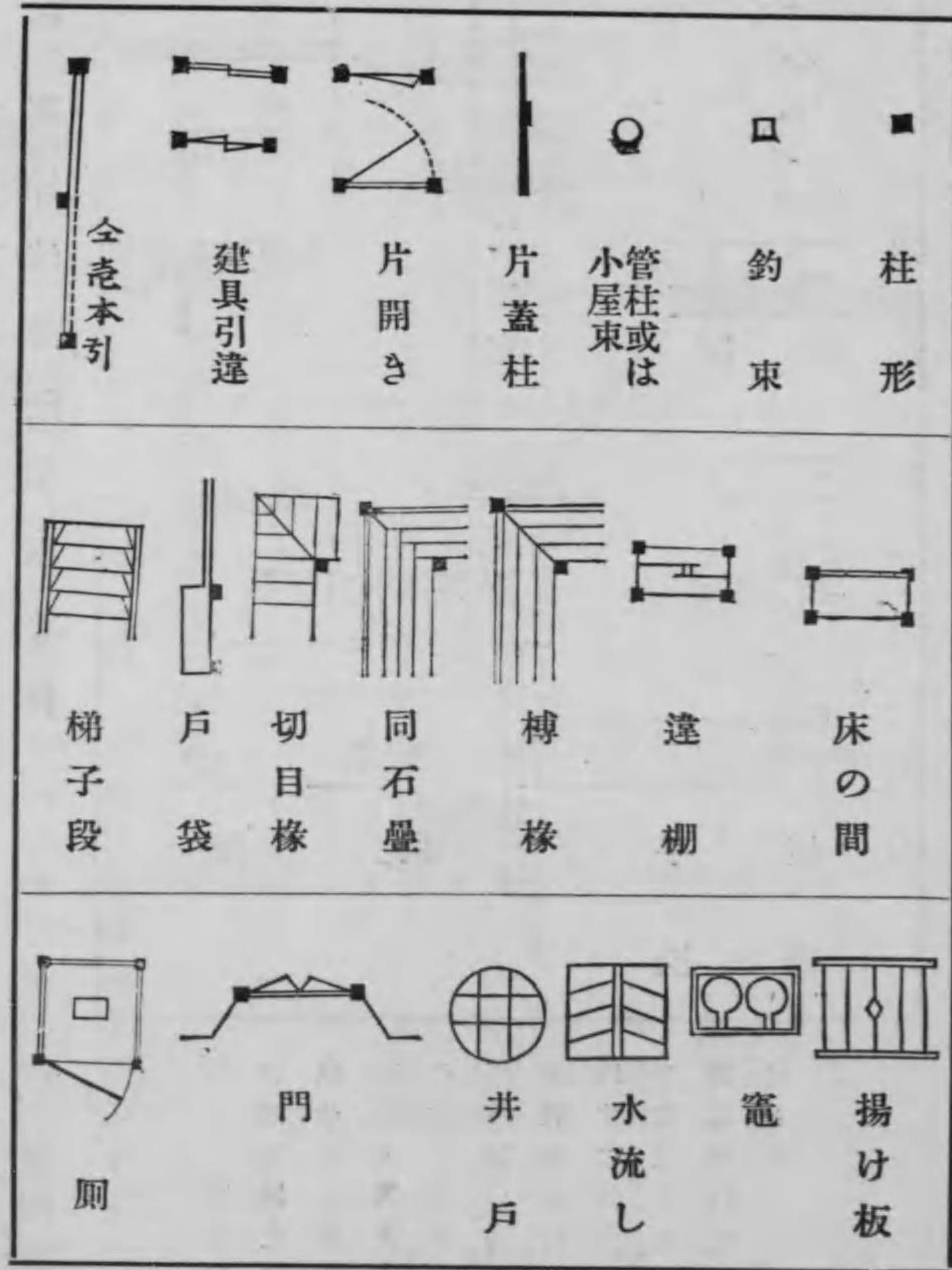
断面圖は建築物の垂直なる平面即ち大なる一枚の板を立てたるが如きものを以て切斷せしと想像し之れを圖に現はし各部分の關係を示すものなり。断面圖は構造を示し一階、二階、三階等の高さを表はし其他の關係を示すものなり。断面圖には詳細に寸法を記入せざる可からず二階床、三階床等の高さより其断面に表はれたる材料の大きさを記し尙ほ室内の仕上げ恰好を充分に表はすことを要す。

断面圖、平面圖、立面圖の三つは相俟て用を爲すものにして同一の縮尺を以て製し個々別々に作ることなく同時に仕上ぐべきものとす。

矩計圖は工事施行に當り職工に示すが爲めに構造は固より持送り、縁形、柱、柱頭其他の面扶り等を各部分毎に詳細に圖したるものなり通常是は鉛筆を以て正



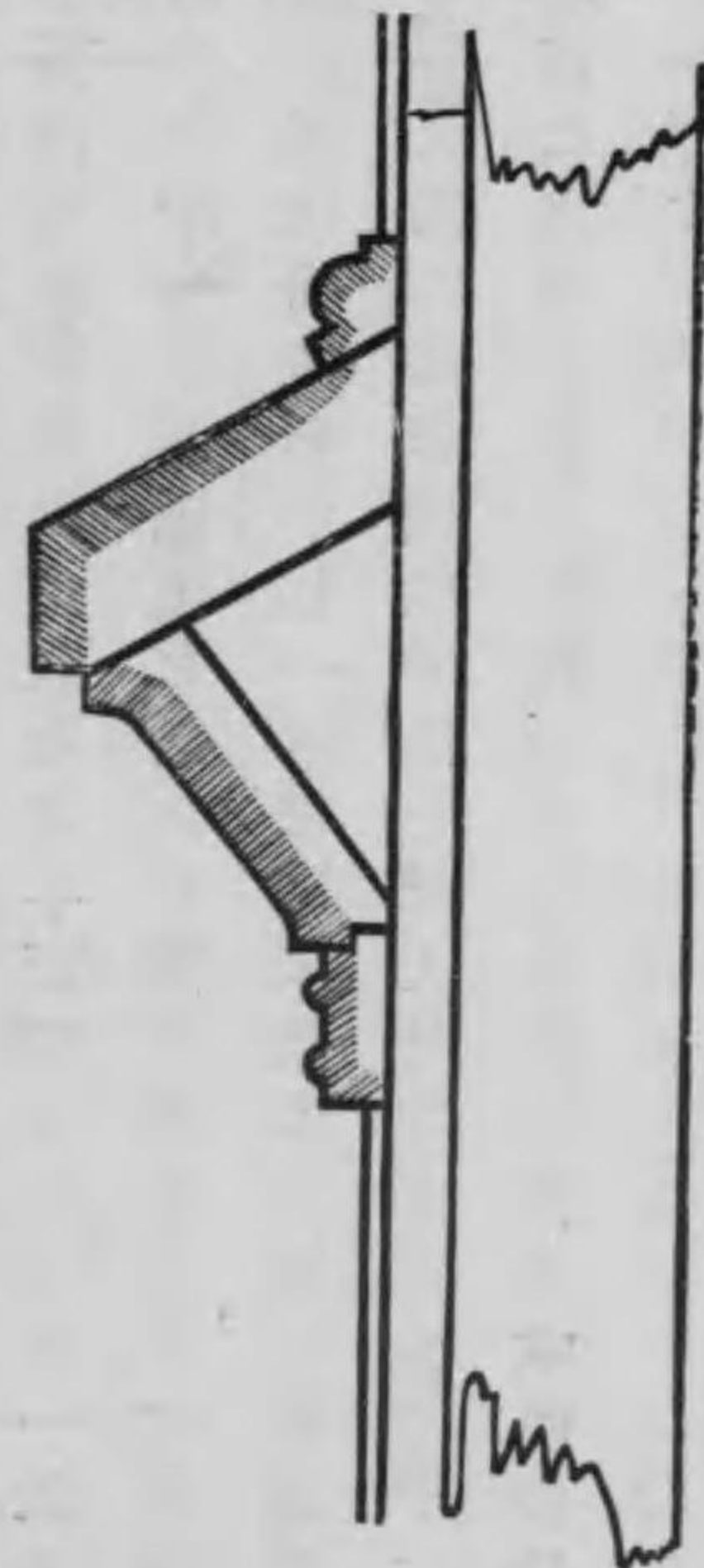
圖三十三百四第



號符圖製築建流本日

を用ひ西洋流にては第四百三十四圖の如きものを用ふ。

圖二十三百四第



職工に渡し、寫しを手元に止め置くを通常とす。

第百節 符號及び着色

建築物の平面圖に表はす符號は日本流にては重に第四百三十三圖の如きもの

(E) 寫圖 總ての圖面は其寫しを要す縮尺の仕事圖は何れも墨を以て蠟布又は薄

寸即ち實物大の大きさを圖示し多くは第四百三十二圖の如く周圍に斜線を施す時としては二分の一、五分の一等の縮尺を以て詳細圖を作ることあり正寸圖にては餘り大なる面積を要する場合此縮尺に依る。

美濃等に寫し青色寫真用の原圖と爲す現場にては青色寫真に取りたる圖面を使用するを普通とす。詳細圖は一般に寫し紙に鉛筆を以て寫し其原圖を

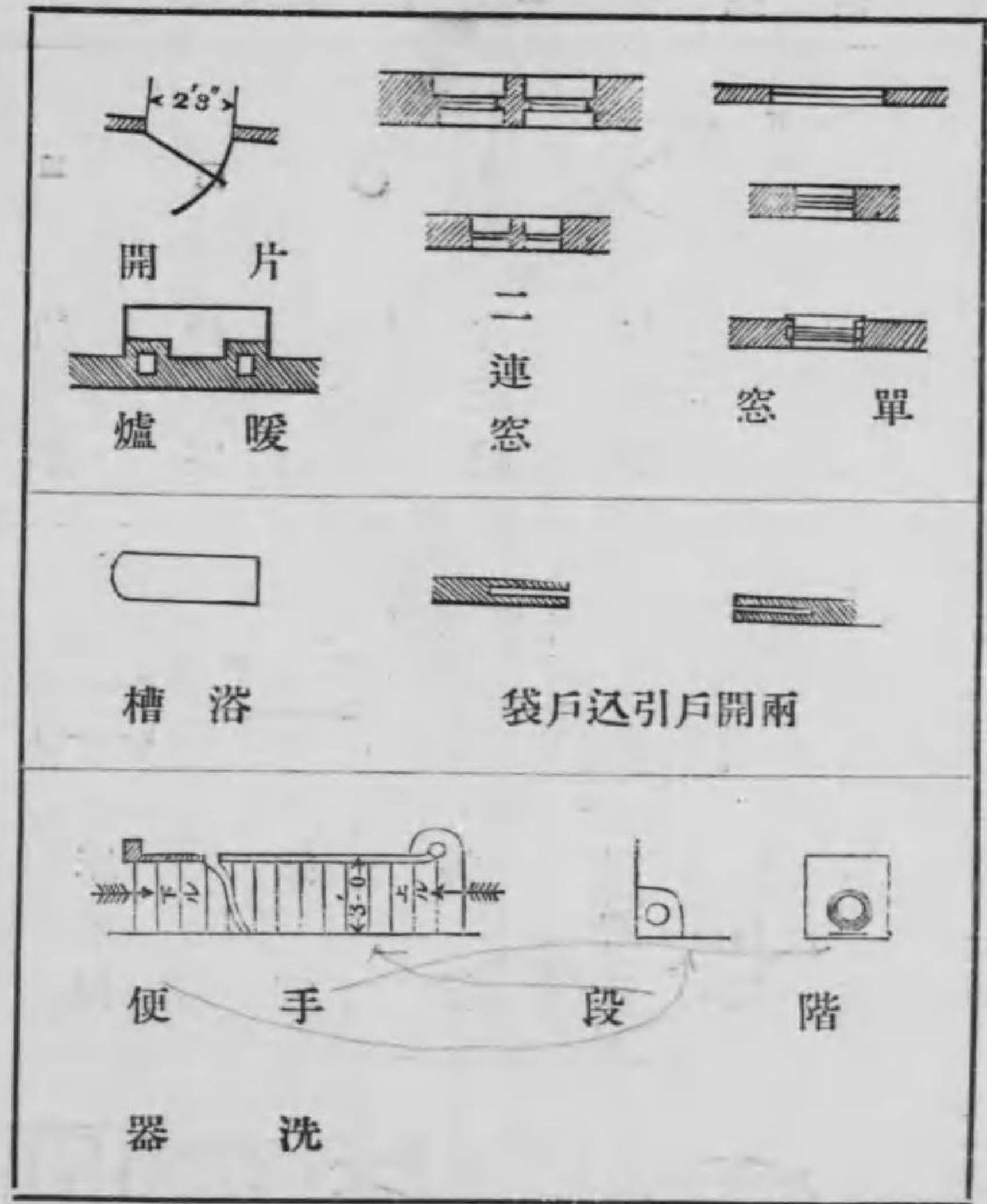


圖五十三百四第  
法示表料材築建各

	鍍鉄		煉瓦
	カレン ブリ		レキ
	青鉄		石
	ニレ丸 子		パント アバー
	鋼鉄		耐火煉瓦
	赤味勝茶 レキ ト ブリ		ガムボジ
	青銅		木
	青味勝茶		エロオカー地ニ パント シンナー ヲ以テ木屋ヲ画ク
	真鍮		コンクリート
	黄 ガムボジ		五トミンヤンインキ エロオカ
	磁土		土
	橙色 ガムボジ ト レキ		セビーア
	亜鉛及鉛		芝及草
	インヂーゴ		グリーン
	銅		
	インヂアンレッド トレキ		

中心線  
鎖線

寸法線  
二條鎖線



第四百三十四圖

西洋流建築製圖符號

備考 建築現場に於ては  
管柱を黒色にて現はし建  
登せ柱を赤色にて現はす  
事あり又た大建築にて柱  
の太さ種々ある場合には  
五寸五分角を赤色、五寸角  
を黄色、四寸五分角を綠色  
を青色等と適宜の色に區  
分し誤謬なからしむるを  
可とす。





又断面圖其他にて材料を表示する爲めには第四百三十五圖の如きものを用ひ  
色彩或は點線を以てす此材料表示法は明治三十二年十月特に工學會の撰定せ  
るものに依れり。

備考 右表示法撰定に付ての説明は載せて工學會誌第二百十二號に在り。



#### 第十四章 建築仕様法 (Specification)

仕様書とは建築工事に要する材料の性質及施工の方法等を記載するものにして、圖面に明記せられざる寸法をも記入することあり、尤も圖面に明かなれば之を略するを可とす。

仕様の書方に(甲)(乙)(丙)の三種あり。

(甲)は材料及施工の方法に付て概略記載し、特別の部分は詳記せず、單に圖面の通りと記し置くなり。

(乙)は圖面に重きを置かず、詳細に仕様を書し、大部のものを作るにあり。

(丙)は仕様書の文中に圖面を挿入して一展明瞭ならしむるなり。

仕様書を次の二種に大別する事を得。

(1) 骨組工事仕様書

(2) 仕上工事仕様書

にして(1)骨組工事仕様には敷地、地均し、根切、地業、煉瓦、石屋根、萱木部、鐵部等の諸工



事を含み之れを職分になせば土工、煉瓦工、石工大工等の諸職を含む又(2)仕上工事仕様には建具、佐官、塗師、經師、煖房、給水、衛生、瓦斯電氣、裝飾等の諸工事を含み、職分として建具、左官、硝子、塗師、鉛工、經師、鐵器、鍛冶、瓦斯燈取付、電鈴及電燈取付等の諸職を含む。

### 第一百一節 仕様書の概要及其順序

假設工事

板圍 高何間 長延何間

右仕様柱は杉押三寸五分角長二間先尖し眞々六尺間内外に割合せ根入充分にし廻り小蛸突埋立て胴縁杉中貫五通り釘打圍板杉六分板及重ね打押縁杉二番大貫三通り釘打ち上み布杉末口三寸丸太柱毎に繩結致抱柱杉押三寸五分角二間之間毎に根入五寸廻り埋立て圍ひ板へ穴切抜き棕櫚繩三ヶ所に結べめ扣同材上へ柱へ下も止め杭へ繩結致すべし。

菱竹失來 高何尺 長延何間

右仕様柱松丸太長貳間末口三寸堀建胴縁四寸廻り竹三通り繩結致し矢來子三四寸廻り唐竹先切揃へ壹間二十四本遣ひ搔付け押縁布竹四寸廻り竹貳通り結堅め扣貳間之間毎に松丸太末口三寸下も留杭打繩結致すべし。

足代 長平均何百何十間  
右仕様外廻足代地繩張渡し下幅七尺上幅六尺地盤より上布丸太迄二十七尺五寸一と側に付横布七通りノド組の方三通り布一通り柱二本五寸五分丸太桁行八尺間以内に割合せ根入三尺五寸餘板地底へ木端切又は脊板切等取集め一ヶ所毎に悉く突込み柱丸太取建根極め小蛸を以て堅固に突堅め横布及強梁並捨側布丸太共五寸、四寸五分、四寸、三寸五分丸太等取交繩結一ヶ所に付太棕櫚繩大把八ッ切七筋掛筋違及繫丸太類四寸三寸五分丸太等を以前同繩五筋掛繩結方は總て當工場見本の通結堅め捨側根入及強梁根入皿板共前同斷突込み強梁根繫丸太長四尺位に切れ丸太取集め先き尖し勾配に打込み前同斷棕櫚繩にて結堅め其他緊要の箇所は鯨等を以て打堅め又切立丸太等仕込總て係員の差圖に従ひ入念丈夫に取建つべし。



地業の部

敷地々平均 平坪 何千何百坪

右仕様敷地内の立木伐採及在來根株共掘取并に筈根草株等掘起し指圖の場所へ持運び倒れ木等片付け濕地の個所は水吐路間き高低均し方は圖而指定の標高に依り測量杭毎に切盛寸尺を記入し置き尙遣形取設斷面圖に従ひ土切取盛土等致し盛土傾斜面は能く打堅め總て盛土の箇所は地盤安定沈下を見込み盛高一割の餘盛をなし又建物下及地廻り(何尺通りは周圍地盤より何寸上りに平均し不足土は指圖の個所より掘取運搬敷均すへし但し建物其他に障礙にならざる樹木は指圖に従ひ存置すべし。

水盛遣形 現場繩張致し水杭杉末口三寸丸太を以て長六尺以内に切合先尖し隅々より格間内外其必要の場所に垂直に打込正確に水盛渡し水貫巾三寸以上厚五分以上側は削り水杭へ缺き込釘打抗頭を鵜に切る。

根伐 立坪何千何百坪

右仕様圖面に做ひ水繩張渡し地盤高低敷平均し根伐側廻り上口巾何尺下口巾何尺 丁堀間

仕切下上口巾何尺 丁堀其他隅々及中坪共深さ平均何尺圖面及現場迫形に做ひ地繩張渡し總て法(高配)付根伐致し古井等有之節は井戸底迄掘渡し割栗石に切込砂利を取交厚壹尺以内宛敷均し大蛸を以て根切地底面迄堅固に突堅むべし。根切土は係員差圖の場所へ持運び盛立つべし。

山留堰板水替所及排水路共杉丸太先尖し貳尺間以内に杭打背板腹起し手當致し内法へ杉丸太切込釘打堅め差圖の通り丈夫に取建根伐側廻り地質不良の所は前同斷取設筋違切梁共取設くべし。

割栗地業

右仕様割栗は硬質品目潰しは山砂利又は川砂利(切込砂利)使用致し割栗詰は別紙圖面に做ひ壺堀中へ割栗石一尺五寸通り目潰砂利取交せ七寸五分宛二度に敷均し拾人掛の大蛸にて差圖に従ひ堅固に突堅め上面差上げ定木を取り不陸は目潰し材料のみを敷入れ四人掛の蛸にて平坦に突締め。

混凝土地業

右仕様混凝土調合は「セメント」一、川砂二、川砂利四の割合にて好く練り合せ混凝



土巾厚等圖面の通り堰板厚七分以上側は削り裏棧二尺間以内に打着け定木に依り据付兩側の繋取をなし堅固に切張を飼ひ釘縫打留付壺打の所は箱枠に爲し前同斷据付割栗地業面は掃除の上適度に撒水を爲し練方はセメント及川砂を能く混和し砂利を適度に水濕爲したる上に盛掛け切返し漸次に清水を注ぎ掛員に於て充分混和せると認めたる上投込小蝸小棒等にて突締め繼手は段付緩勾配とし打繼の際は掃除水洗を爲し上端不陸なく打堅め總面濡菰の類を覆掛け出來得三日間日々數回水濕を爲し一週間以上を経て堰板取去り裏埋堅むべし。

(杭打地業)

一生丸太末口七寸以上八寸迄杭打

何千何百本

内

何千本 長三間半別紙圖面杭配置の通

何百本 長三間半副杭

右仕様杭生松筋良丸大曲りは徑の五分以内にして蟲傷其他故障なきものを現

場に於て皮剥致し先尖し大節又は杭頭等木造りなし。

杭頭鐵輪厚正六分中正二分大さ杭頭現品取合せ鍊鐵を以て焼割れ繼割れ等無之様入念製作致し火色の儘持込現場にて検査を受けコールタール式返塗杭頭馴染能く木削り堅固に嵌込み。

杭打方現場根切上に足代掛け歩行板置渡し車釣八十貫以上のモンキにて轉びなく杭頭平均地盤より何尺下り迄堅固に打込杭打止は機械分鍋八十貫目のもの貳間半以上を巻上げ數返打込の上三分以内下りと認めたる迄指圖に従ひ打込み地質不良の處は杭間へ副杭前同斷堅固に打込み壹本毎に検査済の上水繩張り差下定木を取り杭頭平坦に切揃へ。

杭間割栗詰 泥土を杭頭より二尺下迄浚ひ硬質割栗石を柱立に組入れ目潰し砂利を詰め込八人掛大蝸を以て二層に突堅め。

煉瓦工事之部

土中積煉瓦工事

一 燒過煉瓦何百萬本

土中煉瓦積



右仕様煉瓦積は現場造形に倣ひ地業混凝土面へ壁真及壁面墨打ち堅造形に煉瓦目盛致し焼過煉瓦を以て積立前に水浸し泡消の上使用致しモルタルはセメント一分川砂三分の割合にて混凝土上端掃除致し水にて洗ひ敷トロ充分均し煉瓦目地堅横中伏せ共一様に相成らざる様積立て煉瓦高一段毎にツギトロ致し入念積立つ。

但積立の際湿気止アスファルト工事其他諸工事及中庭水吐便所水管等は相互に打合せ工事可致土管穴は假枠を用ひ迫持に積立。

外側廻り及間仕切煉瓦積工事

- 一 外側廻り中庭側廻り共壁厚長手 何百何十何坪
- 一 二枚積片面化粧洗出し積
- 一 中仕切壁厚長手二枚積(塗下地) 何百坪

右仕様別紙圖面の通り外側通り並に中庭通り壁迫持其他共外面見え掛り總て洗出し化粧煉瓦を以て現寸圖并に形板に基き煉瓦拵致積立の前水湿し泡消の上取出し水繩張渡し堅横目地一様に不相成様煉瓦割致しセメントモルタルにて貳分五厘目地に堅造形に倣ひ村無之様積立一段毎に透目無之様上端より如

露にてモルタルを流し込み又はツギトロを致し木部取合は木煉瓦指圖の通り積込。

化粧目地塗

- 一 煉瓦壁目地塗 壁面積何坪

右仕様化粧洗出煉瓦壁汚點稀鹽酸にて入念洗落し總體水洗掃除致し目地明き不揃の箇所は缺き揃へ色村無之様色付致し赤色煉瓦の處は黒色平目地白土入煉瓦の處は白色平目地に凡て一分入り滑かに通り能く村無く塗仕上げ。

石工事之部

根石及雨押石彫刻及据付

- 一 長延何百何十間 根石豆州嶽山石仕上寸法 出成市 出成市
- 一 同 何百何十間 雨押石 同 同

右仕様根石は豆州嶽山石イ印及ロ印石相用ひ彫刻着手前に現寸圖に倣ひ鐵板にて小口型及附型を製し係員の指圖を受くべし。

腰根石は鑿切にて荒格好を造り外面はビシャン叩致し上端水垂れ一寸八分付



け見付及合口廻り一寸通り三返小叩致し壁入合端は一寸通り一返小叩致し殘餘は鑿切入念切均し裏面のみ荒石の儘に致し検査を受けたる上合口切合せ敷トロ致し一分五厘笑ひに入念据付け合口充分注トロ致すべし。

雨押石は同石鑿切致し前同斷上端水垂付け下端は圖面に示す如く水切彫り仕上は三返小叩き上端下端共壁入合場は一寸通り一返小叩き合口切合せ入念出來し敷トロ致し前同斷据付注トロ致すべし。

石養生は杭杉丸太三寸長六尺に切廻し先付け一間まに打込み上端切揃へ同板脊板幅八九寸廻し雨押上端傍取り小返に取付け鑿は地上より八寸上に一通り打付け餘は四寸明に取付け検査を受くべし。

軒蛇腹石彫刻及据付

軒蛇腹石豆州白丁場石圖面に做ひ線形及上端水返し切下げ並に水垂れ其他共見え掛總て荒取の上荒鑿切一返刃ビシャンにて村取り一返上刃ビシャンにて一返小叩一返艶削り一返入念彫刻の上水磨荒砥磨一返友石磨一返白砥を以て數返村無之様入念磨き上げ鑿樋穴彫抜き

石合口は鑿合口及重ね合口共廻り一寸五分通上小叩き致し同所中の方は刃ビシャン叩きトロ道彫取裏煉瓦積取合の處は煉瓦割に做ひ小鑿切にて總體叮嚀に仕拵へ。

繼手隅合口等は上端より渡り五寸鋸掛堅め鉛注入繫鐵物は壁入約七寸幅一時厚四分の一片先を約一寸の爪折とし太柄鐵長四寸徑五分の丸鐵鑿合口の中心毎に彫込煉瓦壁中へ引掛に積込モルタル押。

木工事之部

土臺

土臺檜赤身勝挽立<sup>上は五寸六寸</sup>木削繼手金輪隅々襟輪付小根柄に打抜き割楔締丁形及十文字取合部は蔭入れ蟻落し五寸平鋸二挺宛打。

土臺下石材へ取合の箇所はコイルタル<sup>式返塗</sup>。

火打土臺檜押四寸五分角兩端片木蔭入れ蟻落し五寸平鋸打。

繫土臺檜赤身勝丸身一寸以内繼手追掛兩端蔭入れ蟻落し五寸平鋸打。

柱



通し柱杉小節五寸角丸身見え隠れにて八分以内上下打抜き柄上三割楔締下

込栓打隅々扇柄其他支障の個所は短柄入り五寸平鋸打

管柱杉五寸角上下柄付け四寸五分鋸打

楣間柱筋違  
入口窓上下楣柱同木五分づゝ蔭入差合せ込栓打間柱同木三つ割真々一尺五寸  
間以内に割合せ上下柄付建筋違赤身大貫柱間缺込両面より取付け柱を四尺以  
下三尺以上の分中折れに取付け鋸掛堅め

軒桁及敷桁

軒桁杉<sup>六寸五分</sup>袖削り敷桁杉<sup>六寸五分</sup>丸身八分以内柱又梁位置を避たる所に於  
て繼手追掛大栓二本打隅組合せ置渡し建越し柱へ取合は蔭入れ短柄差し両面  
より四寸平鋸打

小屋廻り

小屋梁松<sup>五寸五分</sup>火打梁投掛梁共同木<sup>八寸五分</sup>共置渡し杵束同木<sup>五寸五分</sup>四方  
外に上下も造り出し柄付建合掌同木<sup>五寸五分</sup>仕掛け枝束同<sup>三寸五分</sup>差合せ梁釣巻

鐵物巾<sup>二寸五分</sup>三分六分ポルト二本づゝ合掌鼻卷鐵物同杵束繫き鐵物巾<sup>二寸五分</sup>  
丸ポルト總て女捻止めに取付け母屋杉<sup>三寸五分</sup>棟同<sup>三寸五分</sup>共繼手鎌繼にして欠込  
置渡し轉留同木<sup>二寸五分</sup>取付け隅木同<sup>三寸五分</sup>小返り付け仕掛け垂木松<sup>三寸五分</sup>廣木舞赤  
身大貫共取付け裏板松六分板刃を付打瓦座杉大小割取付け軒蛇腹請木杉<sup>四寸五分</sup>  
尻狭繼梁鼻柄仕合下も長押杉<sup>二寸五分</sup>同上雨押同木<sup>二寸五分</sup>繪様面共削り柱へ欠  
間に取付け持送り同木厚二寸五分繪様刻小穴に入れ取付け綿板同木<sup>九寸</sup>持送り  
間た浮板しやくり出し陸天井板同厚八分玉縁七分角削丸め同上<sup>一寸三分</sup>樋請同  
木<sup>一寸五分</sup>垂木鼻の分<sup>一寸三分</sup>共何れも繪様面決り削り取付け  
附屬家軒桁杉五寸押角袖削り繼手追掛大栓二本打陸梁松丸太末口六寸梁狭み  
飛物同丸太五寸共大鼓落し削り蟻に仕掛け置渡し小屋束杉四寸角削柄付建棟  
母屋隅木共同木小返り共削り繼手鎌にして置渡し極本家附屬舎共丸味無松二  
寸角一尺五寸間に取付け廣小舞二番大貫打裏板松六分板刃を付て取付け附屬  
舎の分匏削致し瓦座杉小割打便所空氣拔小屋柱桁繼梁共杉四寸五分押角削取  
付け裾廻り杉板割雨押二番大貫共削取付け簀板同木削三寸明に勾配付け取付



東建床

大引杉押四寸五分角床束杉四寸角置渡根太松二寸五分角丸身四分以内上は墨打木削三尺間以内に割合せ左右土臺へ彫仕合大引當り渡腮に置渡正二寸二分手違鯨左右より打堅め床板杉赤身勝小節中九寸内六寸外掛り四分以上の合決り根太真にて一ヶ所繼巾木板穴つき上端上々飽削正三寸五分釘一寸五分間に打張立二階床

二階梁松中五寸丸身八分以内胴差へ蔭入れ摺み腮に仕掛け徑五分ボールト締通し柱著は蔭入れ短柄差し根太掛松中四寸丸身六分以内掛心にて目違入胴着繼柱へ腮缺き二本宛貝折釘打根太松四寸敷居木梁横面へ五分深に彫込み上端木餘り鬢太に伸し梁真にて胴着に切り大釘打床板は階下同斷

出入口枳

一 出入口枳 何ヶ所

右仕様杵摺機材圖面の通り削立板決り致堅枳取合柄穴共彫兩端柱へ彫込取付迄釘打堅め堅枳上枳杉上小節材圖面の通削立羽目板其他小穴決り致隅留目違

入柄指組立上枳兩端柱へ彫込堅枳下も柄差嵌釘打堅め外部額縁同木圖面の通り線形致し隅留目違及び枳取付き小穴とも入取付釘打堅め下枳上端へ杵摺機材中八分厚一寸貳々通彫込四寸間以内に捻鋸にて締付

窓枳

上げ下げ硝子窓枳 何ヶ所

右仕様窓枳杉上小節材にて圖面の通削立仕口切彫み箱差となし釘打仕上げ上下柄差組立割楔打左右柱へ上下枳彫込大釘打取付下枳上端へ水切縁同木圖面の如く線形致し釘打取付分銅出し入口ケンドン蓋となし嵌込付溝取付方真鋸捻鋸にて一尺間以内に割合せ締付分銅隔鐵板板幅へ二ヶ所づゝ銅線貳筋掛にて釣込外部窓臺前同木圖面の通り木拵致取付見隠れより止釘打堅め内外額縁前同木圖面の通り削立面取隅留目違入取付釘打堅め

天井 漆喰塗下地

一天井木摺 平何百何十何坪

但し此内へ中真飾何ヶ所取付のこと。



一蛇腹木摺

長延何百何十何間

右仕様天井木摺打付圖面に倣ひ野縁受檜背板を以て二つ割或は三つ割に挽割  
 繼手目遠納入木煉瓦へ釘打取付野縁松山挽貳寸角下端墨打木削り繼手「イスカ」  
 に繼合せ野縁釣當り高さを極め三方削り一尺二寸間以内に置渡し野縁釣杉押  
 三寸角繼手金輪に繼合せ釣木當り欠き取三方削り四尺五寸間以内に置渡し野  
 縁下端より正四寸釘打取付野縁毎に正三寸肉付手遠録打付釣木持杉押四寸角  
 釣木當り欠き取兩端梁面へ柄差に取付釣木松六本三寸上下面を蟻付蟻柄毎に  
 正三寸釘二本宛打四尺五寸間以内に釣付木摺板杉四分板幅一寸五分以内に挽  
 割三分透にして野縁毎に年一寸釘幅へ貳本宛打張り立中眞飾檜挽落し材にて  
 圓形に仕拵縁形切彫釘打取付。  
 同蛇腹受木杉大貫繼手目遠納入木煉瓦毎に正二寸五分釘二本通り能く取付蛇  
 腹骨杉大貫を以て圖面に倣ひ縁形切刻み一尺二寸間以内に釘打取付木摺板杉  
 四分板幅一寸五分より一寸迄に挽割正一寸釘にて前同斷張り立其他附物圖面  
 の通仕拵釘打取付蛇腹蓋木摺裏棧挽落し材にて野縁上端に切込釘打取付木摺

杉三寸貫前同斷釘打堅固に張立つ

階段

概造り大階段

一ヶ所

右仕様赤身無節槻材圖面に倣ひ工作致し五寸角親柱貳本同片蓋一本共長根柄  
 付け堅牢に取付け登桁一尺二寸同壁付物一尺二寸共上端繪様決り内面段彫とも致  
 し側登桁の分は大柱又は槻梁へ小口大入に仕掛け堅牢に取付け壁付の分は煉  
 瓦壁へ登り二尺間に積込ある捻じ頭付五分棒頭にて堅牢に取付け手摺子二寸  
 角圖面の通り仕上げ眞々七寸間に上下柄造出し三本目毎に引蟻仕掛けに植付  
 け手摺笠木三寸五分繪様決り致し下端小穴彫手摺り子柄へ指し合せ兩端親柱へ  
 大入れに取付け繫鐵物共取付け段數二十五段共槻登桁内法五尺踏面一尺一寸  
 五分に相成様一寸厚板にて鼻丸面取り蹴込み板厚八分板共松材にて吸付棧三  
 本宛切り込み小穴入にして組合せ兩側登桁彫段穴へ大入に差入れ段裏中央へ  
 段請け登り梁松材にて仕付段毎に段請け登り梁へ打付け總て踏鳴りなき様可  
 寧堅牢に取付け踏板丸面鼻下端へ繪様決り四分一打付け中溜踊場へは係員指



圖の通り根太仕掛け八分厚槻板にて吸付棧切込み實矧に張立て階段裏總體兩側登桁へ漆喰小穴突き木摺下地仕上げに致し一寸巾六分板三分目透に打付け上げ葶五寸間千鳥に打付け總て見ハラハシの分は極上々鉋削り仕上

巾木

幅木板檜小節七寸七分長押挽になすも好し圖面に倣ひ線形致し羽目小穴突下も床板小穴に仕合せ取付。

羽目

内廻り羽目胴縁杉二番大貫板繼の外貳つ割一尺五寸間缺込に取付け羽目板杉厚五分幅見出し五寸内外に割合せ掛り四分の實矧見付椽甲面取り廻り總て小穴入れ胴縁へ實納肩より釘打。  
同廊下通りの分胴縁前令斷羽目板杉厚四分幅見出し七寸内外に割合せ目透一分掛り三分の合決り椽甲面取り廻り小穴入れ胴縁へ釘打。  
笠木杉柱真にて目違入胴着繼隅々襟輪止何れも壁決りより鋸打各木當り釘打  
下見張(鎧張下見)

下見板杉赤身勝小節厚六分に三分の長押挽羽重ね六分以上に決り掛け柱真にて胴着繼附柱額縁其他堅材に取合は羽刻み奥へ深く差入隅は見付板を張越し板受松一寸二三分角を打付け一方を切付雨押長押額縁其他横材上端へは決り段へ透目なく削付け同下端へは小穴入れ各木當り釘打。

建具工事之部

出入口兩開唐戸高七尺五寸 巾三尺五寸

右仕様櫨赤身勝無節堅框見付三寸五分上框見付三寸五分下框見付六寸五分腰棧見付五寸五分中堅棧見付三寸五分上横棧見付三寸五分四隅四枚柄中堅棧は上下巾中迄の差込柄鏡飾の板大小六枚厚七分板鏡決り出し廻り入子額縁線面両面造り出し入子小穴決り込取手鏡堀込み蝶番角形持出し五ッ肘組真鍮製本磨長約五吋肉厚もの建具一枚に四個枠へ彫込捻鐵締

上げ下げ窓硝子障子高七尺 巾三尺五寸

右仕様杉赤身勝上小節堅框見付二寸二分上框見付二寸二分建合見付二寸二分分見付二寸二分下框見付二寸二分隅々二枚柄組子見付八寸二分硝子棧組手横棧を通し堅棧を合差



しに爲し其他悉く打抜柄に組立、皿板著榫水切り、釣車鑄鐵製磨き徑約二吋梓へ彫込み捻鋸、分銅鑄鐵製丸棒重量建具に應じたるもの使用、釣紐上麻撚徑四分建具へ押へ鐵物及釘打分銅穴へ布を宛て千段巻に結び付締り金物鐵製磨き綿色仕上撮み握り付互平角座鐵三個宛彫込捻鋸に取付。

鏡戸 高七尺五寸  
巾三尺

右仕様杉赤身勝上小節堅框 見付二寸二分  
見付一寸二分 上下框 見付二寸二分  
見付一寸二分 帶棧 見付二寸五分  
見付一寸二分 何れも打抜柄鐵板 巾二寸五分  
厚四分 一寸五分歩み七十五度に何れも深三分以上の小穴決り込尙木釘一本宛忍打蝶番三枚釣上げ下げ金物及開止め取付召合付。

硝子工事之部

窓硝子板嵌込

一硝子板嵌込

一バテ付

大小何百枚

長延何百尺

右仕様硝子は並板厚本一分泡村捻れ等なき上等品現場に於て建具の大きに倣ひ切欠き敷バテ飼込み亞鉛三角釘打バテ押への上綺麗に艶拭をなすべし。

但しバテは英國バウクス會社製藤輪樽入の極上等品にて一樽は六百听入と稱すれども正味五百六十听即ち十四听玉四十個入なり。

左官工事之部

小舞下地壁塗

右仕様間渡蘆竹九分廻り長七八尺位一坪に付堅横十二本切込釘打搔竹二寸廻り長十二尺位四ツ割にして廿八本立横搔竹七分五厘廻り長六尺位二ツ割四十二本付 (堅一ツ七分指  
横二ツ指) 小舞繩搔立内外川土藁荒芻練合せ荒塗貫面に付渡し同土裏返し塗外廻り床下迄塗方同土海砂調合小芻練合せ中塗壁面柱内法撫通出來右の上塗土調合並仕様 (泥大津) 内外川土篩漉一分目濱芻蠣灰調合練合下地中塗四分乾きの時塗立柱間撫通し「チリ」掃除致し。

普通泥大津調合 蠣灰一石、川土二荷、濱芻二斗

壁及天井其他漆喰塗。

一壁漆喰塗

何坪何合何勺



一天井

何坪何合何勺

一蛇腹

何間何分

一中真飾繪様塗

何ヶ所

右仕様壁漆喰塗下付白漆喰塗大村直し小村直し小直し共砂漆喰塗り中塗上塗共白漆喰塗都合六返付厚六分塗仕上げ調合は掛員の指圖に従ひ混合練合せ各返毎に定規摺致し能く撫込塗立乾燥の度合を見斗らひ検査を受け隅々其他共通り能く村なき様町寧に塗立。

一天井下地漆喰塗下地植麻苧一坪に付參拾目平の分長一尺二寸に切長八分釘頭に結付八寸間千鳥に打チリの分長八寸に切長八分釘頭に結付四寸間に打下付又村直しの二返に半分づゝ十文字に塗込下付白漆喰付村直し小直し共砂漆喰塗り中塗上塗共白漆塗都合五返塗厚五分付仕上調合仕様前同斷。

一同蛇腹漆喰調合仕様前同斷別紙圖面及現寸圖に倣ひ捻れ村等なき様通り能く線形引立花形は木型にて仕捺漆喰付致し蛇腹覆上は白漆喰一返塗。

一中真飾漆喰調合其他前同斷圖面並に見本塗に基き町寧に繪様塗。

一足代は天井上塗及内廻り壁小直し迄出來したる時は足代總體取解き最寄差圖の場所へ持運び並立内廻り壁中塗上塗は總て脚立にて塗立をなすべし。

木摺壁 但し艶なし仕上

右仕様下塗南蠻漆喰八厘塗立横麻上げ五寸明き千鳥釘打厚七厘付柱間四方際漆喰髭子苧明き一寸歩に打厚一分五厘付村直し砂漆喰厚三分付中塗漆喰厚一分上塗白漆喰厚五厘三度塗ノ口塗磨艶無仕上げ。

屋根漆喰

右仕様大棟隅棟雁振、面戸、鬼板、風切、共漆喰を以て込塗軒六枚踏下げ五枚通り何れも三編仕上げに塗立。

屋根工事之部

土居葺

屋根土居葺山拵樵赤身勝板葺足一寸五分軒二枚重ね胴釘三足登り入念木羽釘共打葺立棟折長板貳枚重ね杉皮入折掛け押縁杉三寸貫打土留押縁登り貳尺間四寸廻り竹貳つ割繩巻致し取付け。



瓦葺

七七二

屋根棧瓦葺両面磨切込棧軒唐草敷平入尻釘正二寸五分釘銘々打葺土荒木田土  
壹坪四荷遣ひの割合度々切返し入通り村無之様引通し相改め葺立大棟五返隅  
棟三返廊下棟四返共包鬼板太銅針金六筋掛け釣合せ。  
金屬工事之部

軒樋鐵板厚四厘物蛇腹形打出し繼手鋸からくり半田付瓦下へ幅八寸通り折曲  
け釣鐵物四尺巾一寸五分鼻がらみへ捻鋸にて取付け掛渡し内外錆止メニ塗  
外廻りペンキ塗前同斷堅樋亞鉛鍍鐵板三十番以上徑三寸繼手前同斷打立呼樋  
同板曲せ形拵へ仕付け繫鐵物三ヶ所つゝ無双に仕合せ取付け。  
但し樋受石堅石赤色無長一尺五寸巾六寸厚四寸上小叩き彫樋致し据合せ。

塗工事之部

外廻り總體生澁二返塗。

入口窓枠建具幅木板入口庇し樋廻り共ペンキ塗下地木材の分節留樋廻りメニ  
塗致し色ペンキ四篇仕上げに塗立。

經師工事之部

襖出來合下張反古西の内袋張貳篇白半紙上張太平紙張花塗縁突中玉子引手銅  
物彫込建合せ

襖骨樁十文字カネ火打共入打立骨々中西之内簀張二返簀張押共生半紙清張中  
美濃紙上張鳥の子金交り形置紙張立神代杉柱目縁突引手銅物彫込棚小襖下張  
前同斷金銀地無地取交張立紫檀桑取交縁突銀鍍金引手彫込建合せ。

疊工事之部

疊床は乾燥せる良質撰り藁を用ひ何室は筋縫九通り表は備後又は早島引通し  
上等品縁りは良質松井田を用ひ耳板入り何室は十五通り床こ上備後四配表上  
高宮の縁付頭板入刺立敷立敷入疊床こ前同斷絹小紋縁付刺立  
敷物工事之部

間内總體ズツク敷上等品下敷糸立蒔入廻り八分足平鋸二寸間に打敷合せ廊下  
「マツト」縫合せ幅三尺通り入口共前同斷銀兩縁打

備考 仕様書式には種々あれども概略を擧げて其他を略せり。



第百二節 某邸新築西洋館仕様書

七七四

一總建坪百七十八坪二合九夕八才

木造西洋館

内 譯

○百三十六坪六合〇七才

二階建

軒高地盤より軒桁上端迄三十五尺軒出柱真より軒樋受外面迄四尺内部漆喰塗及貼付瓦外部化粧下見根石三重積屋根方形造り棧瓦葺中央に陸屋根銅板張棟飾金物付

○一坪一合六夕 控所出窓角切の處平家建

軒高地盤より軒先手摺地腹下は迄十九尺内部漆喰塗の上張付外部化粧下見根石前同斷屋根陸屋根銅板葺軒先手摺付

○十坪三合三夕三才 便所其他平家建

軒高地盤より軒桁上は迄十六尺五寸軒出柱真より軒樋受外面迄三尺根石前同斷屋根方形造り片屋根本家より附卸し棧瓦葺内部漆喰塗外部化粧下見張根石前同斷

○七坪七合八夕 車寄平家建

軒高地盤より軒先手摺蛇腹下は迄十六尺五寸屋根陸屋根作り銅板葺柱化粧キザミ腰通り手摺及屋根軒先に手摺付根石前同斷兩面見付

○二十一坪五合五夕五才 椽側平家建

軒高地盤より軒桁上は迄十六尺軒出柱真より軒樋受外面迄三尺根石前同斷屋根八十目付銅板葺柱化粧キザミ腰通り手摺付上の方持送り付

附て

階上下側通り窓

階上下間内出入片開口

同斷兩開口

便所窓

階下椽側え出口

正面玄關大入口

同内境間仕切

壹ヶ所



- 煖爐烟突 四ヶ所
- 木製階段 貳ヶ所
- 階上下階段の間 追持柱 貳ヶ所
- 階上下廣間境 追持柱 四ヶ所
- 同廊下境追持片蓋柱 四ヶ所
- 玄關上り石階段 壹ヶ所
- 椽側上り石階段 貳ヶ所
- 建具悉皆
- 便所
- ペンキ塗及ワニス塗

軒樋堅樋及鯨鯨共其他詳細圖面の通り

右仕様

- 一 現場地所高低平均水盛遣形取設の事
- 一 地形根伐側通り中仕切共上は四尺五寸 底は三尺六寸深さ三尺四寸通り煙突下平均上は九尺 底は八尺長

拾貳尺深六尺根伐致し右堀取土を最寄差圖の所へ山積致し地底大玉砂利厚五寸通り入れ四人掛り小蝸にて村無之様突堅めコンクリート側通り中仕切共三市尺五寸厚煙突下平均中九尺 長拾尺厚貳尺五寸つゞ同灰止受下長六尺幅貳尺五寸厚壹尺づゝ其調合セメント壹石灰〇五砂三砂利七の割合にて機械練に爲し厚五寸宛段々に上げ村及芋繼無之様念入打堅め前堀取之根伐土を以てコンクリート上げ揃迄小棒にて堅固に突上り埋方致し床東下方貳尺五寸 深三尺五寸づゝ根伐致し割栗石及川砂利にて堅固に突上り徑一尺貳寸以上の玉石拾貳人掛り大蝸にて堅固に突据の事

一 石積及根積煉瓦并に石裏煉瓦積遣形取建諸職工細工小屋足代登り棧橋取溜所造作足代壁方足代其他共掛渡し工事都合に依り時々盛替可致事

一 煉瓦根積側通り中仕切煖爐下共別紙圖面之通り積出し致し上等焼過煉瓦を以て都て貳分五厘目地に煉瓦壹本毎に水浸し致し芋繼村無之様注意しモルタルを以て念入積方致し根石据付の上石裏積前同斷にして中石の處及び中仕切根積の處は指圖に従ひ所々風窓積明け煉瓦積出來の上埋方前根代土を以て丁寧



に出来之事

七七八

但しモルタル調合は(セメント一、砂二)の割合にて好く混合致し使用可事致。

一 煖爐煙突四ヶ處大さ高さ別紙圖面之通り並上煉瓦を以て焚口上迫持にいたし焚口積明け煙道須焼土管大さ煉瓦壹枚角を以て段々彎曲に積込みモルタル十分に分込繼と口一段毎に致し堅牢專一に積上げ屋根上圖面の通り積出し及漆喰塗并に鑄鐵製圓管共堅固に取付之事

一 煖爐焚口前階上之分は灰止石受迫持階下には同受小壁取設圖面の通り堅固に出来之事

一 側通り根石三重積長貳尺五寸以上三尺迄の横根澤石色揃を以て寸法及水垂共圖面之通り見へ掛り三返小叩き合場切合煉瓦積込之處鑿切致し風窓圖面の通り中石の所に明け上げ櫛形に致し模様鑄鐵物小穴入に嵌込都て合口セメント口にて通り好据付之事

一 正面昇降口階段及椽側階段共都て同上横根澤石色揃長四尺以上を以て圖面の通り仕拵へ見へ掛り三返小叩き合場好セメント口にて据付之事

一 側石車寄敷石之處は都て内外兩面見付に仕拵へ丁寧にて据付之事

一 車寄四半敷石之處地形コンクリート厚八寸通り前同斷打堅め花崗石方尺貳寸以下四半石に割合セメント入敷きトロにて据付の事

一 堅樋受石相州堅石にて見へ掛り小叩き樋口彫込水流れ彫み据付之事

一 玄關及椽側敷石之處地形コンクリート厚六寸通り前同斷打堅め白黒大理石厚八分仕上げを以て隅切形模様を爲し上りは上口水磨き致し合口セメント入敷きトロにて据付の事

一 側廻り土臺栗六寸角間仕切土臺檜六寸角を以て繼手金輪繼隅々及間仕切差口納打披上げ柱及間柱柄穴彫み石及び煉瓦付の處コールタ塗いたし側廻りは側石仕上げ間仕切分は煉瓦仕上げへ馴染好据付之事

一 階上下隅々柱杉上小節材を以て柄付胴差及び化粧下見胴蛇腹等取付の仕口いたし外角さじ面取上の方彫刻致し建堅め之事

一 側通り中仕切とも通柱杉五寸五分角上下柄付胴差松五寸五分に壹尺を二階梁切口致し階上下管柱同木を以て窓脇入口脇其他に上下柄付建堅め窓上下及入



口上差物并に壁裡楣とも柱と同木を以て間柱柄穴彫り兩端柱へ柄差込栓打堅め筋違杉三寸五分を以て窓上下及び入口上并に大壁の處楣上下へ堅固に取付け上下コウガイ栓にて留方致し間柱杉二寸五分を以て通り柱及び管柱の間へ真々壹尺貳寸間以内に割合せ土臺上及び胴差楣差物等へ納入筋違に取付之處は大釘貳本宛堅固に打付の事

一床大引檜六寸角を以て上ばに根太彫下ばに床束柄穴彫り圖面之通り土臺へ取付之處は蟻掛に置渡し床束檜五寸押角を以て六尺間に建堅め水貫杉壹番大貫を以て十文字に差通しクサビ打堅め根太松二寸五分を以て上ば木作り真々壹尺二寸間に取付大釘にて打ち床板杉四寸を以て傍合決り致し片面鉋削繼手目違入傍不透様板幅に正二寸五分釘四本づゝ打ち張立廻り幅木は食堂階下廣間階段之間書齊を除くの外檜製圖面の通り上角線形付け下ば床板へ小穴入に致し取付之事

一二階梁寸法は圖面の書入に基き都て松材とし胴差上ばへ渡り腮に取付けポルトにてべ付け上ば根太彫致し圖面の通り置渡し根太松を以て真々壹尺二寸

間に割合せ三本置に二階梁へ蟻掛に取付け二階床板及幅木共階下床と同斷に出來之事

一小屋組敷桁松分五寸五分材とし繼手金輪繼陸梁仕口致し柱上へ柄打拔に置渡し陸梁火打梁合掌枿束方杖軒枿母屋其の他都て松材とし寸法は圖面の書入に基き中央陸屋根は西洋小屋に切組置渡し合掌尻べ付ホルト其他枿束下釣上げ函鐵物短冊鐵物共堅固に取付母屋陸梁上ばへ渡り腮に取り付け小返り留同木長壹尺五寸を合掌上ばへ太納入大釘にて打付隅木上ば勾配に削り繼手金輪繼タルキ配付穴彫掛渡しタルキ松二寸角を用ひ殺繼ぎ致し母屋桁上ばへツカミに取付上ばに釘彫致し大釘にて真々壹尺二寸間に取付軒樋内鼻隠松八寸五分上ば勾配に削り榘鼻へ釘にて通り好く打付廣小舞杉大貫を以て打付裏板松六分板を以て荒木の儘傍合刃付張立煙突の處小棟作り敷野地掙水取好出來中央陸屋根は母屋貳尺間以内に割合せ裏板杉板割を以て荒木の儘傍合決り致し豎板形にして瓦棟棟丸共取付の事

一階上下外廻り窓枠出來方窓臺及膳板敷居は槻材其他枿類檜無節材にて圖面之



通り上細工仕拵かたぎ無之様堅固に取付内部額縁檜同木を以て圖面之通り縁  
形面取隠釘にて細工好取付外額縁及窓上飾并窓臺下持送り共杉材にて都て圖  
面通り細工好仕拵取付の事

一階下椽側へ出口敷居椶材其他檜無節材を以て都て窓枠と同斷に取付出來之事  
一外廻り階下地覆檜三六寸を以て上匏削り繼手目違ひ入外角面取下は側石上げへ  
馴染よく土臺面へ釘打に取付之事

一化粧下見惣體杉材にて階上下窓下腰通り堅板張窓脇横板張窓上胴蛇腹下及軒  
蛇腹下鏡入子板に出來都て下見板矧目にてギンナン面取仕舞好張立附柱附長  
押とも割合圖面に做ひサジ面取釘打にて取付入子玉縁隅々留めに致し面取前  
同斷打付蛇腹杉材にて寸法線形とも圖面の通り仕拵繼手目違入にして通り好  
取付軒蛇腹受及軒蛇腹并に地板持送り彫刻物共都て杉材を以て圖面の通り上  
細工仕拵取付軒裏松六分板を以て幅四寸五分にギンナン面取上げ打に張立軒  
先下げギボン圖面の通り轆轤挽にて仕拵堅固取付軒樋受木杉材にて圖面之通  
り仕拵繼手目違入堅固に通り好取付之事

一軒樋亞鉛鍍鐵板三十番以上を以て蛇腹形に拵繼ぎ目鋸カラクリ半田付に致し  
樋受留鐵物三尺間に取付掛渡し堅樋前同鐵板を以て徑三寸五分に繼手前同斷  
にして堅樋留鐵物四尺間以内に取付呼樋鉸鯨共同鐵板にて恰好圖面にて相示  
すに付細工好仕拵取付樋惣體内部コイルタ二度塗外廻りペンキ三度塗出來之  
事

一屋根瓦葺瓦は最上等三州製兩面磨切込廣間形引掛棧瓦軒先唐草敷平瓦一匆引  
銅線にて軒押へ打付其他平葺瓦一通毎に引掛棧杉欠塚中貫二つ割を以て土居  
葺上へ通り好墨打極毎に釘打に取付瓦葺壹枚毎に引掛瓦刃口等に漆喰土飼堅  
め登り横足共通り好葺棟肌熨斗壹返割棟熨斗二返丸共都合四返棟に積上り棟  
は肌熨斗一返割熨斗一返棟丸共都合三返棟に積上り降り鬼前同線七筋合を以  
て堅固に繫付尤も谷底及び煙突際は銅板壹尺貳寸百貳拾目付を以て兩仕舞堅  
牢に出來之事

但し棟葺土は荒木田に微塵劫十分に入れ築方可致事

一屋根漆喰は軒口唐草面戸及陸屋根際葺込面戸軒通り葺上げ五枚通り棟踏下げ



四枚通り棟丸熨斗面戸谷面戸鬼板瓦漆喰共都て下付より三度塗鼠漆喰中塗仕上げ調合は粉石灰五斗蠣灰五斗角又一貫目油入濱蒔一貫目之割合にて出來の事

一中央陸屋根銅板葺八十目付銅板を以て都て斷手瓦棒に巻付に致し雨仕舞堅牢に張立棟飾金物及び隅に避雷針付金物並に正面屋根棟飾金物共鑄鋼製にて圖面の通り仕拵堅固に取付出來之事

一階上下間内出入口敷居槻材堅枠上枠共檜無節材にて寸法圖面に基き細工好差立ゆがみ無之様取付幅木留同木にて取付額縁同木を以て圖面の通り線形致し隠釘にて細工好取付出來之事

一玄關正面大入口敷居枠共槻材にて寸法圖面の通り細工好仕拵取付内外額縁同木にて線形圖面の通りに致し上細工取付外額縁上彫刻物共取付出來之事

一玄關境硝子戸仕切敷居槻材枠類檜無節材を以て圖面の通り中央二枚開き左右壹枚づゝ嵌込み上細工仕拵取付之事

一階段二ヶ所共登り桁段板蹴込み板共上等槻材にて仕拵面決り致し手摺親柱手

摺子笠木共同木を以て彫刻轆轤模様線形細面共圖面の通り上細工仕拵堅固に取付梯子裏檜無節六分板にて幅四寸にギンナン面取隠釘にて上細工張立出來之事

一食堂二重腰羽目階下廣間階段之間書齋腰羽目都て檜上等無節材を以て圖面の通り線形入子縁入子板共上細工仕拵取付之事

一階下階段及び廣間境并に階上廣間境階階段境及階上下廊下境共追持柱上等槻材にて仕拵へ下に「ベデスタル」上に「カピタル」付彫刻及恰好ゴマガラ面等は圖面の通り上細工仕拵建堅め「カピタル」上迫持漆喰塗下地木摺拵に致し迫持上空地に漆喰塗模様彫刻塗可致事

一階上下外側内部及間仕切壁共木摺下地杉三寸貫を以て巾二つ割に致し二三分明き筋違打柱間柱毎に釘壹本づゝ打付之事

一階上下各間天井木摺下地並に客室食堂書齋婦人室階段之間格天井木摺下地廻り縁松二寸角を以て廻り柱間柱等へ丈夫に打付野竿縁同木真々一尺貳寸間に置渡し釣木杉大小割にて三尺間蟻釣に致し蛇腹骨及び格縁真木共杉板割にて



蛇腹形に切拵壹尺貳寸間に取付木摺杉板割にて蛇腹形に仕拵壹尺貳寸間に取付木摺杉三寸貫二つ割に致し二三分明き堅固に据付之事。

一間内平壁及煖爐煙突及天井平漆喰塗木摺下地へ下け苧野州青麻苧面壹坪に付目方三拾目を以て長さ壹尺五寸に切り揃へ正壹寸鐵釘の頭に結び付け面貳坪に付釘六十本宛千鳥に打ち半分は下付の節摺込み半分は下げ苧致し置き砂漆喰塗致し候節殘苧塗込村無き様塗方致し上塗は上等白漆喰を以て上磨塗仕上げ銀數返念入に致し上塗迄厚六分付四篇塗仕上げ出來之事

但し食堂書齋應接處控所婦人室寢室婦人室化粧室小兒室張付下地之分は漆喰は砂漆喰仕上げにして張付下地楷材にて厚七分に仕拵村無之様取付之事

漆喰調合及塗厚

木摺下付厚一分五厘調合は	粉石灰七斗	蠟灰三斗
	角又一貫目	並濱粉一貫目
砂漆喰塗厚貳分	同	川砂三斗
	同	並濱粉八百目
村直し中塗厚一分八厘	同斷	
上塗厚七厘	同	
	二厘目節粉石灰二斗	蠟灰飛子八斗
	角又八百目	上等濱粉七百目

右調合は石灰蠟灰篩立角又は于切にて目方は使用之都度検査を受け調合可致事

一右天井蛇腹漆喰塗下ヶ苧木摺塗は平天井と同斷にして線形は圖面の通り形鏝を以て村無之様通り好く念入引方致し模様彫刻漆喰押形を以て圖面の通り上細工出來之事

一各間内天井中真飾模様漆喰にて圖面の通り上細工出來之事

一床寄木張階下廣間廣間前廊下階段之間食堂階上廣間廣間廊下共模様圖面にて相示すに付黒檀花梨鹽地槻等良材を以て模様形に倣ひ色合好取合せ寄木厚壹分五厘仕上げ乾燥充分に致し床板上ば村無之様鉋削の上隅々留め先出合好舶來膠を以て床板上ばへ傍不透様上細工に矧合張込出來の上上ば村削り致し舶來生蠟を以て艶磨念入出來之事

一玄關正面腰付唐戸欄間共木材上等槻材を以て彫刻其他圖面の通り上細工仕拵腰上線形鑄鐵物及び厚貳分大硝子板共嵌込戸一枚に真鍮製六分蝶番五丁づゝにて丈夫に釣込建合定規縁取付楊卸し金物函錠捻玉あをり止金物とも取付



欄間模様鑄鐵物及硝子板共前同斷にして嵌込出來之事

一階上下側通り窓兩開き硝子障子欄間硝子障子共框組子とも惣體檜無節造り寸法圖面に基き内面は細面取外硝子決り致し仕口面越押上細工差立泡村無之上等厚一分硝子を切込み留釘バテ付致し開き硝子戸之分は真鍮製長三寸五分上磨蝶番戸一枚を三挺づゝにて釣込み真鍮製クレモン及煽止共取付欄間硝子障子嵌込雨除けガラリ戸檜無節製にて差立前同蝶番四丁づゝにて釣込上げ下げ金物煽止共取付出來之事

一階下椽側へ出口腰付硝子障子及ガラリ戸共檜無節製前同斷に仕拵蝶番硝子障子の分四丁づゝガラリ戸の分五丁づゝ釣込グレートモン揚卸し金物アヲリ止金物共前同斷取付出來之事

一階上下間出入口開き唐戸框堅横棧共見込厚一寸六分入子縁地板共木品檜無節造りにて上細工差立扉一枚に付真鍮製厚四分上磨蝶番四丁づゝにて釣込銀鍍金座捻玉付函錠アヲリ止ニツケル製竿掛金受坪共取付兩開き之分は真鍮製揚卸し金物取付之事

一煖爐前飾火焚釜一等貳等に區分す都て前飾恰好彫刻等は圖面にて相示すに付大理石製にて上細工仕拵取付之事

但し一等之分前飾凡貳百五十圓釜凡百圓づゝ(客室食堂婦人室書齋)

二等之分前飾凡貳百圓釜凡六拾圓づゝ(應接所扣所階上下廣間小兒室)

一間内張付下張返數は骨べ張西の内紙二返箋張石州生半紙箋押へ細州紙袋張美濃紙にて都合五返張にして何れも念入に致し上張は客室絹張食堂書齋應接所扣所は印刷局製紙婦人室は佛蘭西製紙寢室夫人室化粧室小兒室は上等普通壁紙を以て繼手模様合せ致し現場寸尺取合細工好念入弛立之事

但客室上張用絹地は西陣へ注文の事

一外廻り惣體及椽側内外共見へ掛り木地之處悉皆ペンキ塗木地磨節止め致し乾割其他へバテ飼込み下塗ペンキ一返塗「ベイバ」摺致し中塗一返「ベイバ」摺致し村直し塗上塗共都合六返塗仕上げ出來之事

但色合は見本塗差出し取極之事

一間内惣體窓入口梓建具巾木膝羽目梯子段及迫持柱其他木地之處ワニス塗木地



磨致し乾割其他へバテ飼込下塗より返數壹度毎にベイバ摺致し都合五返塗仕上げ出來之事

一 扣所出窓之處土臺柱間柱筋違楣窓及外化粧下見内部木摺漆喰塗天井床井にベ  
ンキ塗ワニス塗建具共前同斷小屋陸屋根内樋造り裏板出來之上鉛板張屋根樋  
共前同斷にして軒蛇腹は本家胴蛇腹を見通しに仕拵同上手摺圖面の通り上細  
工仕拵堅固に取付出來之事

一 便所其他平家建土臺柱間柱筋違楣窓及間内合枿井に外部化粧下見土居葺軒樋  
瓦葺屋根漆喰間内木摺壁共前同斷にして屋根本家に種掛け取付附卸しに片屋  
根方形小屋松材を以て出來間内便所踏板椶材を以て上細工仕拵取付ベ  
ンキ及  
ワニス塗前同斷出來之事

一 車寄小屋を除くの外上小節杉材を以て柱化粧さざみ圖面の通り致し諸仕口い  
たし建堅め地覆及び腰手摺井に欄間持送り軒蛇腹其他圖面の通り上細工仕拵  
取付小屋松材を以て陸屋根内樋造り裏板杉板割を以て前同斷張立瓦棒丸共取  
付之上鉛板張屋根樋共前同斷に張立軒先手摺杉材にて圖面の通り仕拵堅固に

取付間内天井木製格天井圖面を以て相示すに付天井蛇腹其他上細工仕拵取付  
内外木地見へ掛り之處ベ  
ンキ塗前同斷出來之事

一 折廻し椽側小屋を除くの外惣體杉上小節材を以て地覆土臺伏込柱圖面之通り  
化粧さざみ諸仕口等致建堅め手摺笠木線形取付手摺子圖面の通り轆轤挽致し  
上下柄入に建堅め軒蛇腹下持送り及軒蛇腹井持送り下げギ  
ョーシ彫刻物共都  
て圖面の通り細工好仕拵取付小屋松材を以て圖面に倣ひ置渡し種打裏板杉板  
割にて荒木の儘傍合決りにして張立瓦棒打軒先鼻隱軒樋受共取付軒樋受樋鯨  
鯨共前同鐵板にて前同斷仕拵取付け間内天井木製格天井圖面に相示すに付天  
井蛇腹及格縁板共上細工仕拵取付け内外木地の處惣體ベ  
ンキ塗前同斷出來之  
事

一 都て堅樋下に内徑三寸廻りの土管を埋込み雨水を抜き夫より銘々最寄下水方  
へ徑四寸土管土カムリ壹尺以上にして繼手へハナ土飼込埋方水下り好伏込方  
可致事

一 以上記する處の材料にして特に品質の記載無きものは總て最上等の品にして



完全無欠の材料たることを意味するものなり

一 圖面仕様外にして小細工に渉るの工事は監督技師の差圖に倣ひ出來可致事

一 右工事建築中現場下小屋等日々掃除致し木端鼻切鉋屑等時々山積取片付可致事

一 右工事着手の上は別紙圖面に基き圖面矩計尺杖其他諸仕口線形現寸圖を製し彫刻物は見本を製し夫々検査を受仕拵方着手可致事

右仕様圖面の通り左記の廉々積り立て入札相成度事

一 大工手間 一式

但し梯子段及寄木張り除き

一 彫刻類 悉皆

但し梯子段の分は除き

一 爲人足大工手傳建方其他共(足代を)一切の事

一 大小釘鏝共悉皆

### 第三百三節 某御殿新築、日本館仕様書

建坪合計四百五拾五坪七合六勺

但壹間は六尺五寸(京間)

内 譯

百二十三坪八合三勺

甲 建家平家造

百五十八坪六合二勺

乙 同 平家造

十四坪

乙 同二階家建

百四十一坪三合一勺

丙 建家平家造

十八坪

丙 同二階家建

一 地業工業之部地形水盛不陸なき様遣形致し堀下根切巾三尺角深さ四尺より五尺迄壺堀致し割栗石及目潰し砂利入二十五人掛り眞棒胴突を以て充分突堅め  
厚三尺角一尺 通りセメントコンクリート打堅め石下根積はセメントモルタルを用ひ  
並燒過煉瓦を以て積重ねの上柱石据付

一 地覆石下地形根切巾尺五寸 深同長堀致し前同様割栗石砂利入突堅めの上同コンク



- 一 一ト打堅め地覆石柱石に仕合据付の事
- 一 床か椀下地形根切 深中二尺方 壺堀致し前同斷石入突堅め之上椀石据付の事
- 一 椽側柱下地形根切 深二尺五寸方 壺堀致し前同様石砂利入突堅め 厚中二尺方 同コンク
- 一 一ト打煉瓦石積重ね之上同石据付の事
- 一 椽東下番形 深二尺五寸方 壺堀致し割栗石及目潰砂利入突堅めし上束石据付の事
- 一 雨落石下地形根切 深中二尺 長堀致し割栗石及砂利入前同斷突堅めの上外石据付の事

石工事之部

- 一 一號家及二號家椽側東南側之打廻に別紙圖面之通り柱石及地覆石椽椀石雨落石見を掛りの分花崗石を以て五返叩きに仕上げ据付の事
- 一 一、二、三號家東南北及び中坪共柱石及地覆石椽束石共見を掛りの分新小松石を以て五返叩きに致し据付の事
- 一 一間内柱石及床か束石便所中仕切石等見え隠れの分江之浦石を以て上は二返叩きに仕上げ据付の事

(甲の家)

百二十三坪八合三勺 (但床か高三尺)

- 一 右仕様別紙圖面之通り一號家土臺椽無節物 下は五寸五分 二號三號四號家共椽同木 下は五寸五分 間仕切土臺椽押六寸角を以て削り立各々据付の事
- 一 壹號家外側柱椽真去り無節五寸四分角内側柱同木五寸角貳號三號家共柱椽真持四寸五分角椽側柱同木四寸角取建の事
- 一 壹號家外側足堅め松節物 下は五寸五分 間内同木側足堅め同木 下は四寸 指堅の事
- 一 貳號三號四號家内側足堅め松節物 下は四寸 側足堅め同木 下は三寸 指堅めの事
- 一 壹號家天井及内法貫椽節物 厚一寸七分 二三四號家内法貫は同木 厚一寸七分 指堅めの事
- 一 壹號家西南側之折廻しえ船肘木椽無節 厚一寸五分 片蓋に致し取付の事
- 一 壹號家軒桁椽上小節 下は六寸 貳號三四號家軒桁椽小節 下は一寸五分 同椽側軒桁椽上小節 下は五寸 に造立置渡しの事



一 壹號家西南側共折廻し軒先二た軒造化粧地極及飛椽極共檜上小節下は二寸六分  
 種間壹尺六寸貳分五厘宛に打付木負檜上小節下は四寸四分萱貝同木分下は四寸  
 裏甲同木下は七寸五分淀同木下は七寸化粧隅木野脊一尺六寸化粧木舞檜無節下は一寸二分木舞明き六寸より七寸迄に致し打付裏板檜無節四分板張立面  
 戸板同木六分板切込軒栝木釣鐵物を以釣堅めの事

一 貳號三號家椽側軒先一と軒造椽側種掛檜小節下は二寸八分化粧種同木四分  
 二 萱貝同小節下は四寸裏甲同木下は七寸五分淀屋同木下は七寸五分化粧隅木下は七寸五分  
 野脊一尺 同化粧木舞檜上小節下は一寸六分裏板檜無節四分板張立面戸板  
 同六分板切込の事

一 三號家便所木割都て前同斷絶る破風檜小節巾七寸五分 厚二寸 圖面及指圖に従ひ取付の事

一 壹號東側及貳號三號共高屋根之分軒先壹と軒化粧種檜小節下は二寸四分 廣木舞下は四寸淀屋下は五寸五分化粧隅木野脊一尺 下は三寸八分 裏板杉上小節四分板羽決り致し張立の事

一天井上空氣拔軒面戸板へ線形致し銅鋼張立示間置毎に一ヶ所宛取設の事  
 小屋野物之部

- 一 壹號家土居桁松一寸下は一尺 火打梁同木下は六寸五分 敷桁同木下は一寸三寸 小屋梁松丸太末口壹尺壹寸同梁狭同木末口八寸丸太出し梁末口壹尺栝木枕同木七寸角二重梁同木下は六寸五分 同梁狭末口七寸丸太繫梁及小つ梁同木下は五寸五分 軒栝木松丸太末口四寸より五寸丸太指桁及指梁松下は五寸五分 各々組立の事
- 一 貳號三、四號家敷桁松下は一尺三寸 小屋梁松末口壹尺壹寸梁狭同木末口八寸二重梁及梁狭繫梁甲乙梁火打梁指桁指梁等前同斷の事
- 一 小屋束杉押四寸五分角母屋桁杉押五寸角棟桁杉押六寸野隅木杉押四寸五分角小屋貫杉大貫指通し筋違杉押四寸角栝木押へ杉押三寸五分角種尻手押を杉押五寸角貳つ割野種松山挽貳寸角を以て送り五本打野木舞杉中貫小間返しに打立瓦棧及谷棧共松貳寸角挽違ひに挽立の事
- 一 壹號貳號家共屋根起り破風造別番圖面の通り妻飾檜小節造破風板取付前包須覆狐格子懸魚鰭共取付裏板檜小節四分板共張立の野裏板杉四分板共張立の事



- 一 屋根土居萱杉扮赤身板を以て壹寸貳分足に葺き棘折同長板貳枚重ねに葺立之上瓦足棧杉小割を以て八寸間に打付の事
- 一 屋根瓦は瓦請負方に於て京都大佛産兩面磨き面取深切込引掛棧瓦使用棟瓦南蠻漆喰土を以て葺立入隅谷の分銅板張立の事
- 一 床か大引檜押六寸角削立四尺間に置渡し床か束杉押四寸五分角削り水貫指通し根太松山挽二寸角床か板杉上小節板割張立之事但壹號家床か拾五帖の間折廻廊下は檜板目板張の事
- 一 壹號家切目椽々葛檜小節下は四寸八分椽束同木四寸五分角扱首下は三寸八分椽繫松節物四寸五分角椽根太同木下は四寸三寸切目板檜小節巾尺三寸厚二寸蟻棧松下は二寸五分縁裏天井縁杉大小割天井板杉四分板張立の事
- 一 貳號三號家椽側椽板張椽葛檜小節下は四寸五分椽束同木四寸角椽根太松節物下は三寸椽椽板檜上小節巾四寸敷目板入張立の事
- 一 壹號間内張付椽尺付二寸七分二號家同木見付二寸五分一尺二寸間に組堅め張付下地板杉四分板巾一寸五分より貳寸迄に挽割張立の上釘頭錆留め漆し指の事

事

- 一 椽側小壁々椽前同斷木摺貫張立椽床か下之分横細椽節物一寸七分 堅細縁入木摺貫張立の事
- 一 壹號外側釣束椽真去り無節五寸四分角内側釣束同木五寸角貳號三號家内側釣束椽真持四寸五分角釣椽貳寸角組立釣込椽側釣束同木四寸角縁桁取込椽打釣堅めの事
- 一 壹號敷居檜小節下は五寸貳號參號家敷居椽側之分檜小節下は四寸二分内側同木下は四寸五分埋樫入引獨鉗を以て取付の事
- 一 壹號外側鴨居檜上小節下は四寸二分内側鴨居下は四寸六分貳號參號鴨居同木下は四寸二分椽側鴨居同木三寸七分取付の事
- 一 壹號窓敷居鴨居檜小節下は四寸六分貳號三、四號同々木下は四寸一分取付の事
- 一 壹號寄敷居檜小節下は貳寸六分附鴨居檜上小節下は壹寸三分貳號三、四條家寄敷居檜小節下は壹寸四分附鴨居檜上小節下は壹寸三分取付の事
- 一 壹號内法長押及天井長押檜無節榎目下は貳寸五分上バ壹寸雨戸長押同木三寸四分



三 貳號三、四號家内法及天井長押同木下はセイ四寸三分 雨戸長押同木下はセイ四寸三分 猿頰天井廻り縁長押同木下はセイ三寸三分 壹號切目椽具押同木下はセイ三寸五分 取付之事。

但各々長押釘隠金物打立ノ事。

一 壹號椽側鴨居上薄敷居椽上小節下はセイ四寸五分 木格子同木見付九分 貫同木見付九分 内側角柄窓敷鴨居同木下はセイ四寸五分 方立同木中仕切欄間敷居鴨居同寸取

付貳號三號家椽側鴨居上薄敷居鴨居同木下はセイ四寸五分 木格子見付八分 貫見付八分 厚見付八分 五間内角柄窓敷居鴨居同木下はセイ三寸九分 貳號家中仕切欄間無目同寸取付之事

一 壹號小組格天井格間壹尺五寸八分格縁椽上小節貳寸貳分角小組骨椽無節九分 下は格板椽無節四分板張立格天井格縁前同斷格板同無節六分板蟻棧椽節物寸壹

六分壹 猿頰天井廻り縁及掉縁共椽上小節貳寸角天井板椽無節厚四寸 張立貳號家小組格天井及格天井共格間同様格縁椽上小節貳寸角小組子前同猿頰天井

三號四號共椽上小節貳寸角天井板前同様張立の事。  
一中窓掛挾椽小節下はセイ貳寸五分 同兩押二手腰屋根圖面の通り椽小節材を以て取付之事。

一 戸袋柱椽小節二寸八分角臺輪造に致し簾子椽小節造の事。

但し戸袋側板椽小節材簾子縁同椽材簾子板杉赤み無節材張立の事。

一 前側簾子下見張簾子縁椽小節見付壹寸六分 簾子棧同木見付壹寸二分 簾子板杉赤味上小節本四分板張立の事。

一 床の間落し掛一號椽無節下はセイ四寸八分 二號同木下はセイ四寸五分 取付の事。

一 床の間椽一號下はセイ四寸三分 二號下はセイ四寸五分 布着せ黒蠟色塗に致し取付の事

一 押入一二三號共上げ床か張椽小節六分板張立中棚椽小節下はセイ四寸 根太同木下はセイ五分 棚板同小節六分板張立同天井廻り縁同節物二寸角掉縁同木一寸

二分角天井板杉四分板張立の事。

一 棚廻り都て椽材柵板袋棚及び違ひ棚地板同木蹴込み板入地袋一ヶ所取付の事。

一 床の間及袋棚小天井共椽無節材を以て鏡天井張立の事。

一 建具一號椽側椽造腰障子腰舞良子入建合入側之分同腰付猿頰組障子角柄窓明り障子嵌込中窓都て紙張り障子の事。

一 二號三號家椽側之分椽造中硝子入小障子付腰舞良子入側之分腰障子建合の



事。

一杉戸框檜布着蠟色塗板杉柰板組建の事。

一號欄間長欄間框紙着蠟色塗をさ子檜無節木地造組建嵌込二號欄間杉柰造模  
様透建合の事

一雨戸及中窓雨戸框檜小節板杉赤味本四分板張立の事。

但戸蓋開戸構檜造建合の事。

一椽側開戸檜造舞良戸嵌込の事。

一襖骨は框檜小節骨榭造親骨火打板入組堅め襖張立返敷之義は上張迄十一返張  
襖椽蠟色塗取付引手金物彫込建合の事。

但襖及入側障子共襖建付取合之分ホコリ溝下セ立蠟色塗致し取付袋棚小

襖前同様張立の事。

一間内張付返敷別紙内譯書の通り上張迄十一返四分一上花塗打立の事

一疊兩面拾五通新床ハイオモテ裏表ハイオモテ近江表張立上表備後五配表薄茶高宮縁付大頭板入  
敷迄の事

但床コ疊前同様縁絹大紋縁取付の事。

一便所都て檜造内廻り糊矧羽目板張拭板間便器陶器取付の事。

但下須甕常滑燒厚三寸以上セメント叩きを以て据付の事。

一床か下空氣抜指圖に従ひ所々え角柄造檜小節材を以て木格子取付引戸或は開  
戸に致し鐵網張立の事。

一軒樋都て銅板を以て造立表坐敷之分徑五寸其他四寸五分ハ三寸五分迄黒ペン

キ塗致し鈎鐵物極木口え座鐵人鈎堅めの事。

一床か下空氣抜角柄造檜小節物下セ木格子同木壹寸四分角貫巾壹寸四分  
厚三寸四分

框指廻し引戸或は開戸に致し鐵網張立圖面之通り所々え取設の事。

一上家之儀は別紙内譯書之通り掛渡し周圍え蕙圍ひ致し建物養生軒先え假板圍  
ひ取設の事。

(乙の家)

建家百七拾貳坪六合二勺

内



百五十八坪六合貳勺

拾四坪

平家建

二階家建

右仕様

一 地業凡て甲號同斷。

一 外側柱石及び地覆石椽側柱東石戸袋柱石等新小松石を以て四返叩きに致し据付の事

一 昇降口礎盤石及敷石雨落石共前同斷据付の事。

一 床か下柱石及床か東石便所中仕切石共見え隠れの分江の浦石を以て上は二返叩きに致し据付の事。

(乙の部五號)

昇降口 梁間貳間半 桁行貳間半 五坪

一 右仕様別番圖面之通り柱椽上小節壹尺角虹梁同木 下ハハ六寸五分 大斗及び三つ

斗肘木共ガヒルマ取付軒桁同木 下ハハ八寸 置渡し化粧隅木同木 野脊壹尺 下ハハ四寸三分 化粧

種同木 下ハハ二寸三分 茅負同木 下ハハ四寸六分 裏甲同木 下ハハ八寸三分 化粧木舞 下ハハ八寸三分

下ハハ壹寸七分 裏板椽無節四分板張立の事。

一 屋根別番圖面の通り入母屋造り椽上小節材を以て妻飾前包須覆取付斗肘木虹梁大平束妻立羽目張立懸魚鰭等各々組建取付の事。

一 敷居椽上小節 下ハハ六寸三分 指鴨居椽上小節 下ハハ四寸三分 釣束同木七寸角内玄關

敷居椽小節 下ハハ四寸六分 同鴨居椽小節 下ハハ四寸四分 段板椽上小節 中壹尺貳寸 厚貳寸 中束同木

七寸角内玄關段板同小節 中壹尺壹寸五分 厚貳寸 蹴込板同木 長壹寸 雜巾摺同木 下ハハ壹寸五分

取付の事。

一格天井椽上小節造格縁貳寸角格板椽無節 大さ尺五寸五分 厚六分板 吸付棧掛け張立ての

事。

一 兩袖及指鴨居上之分白漆喰木摺壁塗立の事。

一 六號七八九號外側土臺椽節物 下ハハ五寸五分 間仕切土臺椽押六寸角削り立置渡

しの事。

一間内柱椽小節四寸五分角椽側柱同木四寸角九號二階家管柱同木四寸五分角圖

面の通取建之事。



一 間内足堅め松節物下セイ八寸五分 側足堅め同木下セイ八寸五分 指堅めの事。

一 内法貫檜節物厚セイ四寸四分 九號家壁貫杉壹番大貫指通しの事。

一 軒桁本家の分檜小節下セイ五寸三分 廊下之分同木下セイ九寸五分 椽側之分同寸種掛同木下セイ八寸五分

一 椽側化粧種檜小節下セイ貳寸七分 力種同木下セイ三寸七分 壹間毎に取付化粧隅木同木下セイ八寸五分 廣木舞同木下セイ三寸四分 淀同木下セイ五寸五分 化粧木舞下セイ九寸四分 裏板檜上小節四分板張立面戸板同六分板切込の事。

備考 通常種はセイ二寸位なれも力種は六寸位にもなす二間間位ひに背いの高き垂木を入るゝを云ふ。

一 高尾化粧種椽小節下セイ貳寸四分 廣木舞同木下セイ四寸八分 淀同木下セイ五寸五分 化粧隅木同木下セイ三寸八分 裏板杉無節四分板張立の事。

一 廊下廻り化粧種木檜小節下セイ貳寸七分 廣木舞同木下セイ三寸四分 淀同木下セイ三寸五分 裏板杉無節板張立の事。

一 軒面戸空氣抜前同斷取付の事。

一 九號二階胴指松節物下セイ六寸三分 二階梁同木下セイ七寸四分 根太掛同木下セイ七寸五分

根太同木下セイ貳寸 二階板杉上小節板割張立の事。

小屋野物之部

一 敷桁松下セイ壹尺貳寸 小屋梁松丸太末口一尺のもの置渡し梁狭末口七寸丸太二

重梁同木下セイ七寸五分 同梁狭末口六寸丸太甲乙梁同木下セイ六寸五分 小屋束杉押

四寸角母屋桁及隅木杉押四寸五分角棟桁同五寸角野種松山挽二寸角桁行筋違

杉押四寸角小屋貫杉大貫指通し野木舞杉中貫を以て小間返しに打付の事。

一 瓦棧及び谷棧共杉二寸角筋違に挽立釘打取付の事。

一 七號八號家小座敷及便所共屋根起り破風造妻飾前包及須覆狐格子懸魚共取付

其他都て起り屋根方形造の事。

一 屋根土居萱杉山扮赤身板一寸三分足に萱立棟折長扮板二枚重ね萱瓦棧前同斷八寸間に打付の事。

一 屋根瓦萱前同斷萱立隅谷銅板萱立の事。

一 床か大引杉押六寸五分 削り立四尺間に置渡し床か束杉押四寸五分角水貫脊無大貫



十文字に指通しの事。

一 根太松下セイ三寸床か板杉小節板割張立の事。

一 間内釣束檜小節四寸五分角釣杵前同様組立釣堅め椽側鈎束同木四寸角椽桁え込栓打堅めの事。

一 張付杵檜見込付寸四分組堅め糊付下地板四分板前同様張立の事。

一 敷居檜上小節下セイ四寸五分鴨居檜小節下セイ三寸九分窓敷居鴨居同寸取付の事。

一 寄敷居檜小節下セイ三寸五分附鴨居同木下セイ三寸八分取付の事。

一 内法長押檜無節下セイ三寸九分天井廻り縁長押下セイ三寸五分取付の事。

但釘隠し金物打立の事。

一 椽側無目檜小節下セイ三寸五分取付の事。

但鴨居上木格子取付の事。

一 角柄窓敷居鴨居檜小節下セイ三寸九分方立同寸中仕切欄間敷居鴨居同寸取付の事。

一 猿頬天井縁檜上小節二寸角掉縁天井廻り縁同木下セイ二寸二分掉縁下セイ二寸四分

天井板檜上小節中尺二寸四分板張立の事。

一 椽葛檜小節下セイ四寸五分椽束同木四寸角根太松節物下セイ三寸二分椽樽板上小節中尺四分

一 階段籠桁檜小節中尺二寸二分段板同木中尺四分蹴込板入裏板杉無節四分板張立押縁取付の事。

一 戸袋柱檜小節二寸八分角或は側板造之分側板檜小節中尺三寸五分臺輪造り致し籠子板張立の事。

一 中窓格子檜小節見込付九分二夕腰屋根圖面之通り取付の事。

一 外面側土臺雨押え檜下セイ三寸二分籠子骨檜小節見込付二寸五分籠子板杉赤味上小節板張立籠子割一尺間に取付の事。

一 床二框下セイ四寸三分布着せ黒蠟色塗落し掛檜無節下セイ三寸八分天井廻り縁檜上小節二寸角天井板同無節六分板吸付棧掛け張立疊床て据付けの事。

一 棚二ヶ所地板椶中全板地袋及違ひ棚付け袋棚板及下は束共同木鴨居檜上小節廻り縁入小天井張立の事。



一七號家物置仕様都て前同斷拭板杉無節板割張立内法下杉上小節巾五尺一寸羽目板張立同上壁塗立の事。

一押入拭板杉小節板割張立中棚榑檜小節下セイ四寸根太下セイ一寸八分棚板杉小節八分板張立の事。

一便所都て檜小節造内側鴨居下羽目板張同上壁塗床か樽板張朝顔及び樋箱共陶器取付の事。

但下須瓶常滑焼廻り厚三寸のセメントコンクリート叩きの事。

一床か下風窓角柄造檜小節目下セイ三寸六分前同斷鐵網張立取付の事。

一九號家階上階下共間内壁下地之分三寸竹四つ割に致し木舞搔込荒塗より中塗村直し上塗迄塗立の事。

但し上塗の處は色合は見本塗を致し掛員指圖の通り施工。

一間内張付返敷別紙内譯書之通り下張り上張り迄拾壹返張出來之上四分一上花塗同釘を以て打立の事。

一六號七八九號共中仕切鴨居上欄間杉桁造或は杉杵板を以て透し彫致し組立嵌

込の事。

一建具七號西北側八號南西北側は五ヶ所椽側檜造中硝子入小障子付腰障子同上角柄窓明り障子檜造建合同前椽側上木格子戸嵌込雲障子取付の事。

但七號南側及九號椽側之分腰障子入側同様の事。

一玄關檜造舞良戸同内明り障子雨戸榑檜小節八本棧召合目印籠決り致し戸板杉上小節本四分板張立中窓兩戸榑檜小節戸板同斷張立戸蓋開戸榑同木板杉赤味無節張立肘壺を以て釣込の事。

但中窓都て檜造紙張障子の事。

一椽側開戸檜造吹寄舞良戸釣込便所引戸及同開戸物置板戸榑檜上小節戸板杉赤味無節板張立の事。

一廊下帶戸榑檜上小節帶棧同木戸杉赤味無節板張立の事。

一下行道開戸榑檜小節板杉上小節板張立肘壺を以て釣堅めの事。

一杉戸榑紙着せ黒蠟色塗戸板杉桁板組建引手企物彫込風セイ一寸五分塗立臘色塗に致し合釘を以て取付の事。



一 襖骨椽造力骨入隅に火打板取付襖張返敷張付同斷襖縁塗立臘色塗取付引手金物彫込建合の事。

但袋棚小襖同斷の事。

一 疊兩面拾三通り新床こ裏面え琉球表張立上表備後四配表松井田縁大頭板入敷込の事。

一 軒樋都て銅板を以て徑四寸々三寸五分迄敷樋及呼樋堰板堅樋共同斷黒ペンキ

三返塗釣鐵物極木口え彫込取付の事。

一 建物養生前同斷軒先え取付の事。

一 假上家雨除けの外は建方之節船苔を以て雨養生取設けの事。

下行道 貳ヶ所 深さ三尺五寸。

右仕様側煉化壹枚積並上煉化石を以て積重ね縁石小松石下セイ七寸五分敷石同石

を以て四返叩きに致し据付水拔土管理込の事。

丙之家

建坪一百五拾九坪三合壹勺。

内

百四拾壹坪三合壹勺

平家建

拾八坪

二建家

一 右仕拂地業都て前同斷の事。

一 柱石及地覆石椽東石雨落石臺所及湯殿其他敷石見え掛り之分新小松石を以て

三返叩きに致し据付の事。

一 間内柱石及び床か東石見等見え隠れの分江の浦石を以て上は二返叩きに仕上

げ据付の事。

拾二號家

一 臺所向土臺檜節物下セイ八寸置渡し柱同木六寸五分角中央柱同木壹尺五寸角取

建の事。

一 側足堅め松節物下セイ八寸通し貫杉壹番大貫指通しの事。

一 軒桁松下セイ七寸化粧種松下セイ三寸同隅木同木下セイ六寸廣木舞檜下セイ

下セイ五寸淀同木下セイ七寸裏板杉上小節四分板張立の事。



- 一 小屋組都て削り小屋に致し敷桁松壹尺四寸角敷梁同木下セイ一尺三寸火打梁九寸
- 下セイ七寸梁狭同木末口九寸二重梁下セイ九寸飛梁壹尺角二重梁狭同木末口八寸丸太
- 組立甲乙梁及繫梁同木下セイ七寸小屋束杉押五寸角削立母屋桁及び隅木杉押六寸角削り立て棟桁杉六寸小屋貫檜中四寸一分筋違杉押四寸五分角造立種檜下セイ三寸五分
- 裏板杉赤味六分板張立の事。
- 一 中央空氣抜柱檜五寸角角連子同木見付三寸七分内無双子同木組建桁及種共松材取付の事。
- 一 床か大引杉押六寸角削り四尺間に置渡し床か束杉押四寸五分角根太松節物下セイ三寸五分水貫杉大貫指通しの事。
- 一 拭板間杉上小節赤味板割張立上り框松小節下セイ五寸入口楣檜下セイ五寸方立同木貳寸五分角取付の事。
- 一 中窓敷居鴨居檜下セイ貳寸五分木格子見付壹寸壹分雨押同木二夕腰屋根取付の事。
- 一 内法下羽目板張目板杉赤味上小節六分板張立目板打の事。

但鴨居上壁塗の事。

- 一 四帖之間平縁天井廻り縁檜小節物二寸角平縁同木下セイ壹寸三分天井板杉四分張立の事。
- 一 押入拭板張立前同様中棚框松貳寸根太松二寸角棚板杉六分板張同天井廻り縁松二寸角掉縁杉大小割天井板杉四分板張立の事。
- 一 十號十一號十三號土臺檜下セイ五寸六分間内中仕切土臺檜押六寸角削立据付の事。
- 一 十一號十三號間内柱檜小節物四寸五分角椽側及湯殿柱同木四寸角便所廻り柱同木三寸八分角相建の事。
- 但二階家取合之都合により管柱取建の事。
- 一 足堅め松下セイ八寸二分側足堅め下セイ八寸壁貫杉脊無大貫指通しの事。
- 一 十一號軒桁檜下セイ五寸五分椽側及高屋軒桁同木下セイ九寸五分化粧種同木下セイ四寸二分隅木同木下セイ三寸八分廣木舞四寸六分淀同木下セイ四寸五分裏板杉四分板張立椽側化粧同木下セイ貳寸八分絶る破風同木中七寸厚壹寸八分廣小舞同木下セイ壹寸五分



淀同木下は六寸化粧木舞杉上大小刻裏板杉四分板張立の事。

但軒先面戸板え空氣抜前同様銅網張立の事。

一二階胴指及二階梁根太床か板等乙九號同斷の事。

一小屋野之部は乙建家同斷。

但屋根起り家方形造りの事。

一屋根土居萱杉山扮赤味板一寸三分足に萱棟軒長扮板二枚重ねに萱立瓦棧前同様八寸間に打付の事。

一間内釣束檜小節四寸五分角椽側釣束同木四寸角前同様釣杵を以釣堅め候事。

一床か大引杉押五寸四尺間に置渡し床か束杉押四寸角根太松節物下ハ三寸水貫杉大貫指通し床か板杉八寸板割張立の事。

但し拭板間之分杉赤味上小節板割張立の事。

一敷居及鴨居内法廻り之分檜節物造木割都て乙建家に準しの事。

一二階梯子壹ヶ所檜造前同様の事。

一平縁天井廻り縁檜貳寸角平縁同木下ハ四寸天井板杉無節四分板張立押入

天井廻り縁松貳寸角竿縁杉大小割天井板杉張立の事。

一押入中棚前同様取付の事。

一椽側搏板張檜小節物造木割寸法前同斷張立の事。

一便所廻り内法下羽目板張羽目板杉赤味上小節六分板を以て目板張に致し同上

壁塗天井前同様張立床が檜搏板張外格子取付朝顔及樋箱共陶器取付の事。

但下須瓶常滑焼据込廻り厚三寸のセメントコンクリート叩き大便所同斷小便

使用所之分土管理込外側之溜樹取設けの事。

一拾三號土間段板檜巾尺下便所段板同木巾尺持送りを以て取付の事。

一拾號湯殿三帖之間内法長押檜無節下ハ三寸天井廻り檜小節下ハ三寸掉縁

下はセイ壹寸二分天井板杉赤味上小節四分板張立湯殿中央え空氣拔巾四尺位に造

り臺輪檜小節下ハ三寸四方え湯氣拔高四寸木格子彫込格天井張立廻り屋

根裏種掛同木下ハ三寸種同木下ハ壹寸五分裏板杉赤味本四分板張立内法下羽

目板杉赤味上小節目板張外側湯氣拔取設の事。

一間内廊下角柄窓及床か下空氣抜前同様取設の事。



- 一 外側土臺雨押檜下は三寸五分 簾子同木見付寸二分 簾子板杉赤み小節本四分板張戸袋同簾子仕立に取付の事。
- 一 壁下地三寸竹六ッ割に致し木舞搔込財塗方中塗村直し出来之上上塗蠟漆喰壁塗立の事。
- 一 建具拾三號家西側廊下之分檜造腰障子建合無地椽側共假造腰障子取付の事。
- 一 内玄關板戸及湯殿板戸共框檜戸板杉板張立其他椽側通り舞良戸及板戸雨戸廻り便所開戸共都て假造に致し建合の事。
- 一 中窓紙張障子及椽側共障子角柄窓明り障子臺所腰高障子共都て假造の事。
- 一 襖骨杉造親骨及火打板入組立骨締り紙西の内反古張立請張美濃紙反古箕張半紙反古三返張押張美濃紙請半紙請張美濃紙上張紙小型紋紙張立下張方上張迄九返張襖縁上花塗を以て取付引手金物共彫込の事。
- 一 疊新床こ掛縫拾壹通表備後尾道頭板入松井田縁仕付敷込の事。
- 一 軒樋二十八番亞鉛鍍鐵板を以て徑三寸五分より五寸迄敷樋及呼樋堅樋共同斷を以て釣込の事。

下水土管理込

- 土管徑四寸より尺貳寸迄
- 溜樹大小共貳拾貳ヶ所
- 一 右仕様別番圖面の通り水盛遣形取設け水降り壹間に付三分勾配に相定め根切致し地業突堅め土管理込繼手壹本毎にセメントモルタルにて繼合せ外廻りへ粘土卷付埋方致し小棒を以て突堅めの事。
- 一 溜樹別紙圖面の通り厚四寸のセメントコンクリト造りとし縁石新小松石四寸下は五分六寸 蓋板決り三返叩きに致し据付蓋板檜厚壹寸五分仕合せ手掛り丸環鐵物取付の事。

但溜樹土管水吐口を鐵網張立堅樋落口を鑄鐵蓋嵌込の事。

面積七百坪三夕壹才

右仕様建物敷地雨落石内より深さ平均三尺通り鋤取の上平嶋を以て漸次突堅め地盤迄盛上げの事。



### 第五百節 煉瓦造局舎仕様書例

何局舎新築工事仕様書

一 局舎煉瓦石造壹棟 建坪參百五拾坪

内

二階建 貳百參拾坪

平家建 百貳拾坪

右仕様左の如し

#### 假設物の部

一 工事着手に先ちて現寸矩計を製るべし矩計は乾燥せる良質の厚板を擇ひて地形の模様煉化石の目地石材の接手其他積合せ諸材の位置等施工上必要のものは悉く明瞭に記入すべし。

一 敷地に繩張をなして建物の位置を定め正確に水盛をなし附近に於て三ヶ所以上適宜の固定物に水準點を設け置くべし。

一 遣形は良質の厚板を用ひて縦横共に各種工事に應じて必要の記號を明瞭に現はし足代等の移動物に接觸せざる様堅固に建設け日々工事着手前一々取調べ常に正確ならしむべし。

一 コンクリート堰板迫持假枠等は相當の材料を以て丈夫に組立て使用すべし又其取外しの時期は掛官の指圖を受くべし。

一 材料置場及工作場は成るべく附近の地を擇ひて建設すべし。

一 工事中構内便宜の地に假家を設け掛官の事務所に供すべし。

但構内に設置する假建物の屋根は必不燃質物を以て葺くべし。

一 工事中は敷地堺に假板圍及假門を設け締りをなすべし。

一 足代棧橋材料取溜所等は指圖の通り堅固に取設け各所緊要の處は丈夫なる鐵線を以て結び付歩み板を充分に架け渡し時々盛り換増繩をなし常に危険の虞なからしむべし。

一 假設物の使用の終りたるときは指圖を受けて取拂ふべし。

#### 地業の部



一 根切及壺堀は別記の通り遣形に従ひ施工し其地質により崩壊の虞あるときは相當の山留をなすべし。  
 但し割栗地形の處にして根切中若し不良の地質に逢ふときは良盤まで掘り下ぐべし。

一 根切の處は地下工事の進行に隨ひ良質の土砂を擇ひ水締め或は小棒突きにして漸次埋め戻し不用のものは構外へ運び去るべし。

一 根切中に水湧出るか又は雨水の溜りたるものは相當の方法を以て排除すべし  
 一 松杭は長貳間末口五寸生丸太を用ひ皮を剥ぎ去り末口三方より殺き落し根切底へ地割をなし杭頭に鐵環を嵌め目方六拾貫目以上の鐵鏈を具ふる杭打器械を以て打ち込み杭頭切り揃へ深さ壹尺通り泥土を浚ひ取るべし若し地質不良にして杭の沈下甚しきものあるときは其部分に限り増杭又は繼ぎ杭をなさしむることあるべし。

一 杭間には硬質割栗石又は玉石及目潰砂利共入れ目方拾六貫目以上の胴突を以て突き均し杭頭貳寸通り露はし置くべし。

一 コンクリートは左記の割合に據り先づモルタルを練り上げ直に砂利を混和し毎層厚八寸乃至壹尺位に平等に順次打ち込み其接き目は必斜面になし置くべし。

コンクリートの調合

セメント 壹、 生石灰 壹、 砂 參、 砂利又は碎石 八、

一 セメントは普通の試験法に於て壹平方時に付三百六十听以上の耐伸力ありて膨脹罅裂の虞なきもの生石灰は塊狀をなせるものに限り水を撒布して沸化せしめ二十四時間以上を經過し五厘目篩に掛けて滓を去りたるものは稍粗くして稜立ちたるものを擇ひ砂利又は碎石は質硬くして大さ六分乃至壹寸二分位として何れも土氣鹽分其他有害の混和物なきものたるべし。  
 一 根切割栗石及コンクリート等の寸法左の如し。

種 別	根	敷	厚	割栗石
	深	敷	幅	
煉化石四枚壁下	七、〇〇	八、〇〇	參、〇〇	六、五〇
				壹、〇〇



煉化石四枚壁下	七、〇〇	六、五〇	參、〇〇	五、〇〇	壹、〇〇
地下室壁下	一〇、〇〇	六、五〇	參、〇〇	五、〇〇	壹、〇〇
一枚半壁下	七、〇〇	六、五〇	參、〇〇	四、〇〇	壹、〇〇
木造仕切壁下	參、〇〇	貳、五〇	壹、五〇	貳、〇〇	壹、〇〇
床 東 下	參、五〇	參、五〇	壹、五〇	參、〇〇	壹、〇〇
入口石階段下	四、〇〇		貳、〇〇		壹、〇〇
金櫃臺及壁下	參、〇〇		壹、五〇		〇、八〇
敷 石 下	一、五〇		〇、五〇		〇、八〇

一地下室床地業は相當根切をなし割栗石又は玉石及目潰砂利共厚八寸位に突き固めコンクリート厚五寸通り打ち均し置き床下及周壁の外面共土瀝青を透目なき様厚五分通り布き延べ充分濕氣の浸入を防ぎ得たる後更にコンクリート厚壹尺通りを床下全部に打ち均すべし但周壁煉瓦石中の二段は土瀝青を以て積み内外の濕氣止を聯絡せしむべし。

一各處コンクリート叩き床及煉瓦敷床の地業は大玉石交り切込砂利を五六寸通

り敷き均し充分に突き固むべし。

石工の部

一石材は鐵氣汚點斑理等なく色澤均等にして各見本の通り又は之と同等以上のものたるべし。

一各所使用の石質及加工の程度左の如し。

- (一)表通り側石は花崗石(見本第壹號)を用ゐ其第一層及第三層は四遍小叩第二層は野面にして縁を沈めて四遍小叩とす。
- (二)裏通側石各所昇降口蹴放石階段石入口石柱腰石公衆待合所敷石等は花崗石(見本第一號)を用ゐ四遍小叩とす。
- (三)公衆待合所及表階段室の腰羽目地覆石及表階段室の敷石は花崗石(見本第二號)水磨とす。
- (四)表入口額縁柱費窓圍り胴蛇腹軒蛇腹隅石裏昇降口迫持楔石庇持送り受石烟路眼鏡石は相州白丁場石三遍小叩きとす。
- (五)集配區分室工夫室地下室等の叩き土床に於ける巾木石は白丁場産の硬石を



用ゐて三遍小叩きとす。

(六)金櫃臺石及水流し縁石堅樋受石等は花崗石三遍小叩とす。

(七)梁受石及鐵柱礎石は硬石を用ひ上端小叩きにする但天井の設なく梁受石の露はるゝ所は白丁場産の硬石を用ひ線形を付け小叩とす。

(八)火爐縁石竈上石は耐火質の石を以て小叩にすへし。

一石材は總て合口約一寸五分通りは表面に同じく小叩又は水磨にして其他は正しく鑿切になすへし。

一諸石の繪樣線形石割等重要なる部分は漸次示す所の圖面に依り當型を作り之に據りて加工し又持送り楔石の如き彫刻の複雑なるものは雛形を製し之によりて工を施すへし。

一石材据付の際には淨水を以て双方の付着物を洗ひ落し遺形より引絲下絲等をなし敷きトロを充分に用ゐ目地縦横とも幅一分五厘笑に据付注ぎトロをなし乾燥の後純セメントを以て化粧目地を施すべし。

一石材用モルタルの調合左の如し。

セメント 壹、 生石灰 壹、 砂 參、

但モルタルの材料中セメント生石灰はコンクリート用のものと同じく砂は稍細かきものを選ぶべし。

一モルタルは練上後四時間以上を經過せるものは使用することを禁ず。

一石材の接合中必要の處には鐵太柄鋸又は其他の鐵物を以て指圖の通り維ぎ材を施すべし。

#### 煉瓦工の部

一煉瓦は其品質見本の通又は之と同等以上のものにして形狀正しく實質緻密にして捻れ割れ等のなきものに限るべし。

一地下用及側壁中仕切壁床束共側石下層上端通迄は燒過煉瓦(見本第一號)側通表積は色揃磨煉瓦(見本第三號)側通裏積及中切積は並燒煉瓦(見本第二號)とし表積煉瓦の中迫持用七五形等異形のものの特製品を用ふべし。

一地下室内部表積は擬花崗石(見本第四號)を用ふべし。

一煉瓦積に於ては適當の水槽數個を作り各所に配り置き其中へ煉瓦を並べ充分



に浸して使用すべし。

一 煉瓦積は其積立つべき部分を清潔に掃除し煉瓦割をなし表積煉瓦は各所割合せの都合に依り丁寧に下拵をなし一段毎に遣形より引絲下絲をなし目地幅縦横共に貳分五厘に見通し善くモルタルを充分に用ひて積上げ表積目地は深五分通り淺ひ置き積りりの後壁面の汚染を洗ひ落し化粧目地を施すべし。

一 煉瓦積は一回の高さ拾段を限りとし成るべく各處平等に積登るべし若し一端差を生ずる場合には必煉瓦の割方に隨ひ段形に積扣をなし置くべし。

一 煉瓦及石積用モルタルの調合左の如し。

- 平壁用
- セメント 壹、 生石灰 貳、 砂 五、
- 迫持用
- セメント 壹、 生石灰 壹、 砂 參、
- 化粧目地用
- セメント 貳、 砂 壹、

一 モルタルの材料は各適量の拵を用ひて配合し數度混和の上漸次淨水を注加して充分に練り上げ使用すべし但モルタルは練上後四時間を過ぎたるものは使用することを禁ず。

一 各處入口枠窓枠額縁腰羽目巾木天井蛇腹等を取付くべき所には桷製木煉瓦をコールド塗にし積み込むべし。

一 煉瓦積立中所々に銅線を積み置き石及煉瓦積等の壁面より突出せしめ養生用とし工事中損傷の虞ある部分には相當の材料を用ひて養生を施すべし。

一 金櫃臺及竈共圖面の通り積み立て外面に露はるゝ處は化粧目地をなすべし。

一 煉瓦敷は焼過煉瓦小端立にしてモルタルを充分に使用し矢筈形に敷き並べ化粧目地をなすべし。

一 爐底は焼過煉瓦小端立とし同縁同一枚積に仕上ぐべし。

一 煙突煙道には内徑七寸の方形素焼土管を積み込むべし。

一 暖房管を敷設すべき壁には内徑四吋半の鐵管を積み込むべし。

一 上便所箱漏斗共瀬戸焼青磁を用ひ下便所は白燒無地を使用すべし。



一 便所下須瓶は改良薬引本三荷入尿溜は大形藍瓶を使用し周囲は叩き土になすべし。

木工の部

一 木材は何れも腐朽乾割入皮大節等有害の瑕なき良質のものたるべく造作建具等の用材は特に乾燥せるものを選ぶべし。

一 仕様圖面中記入せる木材の寸法は總て仕上寸法を示したるものにして挽立材は正しく規定の寸尺を有し丸身なきものとし又單に何寸角とせるものは多少の丸身あるも妨なきものとす。

一 木造仕切土臺桁共成長物を使用し接手迫掛大栓にし其兩端煉瓦壁へ積込み柱上下長柄入れ楣は左右柱へ缺き込み柄差し通し何れも込栓打ち固め筋違木上下柄差しにして圖面の通り組立て鐵物を以て緊め固め兩端鐵物を以て煉瓦壁へ緊め付け間柱真々壹寸貳寸以内に配り上下共柄挿とし木摺貫分透しにして斜に張り立つべし。

一 木造仕切の用材及寸法左の如し。

名稱	用材	寸法
土臺	檜	挽立五寸角
柱	杉	五寸角
楣、胴差	同	挽立五寸角
敷桁	松	挽立五寸に七寸
桁及敷桁	杉	挽立五寸角
筋違	同	五寸角
間柱	同	挽立五寸に一寸五分
木摺貫	同	挽立三分五厘に一寸五分以内

一 階下床構造圖の通りにして大引は東上にて目違鎌に接ぎ合せ根太掛目違割接にして何れも根太彫をなして置渡し根太長物を使用し真々壹尺貳寸以内に割り合はせ中間は大引に渡り腮に仕掛け兩端は根太掛及大引に蟻落にして大釘にて打ち固め床板長物を削り矧目縦横共六分以上の合決りにして目違なき様角形鐵釘長さ板厚二倍半以上のものにて張り立つべし但地下室上耐火床上は



轉し根太を眞々壹尺五寸以内に並ぶべし。  
一階下床の用材及寸法左の如し。

名稱	用材	寸法
大引	松	挽立五寸に七寸
根太掛	同	挽立三寸に五寸
根太	同	挽立二寸に六寸
轉根太	檜	四寸角
床板	米利堅松	挽立一寸に五寸八分

一二階床の構造配置共圖面の通りに合せ梁は脊合せにして中間に鐵板を挟み  
 兩端牝螺旋付直徑八分のボルトを用ひ座鐵を當て緊め固め其他の大梁とも兩  
 端受石又は鐵梁上に架け渡し小梁と大梁の組合は段形柄に入れ鐵物を以て緊  
 め固め根太掛は長物を使用し接手割接にして煉瓦壁へ鐵物にて緊め付け根太  
 は梁に渡り腮に仕掛け接手は梁及根太掛に蟻落として大釘にて打ち固め床板  
 は長物を用て削り上げ矧目縦横五分以上の實矧きにして目違なき様鐵釘は角

形として長さは板厚二倍半以上のものを以て張り立つべし但階下に天井を設  
 けざる所は床裏總て匏削りをなし梁角及床板矧目には化粧面を取るべし。  
 一二階床の用材寸法左の如し。

名稱	用材	寸法
合せ梁	松	挽立一尺三寸に七寸二枚
梁	離れ十二尺以下	挽立一尺に七寸
同	同十三尺以上十六尺マデ	挽立一尺に八寸
小梁	同六尺以下	挽立一尺に五寸五分
同	同六尺以上七尺以下	挽立一尺に六寸
根太掛	同	挽立六寸に三寸
根太	同	挽立六寸に二寸
床杉	米利堅松	挽立一寸二分に五寸八分

一小屋の構造及配置共圖面の通り敷桁接手追掛け大栓繼陸梁接手は長三尺五寸  
 とし上端添木をなし下端に鐵板を當てボルト締にし火緊打梁及妻梁と陸梁と



の接手は段形柄にして巻鐵物及ボルトにて緊め固め合掌頭は東に納入れ短冊鐵にて両面より挟みボルト緊とし同尻は梁に柄入れ東尻は梁に柄差し共に巻鐵物を施し方杖上下柄差し母屋繼手追掛大栓にして梁及合掌に渡り腮に仕掛け矩形鐵にて轉び止を施し隅木棟木共極彫をなし種は眞々壹尺五寸に配り母屋毎に大釘にて打ち瓦葺の分は野地小舞二寸明に又石磐葺の分は裏板合決りに張り立て廣木舞長押挽にして取り付け梁挟みは梁に渡り腮にして東尻を挟みてボルト緊にすべし。

一小屋の用材及寸法左の如し。

名稱	用材	寸法
敷桁	檜	挽立五寸角
火打梁	松	挽立九寸に五寸
合掌	同	挽立一尺に五寸
隅合掌	同	挽立七寸に五寸
棟束	同	同にて 挽立五寸に五寸

杵束	同	同にて 挽立五寸に四寸
方杖	同	挽立五寸に三寸五分
母屋	同	挽立五寸に二寸五分
棟木	同	挽立四寸に六寸
隅木	同	挽立四寸に四寸
種	同	挽立二寸に二寸五分
梁挟	同	挽立六寸に二寸
廣木舞	杉赤身	挽立五寸に一寸二分、七分
裏板	杉	挽立七寸五分に七分
野地木舞	同	挽立三寸四分に六分五厘

一煉瓦壁積込の入口楣及窓楣は松挽立材を用ひ壁厚に依り圖面の通りボルトを以て綴ぢ合すべし。

一正面費軒蛇腹棟蛇腹軒飾小屋明取窓等の下地及陸屋根瓦棒共皆杉赤身材を以て圖面及現場指示の通り必要の處には繋ぎ鐵物を施し町寧に造作すべし。



一 軒樋及谷樋は亞鉛鍍鐵板張に付下地杉赤身材を以て線形勾配共付け圖面の通り指立て釣鐵物凡壹尺四五寸に割合はせ取付くべし。

一 階段室公衆待合所の天井は漆喰塗に付下地野縁接手鵝繼にして壹尺貳寸間に配り釣木蟻形に缺き込み釘緊をなし參尺間以内に釣木受又は梁根太等へ釣り壁際木煉瓦木製仕切等に釘着をなし蛇腹塗下杉材を以て圖面に倣ひ線形を施し壹尺貳寸間に取付け木摺貫を張り立つべし其用材左の如し。

名稱 用材 寸法

野縁	松	一寸七分に一寸三分
釣木	同	一寸五分に一寸二分
釣木受	杉	三寸丸太
木摺貫	同	二分に一寸五分以内

一 交換室試驗室天井は格縁付紙張にして木部見え掛りペンキ塗に付格縁蛇腹共杉小節材を用ひ線形をなし野縁釣木共漆喰塗天井に倣ひ取り付け糊付板杉四分板を幅二寸位に挽き割り飽削をなし凡壹寸透し二枚面不陸なき様に打ち上

げ野天井杉四分板を羽重に透目なき様に張り立つべし。

一局長室及應接室は板張ワニス塗格天井にして格縁蛇腹鏡板共檜小節材を用ひ構造線形共總て圖面の通りに仕上ぐべし。

一 其他の各室及廊下は板張ペンキ塗仕上げに付野縁釣木共漆喰塗天井に倣ひて取付け天井板杉長板を用ひ敷目枚入れ三分透にして角化粧面取り張り立て廻り縁接手隠し金輪隅々入輪留にて線形付け取付くべし。

一 裏階段室に小屋入口一ヶ所づゝ杉材を以て圖面の通り取設くべし。

一 各室天井空氣抜枰指圖の通りに作り金網張にして取付くべし。

一 窓及入口枰妻板及額縁腰羽巾木等の構造及形狀は何れも圖面の通りにして現場指圖に隨ひ表階段室公衆待合所局長室及應接所は檜小節材ワニス塗其他の各室は小節材を用ひペンキ塗に仕上ぐべし。

一 各所出入口沓摺は樺材を使用し窓下枰及膳板は總檜材を使すべし但沓摺膳板共幅廣きものは吸付を施すべし。

一 窓障子唐戸及其他の建具類は何れも用材塗料共枰其他に倣ひて圖面の通り指



- 立附屬金物共取付建て込むべし但唐戸框の釣元は總て檜材を用ふべし。
- 一 受付窓及私書函等の構造は圖面の通りにして柵板及持送りは樺上材其他の造作は檜無節材を用ゐ總てワニス塗に仕上ぐべし但時計及私書函錠前は現品を渡すべきに付指圖の通取付をなすべし。
  - 一 表階段は見え掛り總て樺無節真去材を用ゐワニス塗にして段板は二通りつゝ吸付を施し根太松材を以て側板に送り蟻に嵌め込み段裏板踊り場天井裏共總て圖面の通り製作し裏階段は側板親柱手摺子共檜小節真去材段板蹴込板は松小節裏板は米利堅松又は姫小松の柁板とし地下室階段は總て松材を用ひ何れもペンキ塗にして裏階段及地下室階段共段毎に沓摺鐵物を付すべし。
  - 一 階段室化粧柱外色柱頭礎盤共樺上材を以て檜様線形を施し繼ぎ鐵物をなし取付けワニス塗に爲すべし。
  - 一 上便所内外は總て檜小節材を以て造作しワニス塗とし下便所は杉小節材を用ひペンキ塗に爲すべし。
  - 一 局長室應接室の窓掛化粧枠は樺上材を以て圖面の通り製作し附屬金物共取付仕上ぐべし。

- 一 けワニス塗に仕上ぐべし。
- 一 宿直室押入廻り總て杉材を以て圖面の通りに仕上ぐべし。
- 一 同室入口踏込床框檜にて取付くべし。
- 一 電報配達人控所腰掛板及持送り共鹽地材を以て圖面の通り取付けワニス塗に仕上ぐべし。
- 一 裏通昇降口庇廻り杉小節材を以て圖面の通り仕上げペンキ塗に爲すべし。
- 一 防火戸上下機外箱は檜製同綱道は杉赤身材にて造り内面削り外面コーンタール塗にして積み込み蓋は檜製ワニス或はペンキ塗に仕上ぐべし。
- 一 電信上下機は檜杉を以て圖面の通製作すべし。
- 一 根太母屋極床板裏板の如き長物の接手は成るべく同一深に置かざる様になすべし。
- 一 煉瓦間又は石間積込用の木煉瓦は檜材を以て各所要の形に製るべし。
- 一 各部線形檜様彫刻物等は現寸圖に據りて木型雛形等を作り検査を受けたる後加工に着手すべし。



屋根及左官工の部

- 一 二階建屋根石盤葺下地及金屬板葺下地共フェルト繼目充分に重ね亞鉛鍍平鋸を四五寸歩に打ち付け張り立つべし。
- 一 石盤長尺貳幅六寸の物を以て三方切り拵え龜甲形四寸五分足に壹枚毎に銅釘亞鉛鍍平鋸二本づゝ打ち付け軒先は二枚重ね一の字繋ぎに又棟際は同板長壹尺巾六寸物を谷烟突廻り明取窓廻り共水排き善く雨漏りなき様葺き立つべし。
- 一 平家建屋根瓦葺に付土居葺杉赤身勝山扮板棟折同長板を用ひ葺き足壹寸五分に竹釘二通り五六分歩みに打ち軒端棟折共二枚重ねにして杉中貫を以て押え土止木同木を細棕欄繩巻にして凡二尺間に分ち谷棧上端小返り付け打ち付け全部上端コーラル塗をなすべし。
- 一 軒先漆喰にて瓦棧塗り出し土居葺厚二寸五分に仕上ぐべし。
- 一 屋根瓦は両面磨深切込棧瓦見本の通にて軒口敷平伏せ無地唐草谷脇袖付瓦を用ひ葺上充分に用ひ唐草及棧瓦登り四枚目毎に大棟は熨斗三遍雁振一遍登り棟は熨斗二遍棟瓦一遍に葺上ぐべし但鬼板及棟瓦は圖面の通に製造し銅線を

以て繋ぎ止むべし。

- 一 屋根瓦漆喰は唐草面戸熨斗面戸谷面戸及軒口葺上り五枚棟踏下り四枚とも三遍塗に鼠色に仕上ぐべし。
- 一 屋根用漆喰の調合左の如し。

土居塗土

生石灰四斗五升、砂貳斗貳升、角又海苔五百匁、微塵芻貳斗粘土交り土壹荷(二立方尺)

葺土

石灰參斗、砂參斗、藁芻貳斗、粘土交り土參荷半(七立方尺)

瓦棧漆喰

材 料		付 上		塗	
下	上	下	上	下	上
石 灰 七	石 灰 七	斗 七	斗 七	斗	斗
蠣 灰 三	砂	斗	目 四	目	目
角 又 海 苔 一	角 又 海 苔 一	貫	貫	貫	貫



並 苧 莠 一 貫 目 八 百 八 四二  
 瓦漆喰

石灰四斗、蠣灰六斗、角又海苔壹貫目、油莠壹貫目、松脂三百匁、粉墨適量。  
 一 内部天井同平壁及外部費軒小壁等別記の調合により平隅とも饅斑なく四遍塗に仕上ぐべし但木摺壁の分は上等青苧垂れ壹尺五寸以上に釘頭に結び付壹尺間千鳥形に打け下付及斑直しへ摺込むべし。  
 一 壁漆喰厚は天井五分平壁六分外部は壹寸以上に仕上ぐべし。  
 一 壁漆喰塗の材料は見本の通りにして調合左の如し。

同	蠣	同	石	材	料	下	付	斑直し及中塗	上	塗
(四風目)	灰(飛粉)	(四風目)	灰(三風目)			五	五	五	七	三
升	升	升	升			五	五	升	升	升

晒	苧	角	砂	材	料	下	付	中	塗	上	塗
莠	莠	又	(五風目)			百	百	百	九	百	九
十	十	海				匁	匁	匁	十	匁	十
匁	匁	苔				匁	匁	匁	匁	匁	匁

顏	苧	角	石	砂	膠	同	石	材	料	下	付	中	塗	上	塗
		又		(五風目)	灰	(四風目)	灰(三風目)			壹	斗	壹	斗	五	升
		海													
		苔													
		百													
		二十													
		匁													
		百													
		參													
		拾													
		匁													
		適													
		量													



但外部中塗に於て充分に斑直しをなし全面縦横に荒し付け置き其乾き加減を見計らひ速に上塗厚四分以上を施し仕上ぐべし。

一内部天井蛇腹及外部費等繪様塗の處は豫め見本塗雛形等を製し検査を受け塗方に着手すべし。

一叩き土は左記の調合により下層中層共上端平垣に叩き上げ縦横に截目を入れ上塗をなし目地鏝を以て四半形及二崩し形に仕上ぐべし。

用材		第一層(寸三分)	第二層(五分)	第三層(貳分)
粘土	交り砂	一〇、	一〇、	
石	灰	四、	貳、	壹、
砂				貳、
膠	灰		五、	

一地下室コンクリート床は叩き土上塗の調合により厚二分に塗り上ぐべし。

金物の部

一階段室化粧柱は外徑九吋にして壹呎四拾六呎付の鍊鐵管を用ひ上下縁坐を設

け礎石枕梁當鐵物に螺着すべし。

一郵便現業室の鐵柱は圖面に據り柱身厚六分以上にして礎盤柱頭共鑄造し前項の方法によりて据付くべし。

一合せ梁挟み鐵板厚二分の一時巾十六吋とし品質見本の通り若くは之れと同等以上のものを用ゑ接手二尺以上重ね鉸孔鑽り明け鉸鉸十八本づゝにて綴り合はすべし但接手添繼になす場合には添板同厚長三尺以上とし鉸鉸二十二本綴ぢになすべし。

一窓上梁受鐵は高六吋巾三吋にて一呎十三呎三分付の工形鋼を積み込むべし

一正面入口防火扉は圖面の通鍊鐵を以て製作し締り金物共付け軸立てに建込むべし。

一圖面裏面の入口及各所窓防火戸及床下風窓通風器共東京市芝區萱手町五番地山本重三の專賣品を用ひ圖面の通り壁中へ積み込むべし。

但防火戸枠積込の際は丈夫なる切張りを施し置き其狂を防ぐべし。

一軒樋及谷樋共に十番亞鉛鍍鐵板を用ひ繼手重ね繼銅鉸綴ちになし蠟付をなし



フェルト下及土居葺下へ深く差込み外部線形打ち出し雨漏の虞なき様丁寧  
施工し取付くべし。

- 一 堅樋前項同板を用ひ同方法を以て角形に製し頭部化粧線及漏斗共留め金物四  
尺間位に割合はせ建て込み落口塵留銅網を張るべし。
- 一 軒樋釣堅樋留め金物は何れも錬鐵を以て作り堅樋留の外部に露はるゝ處は亞  
鉛鍍をなすべし。
- 一 石盤葺陸屋根蛇腹登り棟明取窓廻り煙突際及瓦葺谷共一平方尺百二十枚付の  
銅板を用ひ接手圖面の如く銅鋳にて張り立つべし。
- 一 正面軒上飾は二十番亞鉛鍍鐵板を用ひ其線形繪様等鐵板を以て施工し難き處  
は前項同一の銅板を使用すべし。
- 一 煙突の頭部は内部矩形鐵鍍板を以て化粧をなし二十番亞鉛鍍鐵板を以て化粧  
線形とも付け鋳綴ちにして鐵付をなし繋ぎ鐵物を以て堅固に据付内部の空所  
には砂を填充すべし。
- 一 天井空氣抜には二分目真鍮金網を張るべし。

- 一 煙尖及各處煙路眼鏡穴蓋は木製亞鉛板張にして嵌め込むべし。
- 一 正面入口鐵扉同欄間階下窓手摺大棟飾飾り及床下風窓格子は圖面の通り良質  
の銑鐵を以て鑄造し鑄仕上をなして取付くべし。
- 一 地下室防火床は高六吋巾參吋一尺十三分付の工字形鐵梁を四尺間以内に  
架け渡し厚壹分の鐵板を彎曲して兩端鐵梁に緊め着け上端コンクリートを打  
ち均すべし。

- 一 唐戸腰唐戸及窓開き障子共一枚毎に其重量により蝶番三枚又は四枚つゝにて  
釣り込み取手函錠翻り止め竿掛金受壺共取付くべし。
- 一 上下窓釣り綱は厚三分の麻苧堅組繩を用ひ鐵製滑車鐵製錘及緋り金物を具へ  
又各所欄間回轉障子には軸鐵物及開閉機を取付くべし。

但二聯窓等鐵錘を容るゝの餘地なきものは鉛製を用ふべし。

- 一 建具付屬金物は總て見本品又は見本相等以上の品を擇び取付くべし。
- 一 表階段室沓摺及敷物押え金物は真鍮製模様付きを用ひ裏階段地下室階段の沓  
摺は模様付鐵板を二枚並にして螺着すべし。







- 一 三角形留釘を以て押え町寧にバテ詰をなすべし。
- 一 受付窓便所窓の硝子は艶消正壹分を用ふべし。
- 一 前面昇降口腰唐戸は厚正二分の磨き板を使用し兩面より護謨を當て特製金物にて留むべし。
- 一 屋根明取窓障子には金網漉込の厚硝子を使用すべし。
- 一 階下廊下床の中地下室明り取には三稜形厚硝子を嵌め込むべし。
- 一 經師疊敷物窓掛及日除の部
  - 一 紙張天井下張は西の内紙を以て骨しめをなし袋張二遍生漉半紙を用ひ又浮張は西の内紙を用ひて張り立て模様付鳥の子紙にて上張をなし四分一檜仕立て金色塗にして取付くべし。
  - 一 宿直員寢室疊敷に付現場本取をなし新床拾參通り掛縫にして上等備後表松井田縁付け頭板入れ刺立て敷込むべし。
  - 一 敷物下絲立莖を敷き込み各處見本品或は見本相當の品を以て左記の通り敷込むべし。

應接室

絨氈敷

(見本第一號)

局長室

同

(見本第二號)

表階段及二階廊下由太加織敷

(見本第三號)

階下廊下及何室オイルクロス敷

(見本第四號)

一 應接室及局長室窓掛地及レース共見本相等の品柄を以て縁飾附屬品共付け圖面の通取付くべし。

一 窓日除地は樺色荷蘭陀布を用ひ自由捲上機附屬金物とも取付くべし。

避雷針の部

- 一 避雷針及導線の配置は圖面の通たるべし。
- 一 尖頭部は棟飾新柱上に装置すべし。
- 一 尖頭部は形狀圖面の通りにして其大針は尖端より一尺下方の珠狀と共に一個の銅身とし又銅球に銅製の小尖鍼三本を螺着し各尖頭に金焼付を施すべし。
- 一 尖頭の金焼付は大針は長五分其量壹匁を用ひ小針は長壹寸五分にて其量各二分を用ふべし。



尖頭部と導線の接合は圖面の通り其部分を清潔に磨き導線を銅球の下に併べ二十番銅線にて堅く捲き上げ眞鍮鑊にて固着せしめ尖頭下端の穴を鐵柱の上端に嵌め込むべし。

一導線は十二番線十三個撚とし棟上にて各針を聯絡し家屋の外面に沿ふて降下せしめ其端を地中板に接續すべし。

一地中板十六番銅板を用ひて長三尺五寸幅三尺に作るべし。

一地中板と導線との接續は地中板の一邊五寸の處に長方形の穴を穿ち其一邊より穴までの両面を磨き又導線の一端凡三尺を解き引き延ばして清潔に磨き其端一尺五寸を正しく列べ地中板に通して折返し線と板と互に密接せしめ其緣より線端を一本づゝ順次に捲き上げ其部分を錫蠟にて覆ひ上に封蠟を塗抹すべし。

一地中板は地下深く常に水氣を有する處に木炭を入れて埋設すべし。

一各針の下部及其他に於ける導線の接續は線端凡二尺を解き各條を引き延ばして清潔に磨き其兩端を組合せ錫鑊を以て覆ふべし。

一避雷針の建設了りたるときは掛官立會の上試験を行ひ若し其成績不良なるときは受負者に於て相當の手直をなすべし。

#### 離 件

一仕様圖面中若疑はしき廉あるときは掛官の指圖を受くべし。

一構内は日々取片付け諸材料等の散亂せざる様注意すべし。

一掛官の承認を得ざる材料は工場に止むべからず。

一表積煉瓦又は石面等の汚染せるときは速に洗ひ落し其の儘に捨て置くべからず。

一日々コンクリート打ち石据煉瓦積の終りたる部分には相當の期間板又は苫の類を以て覆をなし置き雨雪に曝さざる様にすべし又酷寒の爲め凍結の虞あるときは一時此等の工事を見合はすべし。

### 第百六節 木造局舎新築仕様書

一總建坪 何百何拾坪



内

局舎 木造二階建何拾坪

同 平家建何拾坪

倉庫 煉瓦造平家建何拾坪

何々 同

何々 同

メ

別紙圖面之通り何縣何町何番地に建築

一局舎 木造 壹棟

割栗地形コンクリート打側石何段据外部下見板張内部壁漆喰塗格天井床板

張敷石等内外見え掛木地ペンキ塗屋根切込棧瓦葺

右仕様

地業方之部

一敷地へ建物位置繩張致遺形抗取建水貫打廻し水盛致し高低敷平均

一側通及中通

別紙圖面之通り根切丁堀致し地質に依適當の山圍養生等現場指圖之通り取設堅石割栗石目潰砂利共(貳遍或は三遍)に入一遍毎に四拾貫匁以上の真棒を以て能々突堅め上げ不陸無き様砂利敷突平均

一床東下

大引通り何尺間以内中何尺四方  
深何尺壺堀致堅石割栗石目潰砂利共入貳拾貫匁以上大蟄にて能々突堅め

一受付室 敷石下

敷石下深壹尺通り根切致厚五寸通り堅割栗石目潰砂利入前同様の大蟄にて突堅め上げ平均に砂利敷突上げべし

一側入口石段

深壹尺通り石段大きに倣ひ根切致厚壹尺通り堅割栗石目潰砂利共入前同様の大蟄にて能々突込み上げ不陸無き様砂利敷突平均すべし

一堅樋受石下

壹尺四方深壹尺根切致堅割栗石目潰砂利共入蟄にて突堅め側通り中仕切共左之調合モルタルへ水濕し洗砂利十を充分練交せ壹回

一コンクリート

厚壹尺内外にして圖面之通り打堅め之事

調 合

セメント 一



生石灰 二  
川砂 四

石方之部

- 一遺形 側石段敷及チリ等圖面に依り遺形取建目盛致へし
- 一側石 何段何石にて見付上々小叩き合口見込壹寸通り小叩き余は小鑿切圖面之通り石割致縦横二分つゝ笑を付けモルタルにて据付
- 一床東石 横指徑壹尺以上の(玉石或は切戸)を据付大蝸にて改め突を成すべし
- 一石段 何石にて圖面之通り作り見付上小叩き合口切合せモルタルにて据付段裏は煉瓦積となすべし
- 一受付室 巾木石 何石にて圖面の通り仕拵ひ上々小叩きにしてモルタルにて据付
- 一同四半石 何石にて圖面之通り四半大さ割合せ上々小叩き合口切合せモルタルにて据付
- 一入口地覆石 何石にて戸當り決り入口枳柄穴額臺其他指圖之通り仕拵ひ上小叩きモルタルにて据付

- 一煙突穴石
- 一堅樋受石
- 一モルタル調合

木材及大工方之部

- 一遺形 耐火石にて圖面之通り仕拵ひ水磨きの上取付べし
- 一側土臺 檜挽立 五寸角 何石にて見付小叩き溝彫等指圖之通り作モルタルにて据付
- 一仕切土臺 同上 五寸角 セメント 一 生石灰 二 川砂 四
- 一建登柱 杉挽立 何寸角 既成遺形を改め仕切等之遺形更に取建但建方足代天井足代等は損料ものに付雜部に出す
- 一階上下管柱 杉挽立 何寸角 繼手追掛大栓打隅々小根柄差合せ柱柄穴大脊まで彫通し据付
- 一楣 杉押 何寸角 側土臺其他共へ長柄差合せ割楔締
- 一胴差 松挽立 何寸角 圖面に示す位置を上下長柄付胴差仕口等致し建合せ込栓打上下長柄付け六尺間以内に割合せ取建込栓打窓上下及入口上共左右尾入長柄付差合せ込栓打長圖面に依り管柱間柱柄穴彫り左右建登柱へ下ば尾入小柄差合せ







て打付

一野地	同	三五分
一床大引	同	押何寸角
一同束	同	上
一同水貫	同	中貫
一根太掛	同	四寸
一根太	松	貳寸五分角
一床板	杉	中六寸以内 厚壹寸
一二階根太	松	貳寸五分
一同床板	杉	中六寸以内 厚正壹寸
一中木	松	中七寸 厚壹寸五分
一入口枳左右 及止共	杉	貳寸五分

繼手千鳥に二寸明榑木毎に釘にて打付

三尺間以内繼手腰掛鎌束柄穴彫り鼻仕口致掛合せ

上み柄差合せ下束石へ馴染能く建合せ

十文字に束へ缺き込み釘止め

柱及間柱へ缺合せ大釘止め

繼手ソギ繼壹尺五寸間以内に不陸無き様大引及根太掛へ大釘にて打付

合決り堅繼手目違止め入千鳥張込大釘打

仕掛圖面之通り仕合せ大釘打

合決り堅繼手目違止め入れ千鳥落し釘及手違絲止め張立て

階上下共圖面の通り木造り線形共致繼手目違止め入床板上

ばへ小穴に仕合せ大釘止め

圖面之通り戸決り致隅檜柄差合取付

前同斷

一同地覆	槻	貳五寸
一窓枳	杉造り	
一窓及入口上 館	杉造り	
一附土臺	杉	何何寸
一定木柱付物	同	上
一土臺上雨押	同	上
一胴蛇腹	杉材	
一軒蛇腹	同上	
一入口上霧庇 腕木	杉挽立	何何寸
一同時送り 杖	同	
一同板掛	同	
一同桁	同	
一屋根板	杉壹寸板	
一目板	杉壹寸板	

圖面及指圖之通り組立取付

圖面之通り造り取付

隅止め繼手目違止め入土臺面へ打付

下見刻み致隅止め目違止め入れ釘にて丈夫に打付

水切勾配に桂及間柱へ切込み釘打

圖面之通り木造り致し取付

同上

本家柱へ大入落し鎌差合楔打堅め釘止め

圖面及指圖之通り木造り取付ホールト締付

本家柱及間柱へ缺合せ大釘止め

腕木へ渡り腮に仕掛

圖面指圖之通り出來



一雨押	杉大小割	軒先下ばへ打付
一破風板	同 厚五分以下	長押挽重ね五分以上決り缺き堅繼手目違ひ止め入打登り
一同鼻ガラミ	杉 厚五分	圖面及指圖之通り線方致額臺共仕付取付大釘にて打付
一下見板	杉 厚五分	繼手亂繼斜に三步宛目透し打付
一窓入口額縁	杉 厚五分	圖面及指圖之通り木造り線形致堅接手目違止入れ柱及間柱
一木摺下地	杉 厚五分	へ缺き込み大釘打付
一階上 下天井臺	杉 何寸角	同上
輪	同上	同上
一同天井蛇腹	同材造	同上
一同廻り縁	同材造	同上
一同格縁	同材造	同上
一同野縁	松 二寸角	壹尺五寸間以内へ渡
一同釣木	同上	三尺間及四尺間以内に野縁蟻切込み格縁には寄せ蟻柄仕
		合せ釣木受及二階梁根太等へ釘打ち釣付

一釣木受	杉丸太末口三寸以上	小屋梁上ばへツカミ仕口致し釣木缺き致置渡し大釘止め
一天井板	杉厚何分板	圖面之通り板巾割合せ面決り等致敷目板張立
一受付窓口枠	檜無節材	圖面之通り造り取付
一同棚板	楓無節材	厚巾共圖面の通り裏棧二尺間に楓にて吸付と成し出隅入隅
一同持送り	同上	共止めにして目違止め入鯨締として取付
一私書函	無節 檜一寸板造り	圖面之通り線方及彫刻等を成し取付
一額縁類	檜造り 無節	圖面之通り蓋共仕付蝶番及錠前共仕付
一腰羽目惣體	同上	圖面及指圖之通り出來
一出入口惣體	同上	同上
唐戸共	同上	同上
一階段筋桁	楓 巾厚	圖面之通り木造り致し掛渡
一踊場梁	松 何寸	左右柱へ大入長柄差合せ込栓打
一筋桁踏止受	松 何寸角	二本並へ大引上ばへ置渡し徑六分ボールとにて締付
一踊場根太掛	松 四寸	柱及間柱へ缺合せ大貫にて打付







建具方之部

一階上下 窓硝子障子	杉造り	圖面之通り上げ下げ分銅鈞並硝子上等品切込ばて留め建合せ
一室内唐戸	同上	圖面之通り仕拵ひ眞鍮製蝶番三枚鈞込
一受付窓口建具	無節檜製一式	圖面及拵圖之通り
一同所出入口	同上	同上にして特別製上等蝶番三枚鈞込
一唐戸側入口腰唐戸	杉造り	同上にして蝶番三枚鈞込
一階段下押入唐戸	檜無節材	同上
一押入板戸	杉製	上下止め六本棧板戸引違建入
一合掌尻締付	鐵物類之部	徑八分座鐵女捻付
一同上に止め	ボールト	中貳寸短冊鐵徑六分ボールトにて締付圖面之通り
一眞束下	鐵物	厚貳寸短冊鐵にて圖面之通り
一胴差繫	函鐵物	中貳寸厚貳寸分の短冊鐵にて圖面之通り
	鐵物	厚貳寸分の短冊鐵にて圖面之通り
		同上短冊鐵圖面之通り内外より徑六分ボールトにて締付

一二階梁繫	同上
一隅定木柱	卷鐵物
一梁繼手	鐵物
一室内唐戸用	蝶番
一側入口及受付唐戸用	同上
一唐戸用	函錠
一側入口及受付室唐戸用	同上
一唐戸用	アヲリ止め
一兩開唐戸用	上げ下げ鐵物
一窓上げ下げ用	分銅
一同上	セビ車
一同締り用	鐵物

柱に當る分は柱外より函鐵ものにて卷付徑六分ボールトにて二本締付胴差を仕掛る分は徑六分ボールトに締付  
中貳寸厚貳寸短冊鐵にて卷付胴差へ徑六分ボールトにて締付  
間仕切上桁及枕梁上にて繼手になる分は渡り隠仕口致懷き  
合せ徑六分ボールトにて締付  
眞鍮製長四寸持出し磨き捻銀共  
特別上等品使用  
白玉付彫込函錠  
ニツケル或は硝子等の類にて特別上等品使用  
眞鍮製舶來品  
室内通常上等品側入口及受付室之分は特別上等品  
鑄鐵製  
眞鍮製丈夫向き舶來品  
眞鍮製



一階段手摺用

鐵物

一軒樋鈞

同

一堅樋

繋ぎ鐵物

鐵製中六分木捻締付但手摺子壹  
厚三分蛇腹は或半圓形に造り三尺間指圖之通造り取付  
 同鐵にて角形蝶番に作り五分角足付け逆目切登り四尺間に  
 取付

一軒樋

亞鉛引鐵板製

一堅樋

同

一煙突穴蓋

同上

一釘類大

一式

一銚及小ボール類

一式

圖面及指圖之通り造り落口銅網同掛合せ  
 圖面之通り角形造り繼手鋸カラクリ鯨鱗共仕付建合せ  
 圖面及指圖之通り打出し出來内外より仕付  
 使用材料に應じ指圖を受使用すべし  
 使用之箇所に適當なるもの

屋根方之部

一土居葺

赤身勝柿板

一瓦棧

杉大小割

一土留押縁

杉中貫

壹寸五分足軒先二枚棟折同長板二枚重ね四枚毎に胴釘打葺  
 登り  
 榑毎に大釘にて打付  
 軒唐草瓦尻釘其他は繩巻登り貳尺間打登り

一土居塗

土

一瓦葺

兩面磨き切込棧瓦

一大棟

調合何々厚何分塗  
 軒唐草敷平瓦相用ひ壹枚毎に尻釘打縦横通り能く葺土充分  
 相用葺登り

一下り棟

五遍葺土充分相用築登り雁振瓦小形鬼瓦相用ひ葺立て銅針  
 金壹匁引相用留方致すべし

三遍前同斷

塗師方之部

一受付室

ワニス四遍塗

一段段

同

一内外木地見え掛り

ペンキ四遍塗

受付口窓棚窓口腰羽目其他共一式見え掛り  
 階段及段裏梁包板羽目板等  
 上等白ペンキにて二遍下塗を成し色ペンキ二遍にて仕上之  
 事但上塗にはワニスを調合しバテ節留等之品質上等舶來品  
 使用之事

一屋根土居葺

コルク塗

一内部

木摺壁

柿葺之部分土居塗の前コルクにて塗立  
 下麻長壹尺五寸釘頭に結付堅横六寸間に打付下塗二遍に壹



一 漆喉

調合標準

本宛塗込下塗より上塗迄五遍塗仕上之事  
何々

一 屋根

漆喰

棟築地面戸軒面戸共込土充分になし軒先き七枚踏下け五枚  
鬼臺鬼裏厂振星漆喰共下塗南蠻漆喰之上鼠漆喰にて上塗

仕上之事

雜之部

一 宿直室

疊

床何通り何表何縁付敷込

一 窓上下用

麻繩

上麻二子捻りを三子捻りにしてボイロ引使用

一 窓掛

何品

何々機械取付仕様何々取付之事

### 第七節

雜工物料物仕樣  
注意書

### 書例

雜工事の部

一 表門

壹ヶ所

但し木造扉付ペンキ塗り

右仕様

一 別紙圖面に基き指揮に従ひ水盛遣形相當取設くべし。

一 柱下其他とも圖面の通り根伐致すへし。

一 柱下地形堅割栗石切込砂利入れ充分搗き堅め柱下當り石圖面の通り大丸石据付くべし。

一 柱檜材を以て圖面の通りに笠木繰面とも致し堀建に付當り石上端へ馴染能く据建根柵檜材にて十文字にポールトを以て締堅め地覆石下へ切張木檜材を以て左右より抱き合せ缺き込みポールトにて締堅め柱根其他とも木材埋込みになる處は總てコールタル塗りに致し根柵廻りは割栗石切込砂利にて其他は眞土を以て指揮の通り念入れに埋立つべし。

一 柱根包石及地覆石とも堅石を以て圖面の通り面取り見へ掛り小叩き仕上げ指揮の通り据方すべし。

一 門扉は總て小節杉赤味材を以て別紙圖面の通り造り帶棧及框廻りは二枚柄に



致し板は四方小穴に入れ打付け指揮の通り丈夫に出来すべし。  
一蝶番は鐵製五寸厚二分巾扉框に應じ出来扉壹枚に付三枚釣りに致し關貫は製鐵にして圖面の通り出来取付根械及切張用のボルトは徑五分丸を用ひ指揮の通りに取付くべし。

一蝶番及關貫等は光明丹錆止めの上黒ペンキを以て塗り上げ門柱扉其他とも總て色ペンキ三遍塗りに出来すべし。

○門脇其他土臺付板塀 圖面配置の通り  
右仕様

一水盛遣形指揮に従ひ相當取設くべし。

一扣柱下圖面に基き壺堀すべし。

一土臺布石下地形切込砂利を以て指揮に従ひ搗き堅むべし。

一布石白丁場石を以て面圖に基き見え掛り小叩にして据付け土付の處は小棒突き念入にすべし。

一土臺檜材を以て繼手追掛大栓打にして石上端へ馴染能く据付柱杉材を以て上

下納付通貫胴縁穴彫り笠木同木圖面の通りに造り柱納入れ置渡し通貫杉<sup>六分</sup>胴縁同木ニツ割板杉<sup>六分</sup>板兩面削り外部目板打に張立上下目板押へ杉材を以て圖面の通りに打付控柱檜材にて圖面の通りに造り根入貳尺五寸土中の部分コールタ塗り控貫杉<sup>三分</sup>圖面の通りにして木材總て見へ掛り上鉋削りにして取付け上部ボルトにて締<sup>堅</sup>むべし。

一控柱取付用ボルトは坐鐵付女捻ボルト徑五分を用ふべし。

一ボルト見え掛りの處は錆止めの上ペンキ塗りにすべし。

一木材見へ掛りの處は内外とも總色ペンキ三遍塗りにすべし。

○堀建板塀 圖面配置の通り。

右仕様

一水盛遣形指揮に従ひ相當取設くべし。

一柱下根伐圖面の通り壺堀致すべし。

一柱材檜押四寸角を以て根燒致し根入三尺以上胴縁貫杉<sup>三分</sup>四通り柱へ缺き込み打付け笠木杉材を以て圖面の通り打付板杉四分板兩面削り目板同板にて巾



一寸五分とに挽割打付控柱檜押三寸五分角を以て根入二尺五寸根焼致し埋立  
 控貫杉三分寸圖面の通り猿控にして上部ポールのにて締堅め木材見え掛内外と  
 も總て鉋削り柱根埋方は真土を以て小棒突數同致し指揮の通り埋立つべし。  
 一控柱取付用ポールは坐鐵付女捻ポール徑五分を用ふべし。  
 一ポールはコイルタ塗りにすべし。  
 一板塀内外とも生澁二遍塗りにすべし。

○堀井戸屋形付 一ヶ所

但し井戸側内法三尺屋形大さ圖面の通り。  
 右仕様

一水盛遣形指揮の通り相當取設くべし。  
 一井戸堀方指揮の通り堀下げ深さは清水水出水後水丈け六尺以上迄に堀り埋側杉  
 赤身製側厚一寸五分竹輪充分に掛け側印籠五寸以上に重ね横肌充分に詰め悪  
 水の洩れざる様出來側廻り埋方は粘土を以て能く煉り反し厚一尺位づゝ漸々  
 詰め堅め中水上三尺位までにして其餘は真土を以て一尺位づゝ入れ小棒突に

して念入れ指揮の通り埋昇り化粧側は檜製側は檜製側厚二寸鐵輪一寸五分の  
 ものにて上み二た通り下も一と通り掛け指揮の通りに据付くべし。  
 一屋形柱下根伐相當取設け地底搗堅め柱根當り石大丸石指揮の通り据付くべし  
 一柱根杓石及縁石とも硬石を以て見え掛り圖面に基き小叩にして指揮の通りに  
 据付くべし。

一柱栗材を以て根入三尺根焼致し根被同木十文字に打付小棒にて充分突き堅め  
 埋立車桁受松材を以て左右柱へ柄差し込栓打に致し車桁松材にて左右受木へ  
 蟻掛渡り腮に仕掛桁及棟母屋とも杉材を以て圖面の通り木造り致し東同木上  
 下納付け建堅め頬杖松材を以て納入取付圖面に基き指揮の通り出來すへし。  
 一屋根泥障板杉一寸板を以て繼手目違入れ打付上棟形四寸下端藥研に削り上端  
 勾配に削り打付け妻垂木形杉一寸板を以て削り圖面の通り出來打付べし。  
 一屋根葺方は亞鉛引浪形鐵板を以て繼手ニタ山重ね一尺五寸間に浪形山上より  
 釘打亞鉛引板四分丸位に切り釘頭覆ひ其周圍半田付に致し棟廻りは亞鉛引鐵  
 板を以て指揮の通り泥障板上棟とも張包み軒先へ紐鐵中六分を貳尺間に二分



丸ポールのにて取付柱毎に三分丸ポールのを以て一方は軒先鐵物へ取付け一  
方は柱へ釘打取付け頬杖と爲すべし。

一流し廻りは總てコンクリート敲きに附深さ一尺通り堀下け割栗石目潰砂利入  
大蛸を以て數回に指揮の通り搗き堅め其上へ左記の調合コンクリート厚四寸  
通り打立水吐き口徑六寸の藥掛本燒土管を埋立吐き口漏斗形に敷き上塗りセ  
メントにて厚五厘位塗り仕上ぐべし。

敲き用コンクリート調合

セメント

二、

生石灰

二、

川砂

五、

川砂利

一〇、

○揭示場

壹ヶ所

右仕様

一水盛遣形指揮に従ひ相當取設くべし。

一柱下根伐圖面に基き壺堀致すべし。

一柱根包み石は硬石を以て見へ掛り小叩き仕上圖面の通り出來据付くべし。

一柱杉及手摺廻りとも杉材にて圖面の通りに仕上柱根入三尺根椽十文字に杉材  
にて圖面の通り打付埋込みの部分は何れもコーラ塗りに致し扣柱杉材圖面  
の通り猿扣にしす貫杉八分指揮の通り取付み上み鐵ポールのにて締め堅揭示  
板掛貫杉八分を以て左右柱へ大入に致しニタ通り取付棟木鼻桁腕木とも杉材  
を以て圖面の通り組建屋根板杉一寸板を以て目板打に張立て泥障板上棟垂木  
形とも杉材を以て圖面の通り削り取付揭示板掛襲は杉六分板削り羽重ね張に  
爲すへし。

一扣柱用ポールのは徑五分のものを以て指揮の通り出來締堅むべし。

一見え掛總體屋根とも色ペンキ三遍塗りに爲すべし。

○構内水吐き下水 配置圖面の通り

右仕様

一構内下水湯沸所流し水及手洗場流し水其外雨水吐き等藥掛本燒土管本管は内  
徑八寸支管同六寸四寸曲手は異形土管を用ひ堅樋落口は雁頸形を使用し水吐  
き能き様相當勾配を付け繼手粘土充分用ひ指揮の通り押込み溜樹は煉瓦半枚



積に致しセメント入モルタルにて積立縁石は硬石を以て蓋決り致し小敲き仕上にして据付け蓋は鑄鐵製網形コールドタ塗にして取付け總て圖面に基き指揮に従ひ排水能く出來すべし。

○往來付下水 配置圖面の通り。

右仕様

一往來付下水硬石を以て圖面の通りセメントモルタルにて積立縁石見え掛り小叩き仕上其他は野面の儘合場摺り合せ据付出入口前は圖面の通り硬石を以て石蓋致し掃除の爲め取外し自在に出來すべし。

○跡掃除及地均し砂利敷

右仕様

一諸工事落成の上は構内地盤滯水なき様念入れ指揮の通り地均し致し明地へ小砂利指揮の通り敷詰むべし。

○敷地内障害物取片付

一敷地内障害物取片付は指揮の處へ取捨又古井戸のある處は土砂を以て埋立大

便瓶等あるときは何れも堀起し指揮の處に積置くべし。

○損料物

右仕様

一工事中敷地周圍へ板圍現場指示の通り取設けに付柱扣柱とも杉丸太末口三寸を以て壹間毎に埋建胴縁貫三通り欠打上部横丸太繩結致し杉六分板重ね張り押縁貫取付高さ九尺迄板張詰出入口指定の個所へ取設けに付左右柱冠木とも杉五寸以上の荒角を以て切組取建兩開き戸丈夫に造り釣込關貫締りに致し又必要と認むる場合は臨機非常口取設くべし若し工事中破損したるときは指揮に従ひ取繕工事全部落成の上は悉皆取拂ひ跡掃除まで致すべし。

一敷地内に於て諸材料置場工事下拵等に差支へたる場合は他に相當の作事場及材料置揚取設け不用となりたるときは指揮に従ひ取拂ふべし。

一足代は地形用建方并に造作向に至るまで其都度指揮に従ひ相當に取設け棧橋取溜所等は切張堅固に、取建繩結腐朽したるときは増繩致し置くべし又不用となりたるときは指揮に従ひ取拂ふべし。



一 建物配置は指揮の通り取極め要所毎に遣形取建根切建物眞々壁面石面とも悉く現し堅遣形へ煉瓦段數割入口窓二階梁小屋梁蛇腹並に石材其他積込みに關する所は一々記載し屈曲なき様入念取建工事中指揮に従ひ時々取調べ損所あるときは指揮に従ひ取締ひ不用となりたるときは指揮に従ひ取拂ふべし。

一 構内明き地へ工事係員扣所として小屋九坪取設けに付土臺及柱桁母屋棟梁とも相當のもの相用ひ廻り目板羽目張り屋根柿葺或は亞鉛引鐵板葺入口並に中窓とも取設け土臺上端へ床か板張りにして窓は引違硝子障子出入口板戸引違に造りはめ入れ戸締相當取設け不用となりたるときは指揮に従ひ取拂ひ跡片付をなし綺麗に掃除すべし。

注意書

一 右仕様中些少の部分にして一々記載せざる事柄と雖も本工事に附帶のものは總て指揮の通り請負費内を以て支辨致し出來又仕様及圖面中に明瞭ならざる廉あるときは掛官の指揮に隨ひ施工すべし。

一 工事中は各所の取締は勿論風雨其他危險の場合に際しては適宜掛官に於て豫

防を命ずべし。

一 建築材料及物品は一々掛官の検査を受くべし若し其手續を履まざるものは取付の後と雖も取換を命ずることあるべし。

一 職工中掛官の指揮に従はざるものあるときは直ちに工場の出入を差止むべし

一 工事中逐次出來の部分は充分保護を施し損傷を防ぐべし。

一 同一種類のもの二個以上あるものは先づ其一個を仕上げ検査を経たる後全數に着手すべし。

第百八節

某局「ウェブスター」低壓蒸汽式

間接煖房装置工事仕様書

一 本工事は汽罐放熱管及煽風機械を一定の機械室内に据付け汽罐に於て蒸發せしめたる蒸汽を一平方時に付五「ポンド」以下の低壓に降下して適當なる放熱面積を有せる密集鐵管中に之を放流し煽風機によりて必要なる容積の空氣を右の鐵管の外部に送り管中の蒸汽器によりて適當なる溫度に熱し氣道により之



を本館の各室に分配し各室に所要の温度を均一に維持せしむる様装置すべし

#### 汽 罐

一 汽罐は徑五呎長拾八呎の「コルニシ」形のものにして常用汽壓は一平方吋に付六拾「ポンド」に使用するものなり所用材料は胴板鏡板、煙管及鉄共に最良質の軟鋼を使用し最良の工作方法によりて製作す而て煙突を除くの外蒸汽罐附屬品として普通認識せらるゝ一切のものは遺漏なく之を具備すべし汽罐の製作を竣りたる時は監督技術官吏の立會を受けて水壓によりて一平方吋には百「ポンド」まで試験し該壓力を以て五分間放置し些少たりとも漏水又は罐の各部に永久の歪みを生ぜざるものたるべし。

#### 降 壓 瓣

一 汽罐に屬する「ストップヴァルブ」と放熱管の入口に於ける「ストップヴァルブ」との間に降壓瓣一個を設備し該瓣は汽罐に於る六拾ポンドの蒸汽を一平方吋に付五「ポンド」以下に降下し得べきものとす但し此の代用として「スロットトルヴァルブ」を使用することあるべし。

#### 放 熱 管

一 放熱管は拾組の同大同形なる密集鐵管系たるべく各一組の放熱面積は四百七拾五平方呎を有するものとす而して各組の放熱系は互に獨立して他の關係なく蒸汽放流の加減をなし得るものとす又各放熱管中に凝結する水は溜滯することなく容易に低部に排流して次項所述の装置によりて外部に排出せられ易き構造とす各放熱系は其組立を竣りたる時其蒸汽進入口に水道を連結して試験し管の接合部より漏水することなき様工作す。

#### 排 水 装 置

一 排水装置はウエフスター式「サルモスタックヴァルブ」と空氣唧筒とを連用し放熱管の低部に集まれる一切の水及蒸汽によりて排除せらるゝ空氣を容易に外部に排除し蒸汽空氣漏出に對しては自動的に瓣を閉鎖し之を阻止すべき作用を有するものとす以上の作用は凡て確實耐久にして且つ必要に際しては調整し得べき装置とす。

#### 貯水槽及給水唧筒



一前項の排水装置によりて排出せられたる水は良好なる除塵器を通過し貯水槽に導く貯水槽は排水の量に相當する大きさを有し其頂部に空氣を排除すべき管を設け補助給水の設備を完ふすべし給水唧筒は計算上前掲「コルニシ」汽罐の蒸發量の三倍以上の水量を汽罐に供給し得べき容量のものにして其形式は「メルシントン」形複働のものとする給水唧筒と汽罐との間には一個の給水チエツキヴァルプを装置し該瓣は汽罐が全汽壓に於る時に容易に内部を検査し得る様取り付くる事。

#### 煽風機械

一煽風機械は扇徑五呎のものにして正味馬力三馬力半の急速度蒸氣機械と直接に連結し(帶皮によらずして)一分間に四百五十回轉をなし實際の煽風量一分間に一萬一千立方呎以上とす右の蒸氣機械及煽風機は何れも最良の材料を以て最良の工作方法により製作し實際の運轉に際し振動若くは騒音の發せざるものにして各運動部の給油方法は最も周到に設備し少くとも一時間注油を施さずして放置し得べきものとす。

#### 氣道

一氣道は別紙圖面に示すが如く配置し其材料は凡てB.W.G二十番より厚き亜鉛引鐵板を以て製作し各接手に於て著き漏氣なき様工作す。

一新鮮空氣を煽風機械に取入るゝ氣道は十二平方呎以上の斷面積を有し高さ二十呎以上の直立筒によりて屋上より之を取入るゝ装置となし雨水の浸入を杜絶し完全に塵埃を除去すべき除塵装置を設置す。

一機械室より本館及分館に達する氣道は凡て地下を通じ該氣道と其外壁たる煉瓦若くはコンクリート溝とは厚一吋以上の適當なる熱の不導體によりて適當なる間隔に於て氣道を支持し水の滲入及熱の散逸を防止する方法を完ふす。

一建物の本部と十吋以内の距離に於て近接する場所に於ては氣道は凡て之を適當なる厚さを有する熱の不導體によりて被覆するか若くは四方に半吋以上の間隔を有する二重管とし危險豫防の設備をなす以上の何れの方法はもより難き場合にありては特に監督技術官吏の承認する適當なる方法によることを得べし氣道の外氣に直接する部分に於ては亦適當なる防熱装置を施す。



- 一本館階上同階下分館階上及同階下は何れも獨立に熱氣の加減をなし得る適當の調整弁を設備す。
- 一 煽風機械より放熱管に入る氣道の外に側道を設け輸送空氣の全量若くは其一部分を放熱器を通過せずして側道によりて本氣道に入らしむるの裝置を設備す。

## 給水孔

- 一 各室に設くる給氣孔は適宜の裝飾を有する鑄鐵製格子或は鑄鐵框に網鐵板を取り付けたるものを用ひ其孔の集合面積は之れより室内に進入する空氣の速度が一秒間に三呎を超過せざる様に製作す。 以上

### 第百九節 某廳舍基礎混凝土抗打

#### 工事仕様書

## 水盛遣形

- 一 建物位置は別紙圖面に基き繩張を爲し水杭杉押三寸角堅牢に打立て、杭頭鵝

に切り水貫杉大貫側は通り能く削り杭木に缺込釘打正確に水盛をなし掛官の検査を受け必要の寸法を記入すべし。

## 杭打

- 一 各杭位置は圖面に依り掛官の指揮に従ひ正確に之を定むるものとす。
- 一本杭上端の建物地盤よりの距離は圖面に依り杭長さは尖端迄約三十七尺とす但長さを施工中の狀況に依り多少伸縮することあるべし。
- 一本尖はベテスタル式混凝土杭とし該式特有の工法に據り施工するものとす。
- 一 穿孔作業はベテスタル式機械を用ひ内外二重に裝置せる鋼鐵製の圓筒管を建物地盤より三千封度の蒸汽ハンマーにて打込み漸次地中に穿入せしめ所定の深さに達せしむるものとす。
- 一 穿孔作業の終りたる時は内管を引抜き外管中に混凝土の一定量を投入したる後内管を挿入して蒸汽ハンマーにて打叩き其の尖端を以て混凝土を突き擴げつゝ此の作業を反覆し充分に底部の土壤を強壓せしめ外管下に球塊を形成するに至りて止む但球塊は所定の荷重を安全に支ふるに足る可き形狀及大きさとす。



す。

次で内管を撤去し外管中に混凝土を投入し幹柱全部を満したる後重りを以て混凝土を押へつゝ徐々に外管を抜去り鐵筋を圖面に従ひ所定の深さに挿入し杭の幹柱となる可き部分を製作するものとす。

一 混凝土の配合

幹柱頭

底部(即ち塊狀部)

セメント(容量)

一

一

砂 (容量)

二

三

砂 利 (容量)

四

六

一 セメントは別記試験に合格したるものたるべし。

一 砂は川砂にして土氣を含まず草根貝殻其他有害物を夾有せざる堅硬稜角多き粗粒の良品たること。

一 砂利は川砂利とし泥土塵芥等を混入せず品質堅硬にして大さ徑一寸(底部一寸五分)以下の大小混合の此宜しきを得たるものたること。

一 混凝土杭打止めの沈下測定は球塊製作の打止めにて測り十回合計一吋半以内とす。

一 混凝土杭は五十噸以上の荷重に堪へ得るものたるを要す。

鐵筋

一 杭の上部に挿入す可き鐵筋は徑六分軟鋼丸棒を用ひ有害なる附着物又は甚しき錆等のなきものとす。

一 鐵筋の上端は約三吋折曲げ圖面の通り所定の位置に挿入し杭完成後は其の露出せる部分を純セメントを以て塗抹し防錆と爲すべし。

杭頭

一 各杭は打立ての際所定の長さ以上に製作し置き適當の硬化を待て杭廻り根切をなし杭頭を所定の長さに切縮め且つ補修等總て適當の方法に依り總て掛官の指圖に従ひ杭上端不陸なく完全に施工すべし。

一 鐵筋は軟鋼を用ひ之を二つ折になすも其凸部に毫も破斷の徴を顯はさざるものにして有害なる附着物錆等なきものとす。



セメント試験

一セメントは明治三十八年二月農商務省告示第三十五號(同四十二年十二月十日同告示第四百八十五號ノ改正條項參照スヘシ)ポルトランドセメント試験方法の内左の各項を限り掛官立會の上請負者に於て執行し之れに合格したるものを使用すへし但二十樽を以て一組と爲し其中より掛官の指定する二個宛を試験に供すること

第二條 粉末試験

第三條 凝結試験

第四條 膨脹性龜裂試験

第五條 耐伸強試験

一車寄せ柱下通りに埋込ある古石垣は抗打に支障の部分適宜の方法に掘取り跡穴埋立土は某官舎新築場にある淺土を持運び蝟突に埋立つへし。  
 一古石は指圖の場所に積片附掛官に引渡すへし。

注意書

一諸材料は悉く請負人より見本品を差出し掛官の検査を受け尙各材料を持込た

る時は掛官の検査を経たるものに非ざれば使用すへからず

一調合物は總て正確なる樹を調製掛官の検査を受け總て立會の上正確に量立つへし。

一工事中は請負人に於て掛官指揮の場所に自費を以て左の假建物を取設くへし

諸工作小屋諸材料置場湯沸所調合場及練場便所請負人出張所等但火氣を使用する所は特に火災の虞なき構造と爲すへし。

一抗打一旦落成したるものと雖も悉皆出來の時期に至り破損或は仕様書圖面に違ふ廉ありたる時は仕直すへし。

一仕様書と圖面と符號せざるか又は明記せざる事項と雖工事手續上必要の個所は掛官の指揮に従ひ請負金額内を以て施工すへし。

一本工事に従業する者は喧噪亂雜せざる様特に注意すへし。

一工事用水力飲料水は官より支給す。

一工事中は不合格材料等は時々構外に搬出し工事全部竣工の上は殘材料共持去り下小屋其他請負人自費を以て設けたる假設物は一式取拂ひ官に引繼くもの



なれ共夫々指圖の通り取片附跡穴は必要の個所埋均し清潔に掃除すへし。

八九二

### 第一百節 某建築鐵骨工事仕様書

- 一 某館鐵骨工事別紙圖面及左記仕様の通り、工作及組立
- 一 鋼材は毫も屈曲若くは轉扭なきものを使用し切斷面は總て叮嚀に仕上げ且切斷の際屈曲を生したる時は正確に原形に直すへし。
- 一 鋼材中充分の強さを要する部分を工作上熱し又は屈折せしむる時は掛官の指揮に従ひ該個所のみを適度に鈍淬すへし。
- 一 工作は總て叮嚀に各部の形狀寸法は正確とし工事の順序及方法等は掛官の指揮に従ひ完全に工作及組立つへし。
- 一 工作及組立に従事する職工は各擔當の工作に熟練したる者を使用すへし。
- 一 組立工事中は總て危險なき様請負者に於て相當の防禦を施すへし。
- 一 工作及組立(鋼材交附の場合)

- 一 所要材料の内別表記載の鋼材は〇〇〇に於て〇〇〇年〇月〇日より漸次交附すへし。
- 一 所要材料の内交附鋼材以外の材料は悉皆請負者に於て供給すへし。
- 一 交附鋼材中多少過大屈曲又は轉扭せるものありと雖も總て請負者に於て訂正使用し工作後は眞直にして毫も屈曲若くは轉扭あるへからず。
- 一 鋼材中圖面の形狀及長さに従ひ切斷すべきものは總て其斷面を叮嚀に仕上げ且切斷の際屈曲を生したる時は正確に之を原形に直すへし。
- 一 鋼材中充分の強さを要する部分を工作上熱し又は屈折せしむる時は掛官の指揮に従ひ該個所のみを適度に鈍淬すへし。
- 一 工作は總て叮嚀に各部の形狀方法は正確とし工事の順序及方法等は掛官の指揮に従ひ完全に工作及組立へし。
- 一 交附材の損失又は廢物を生じたる場合には其原因の如何を問はず請負者は原鋼材と同形にして同質以上のものを代償すべし。
- 一 工作及組立に従事する職工は各其擔當の工作に熟練したる者を使用すべし。



一組立工事中は總て危険なき様請負者に於て相當の防禦を施すべし。

鋼材

一鋼材は總てシトメンス、マルチンス開爐法又はベセマー法に依り製作したるものにして總て肌滑か且綺麗に焼過ぎ疵割れ及ササクレ其他缺點なく通り善く形状正確にして其寸法の減少過剰は日本帝國製鐵所の公差以内たるべし。  
一鋼材の強度性質は左の如し。

應張強度一平方センチメートルに付

伸度

鋼軟 五千キロ乃至三千六百キログラム

試験片小徑の八倍以上にして且

二百ミリメートル以上に付百分

の二十以上

何れも氣温に於て其太さ又は厚さと同徑の圓を挟んで之を百八十度屈曲するも其屈曲部の凸邊に毫も破斷の徵を顯さざるものとす。

一前各項の試験片として左の員數を呈出し其検査合格の承認を得て使用し試験に使用する費用は一切請負者の負擔とす。

何々 何本に付試験片何本

〇〇 の部分に對し試験片何本

一日本帝國製鐵所製品にして其試験成績表を添付するものに對しては前項の試験を施さざることをあるべし。

第百十一節 某銀行鐵骨鐵筋其他

工事仕様書

某銀行鐵骨鐵筋コンクリート工事外壁面テラコッタ

張瓦及人造石工事仕様書 圖面何枚添附

一本館建坪(壹階壁眞坪)

參百七拾壹坪貳合四勺

一軒高地上(バラベツト上げ迄)

五拾八尺貳寸

一表側廻り鐵柱高(基底より頂上迄)

約五拾八尺餘

一外壁眞長延

約百壹間半

一内壁眞長延平均

約百參拾貳間



- 一 鐵柱外側壁の分(大小) 四拾七基
- 一 同間仕切壁及間内孤立の分共大小(一階にて)四拾六基
- 一 同 (四階にて)參拾七基
- 一 床工形梁及鐵骨繫梁共大小 五百參拾六本
- 一 鐵骨重量 約貳百八拾八噸
- 一 鐵筋重量 同百參拾噸
- 一 コンクリート 同參百五拾立坪
- 一 階梯巾約五尺五寸(壹階より四階迄) 壹ヶ所
- 一 同 (地中階より四階迄) 貳ヶ所
- 一 同巾約四尺(壹階より貳階迄) 壹ヶ所
- 一 屋根ダンブコース銅板製軒樋蛇腹共平面 約四百坪
- 一 軒土飾及外壁面化粧人造石工事 壹式
- 一 小口形テラコッタ張瓦各種合計 約四百五拾坪
- 一 汽罐室建坪 拾參坪五合

以上

右仕様

鐵骨工事

- 一 鐵骨は總て軟鋼材を使用し床梁繫梁共其断面工形にして柱の中一部は其断面工形成形のものを使用し一部は現場に於て組立てL鋼板鋼綴合せI形及びII形等に作成使用する事。
- 一 鐵柱基鉄は柱の大小に應し夫々板鋼及L鋼を軟鋼鉄にて圖面の通り綴合はせ取付け既設コンクリート基礎内の堅坑へ鐵柱一基に付ボルト貳本宛植込み締付くるものとし上部繫梁出來の上、下、振にて鐵柱を垂直にし繫梁を水平に据へ建固め假取付検査済の後足固めボルト雌ネジ締固めの事。
- 一 鐵柱と貳階以上各階及屋根繫梁並に床梁との取合及床梁相互の取合はL鋼及板鋼鐵を用ひ場所に由り徑四分の三吋乃至八分の七吋軟鋼鉄にて綴合せ圖面の通り取付出來し東北隅壁面彎曲の部分は壁の曲形に應じて繫梁を弧形に撓め付け階梯廻り等は窓入口を避けて其上下の位置にI形繫梁を繞らし階段受



傾斜梁を取付け鐵柱を連繫し柱梁及各連結材共曲り捩れ等なく合口馴染良く全部假取付の上係員の検査を受け鉸鉸に取掛るべき事。

一、請負人は鐵骨工事着手に當り各要部の現寸圖を調製し係員の検査を受けて後實地施工に取掛るべく鉸鉸は専らスナップ頭に出來し鐵骨工事全部出來の上適當の塗料を用ひて叮嚀に鋪留塗を爲すべき事。

一、現場事務所構内及永樂町貳丁目當部材料置場内に於て所要軟鋼材料一切を渡すに付請負人にて持運びI形鋼I鋼板鋼共曲り捩れあるものは撓直し器械を用ひ係員の指揮に従ひ全體曲尺貳分以上のヒヅミなき様叮嚀に撓め直し圖面及び現場に依り適當に切合はせ孔もみ明け總體マクレ取去り繼手Iの手良く柱繼手等合口は必要に應じ鉸掛け下拵を爲し合符を付し現場に持運ぶべき事但し接合部の肌は十分清潔にし鉸鉸を行ふべし又係員の指揮に従ひ見本として鐵骨の一部を下小屋に於て假組立を爲さしむる事あるべし。

一、鐵筋コンクリート工事に對し所々鐵筋貫通の爲め鐵骨に豫め孔明け置き又は現場の必要に應じ係員指揮の通り臨時所々孔明けを爲すべし又各階床梁鐵筋

の端末L形に折曲げたるものを平鐵及びポールのにて鐵骨に締付くる事。

#### 鐵筋コンクリート工事

一、壁用の假枠は壁板張とし構造堅牢に且つ取外し易く組立に注意し下拵を爲し必要の合符を付し一階床下の分其他便宜上第何々號館用古材を再用し鐵骨取付終りたる部分より順次現場取付に着手しコンクリート工事の繼手となるべき部分は仕切板入れ幅木天井窓入口枠額縁等取付の木煉瓦を準備し假枠工事に當り取散したる塵埃木屑等十分に掃除を爲し工事中假枠内検査を爲し得る様窓入口上下の位置其他所々假枠に掃除口又は検査口を設ける事。

一、假枠用の堰板は正八分厚片面器械削りの宗谷松板割を用ひ突メバ約貳尺間以内前同松三寸角二つ割の横棧を取付け隙間なく板張を爲し表面石鹼液を塗布し堰板一枚巾三尺位とし持運に便利に出來の事。

一、鐵筋コンクリート柱の内外壁中にあるもの及び室内單獨に立てるもの共適當の假枠を構造し孤立柱の假枠は液狀コンクリートの側壓力に對し下方に進むに従ひ押へ枠の間隔を減少し壁の分は約參尺間に杉押四寸角又は同材二つ割



面付布丸太等を用ひ押縁とし必要の所楔飼ひ總體徑八分の五吋ポルトを用ひコンクリート製隔塊當て又は竹管を貫き假枠を締付け通り良く出来し且つ所々筋違又は方杖振れ留等飼堅め出来上りコンクリート面に貳分以上の凹凸なき様手配する事。

床コンクリートの假枠は構造簡單堅牢に且取外し易く組立に注意しI形梁を抱擁せる大梁及鐵筋梁の假枠に十分の強さを有せしめ床板は宗谷松片面器械削合決り付正八分板割を用ひ根太は梁間に由り多少の變更あるべきも専ら松五寸敷居木を用ひ貳尺間以内に配置し兩端大梁の假枠左右に設けたる根太受上に架渡し大梁下ばには約五尺間内外に杉押四寸角の束立て束下ばは下方の床又は大引上に二枚楔向ひ合せにて飼上げスラブ受假床下にも必要の所中央部に一ヶ所宛取残し置きの束柱立て前同斷楔にて飼ひ固め中貫又は松二寸角等を用ひ束間を縦横に連結し振り留とする事。

一、コンクリート梁の假枠は張間の大小に由り中央に於て貳分の一時乃至一時の張上りを有せし底板厚壹寸八分側板厚八分乃至壹寸貳分兩面削り板厚に由り

一、參尺間内外に棧打付け側板は徑五分ポルトを以て底板を貫通し所々締付けコンクリート打立後床假枠と同時に四週間以内に取外し得る様製作し底板は六週間以上必要に應じ据置得る様準備する事。

一、假床出来の上床上げ大梁底等に散亂せる木屑塵埃等叮嚀に掃除し煖房水管電燈等通過の孔を準備し豫め製したるコンクリート製の隔塊を用ひ鐵筋と假枠との間に適當の空隙を有せしめて是れを配置し所々三四尺間位にポルト孔明きたるコンクリート製の標準塊を天井吊木受として配置し之れを利用して此上に枕木を置き歩み板を架設しコンクリート打立に當り少しも鐵筋を踏み動かさざる様注意し假床の板間板等に生じたる空隙は必要に應じ粘土又は石膏塗込みバテ飼等を爲しコンクリート打立前可成數時間撒水し假床を濕し十分に準備を出来し係員の検査承認を受くる事。

一、壁及柱のコンクリート打立に當りては先づ枠底に厚二寸位平らにモルタルを流し擴げ次て規定調合のコンクリートを一回の厚五六寸位宛平らに打入れ床コンクリート打立に當りては先づ梁底に厚一寸位平らにモルタルを流し擴げ



次で規定調合のコンクリートを一回の厚さ二、三寸位宛平らに打入れ一ヶ所に付二人以上の介添人夫を用ひ小棒にてコンクリートを突込み移動せしめ鐵筋周圍に少しも空隙なき様工事中絶へず攪拌すべき事。  
但右コンクリートは左記の調合(容量)を用ふる事。

一、ポルトランドセメント

一分

一、玉川粗粒砂

三分

一、唐津産赤褐色火灰

〇五分

一、玉川六分目通し尻拔砂利

六分

一、大梁コンクリート打込方床板下ばに至りてスラブ全面の打方に移り先づ假床に厚三分以上に緩き糊状のモルタルを撒布し次に規定調合のコンクリートを一回の厚さ二吋位に敷均し鐵筋周圍に突込み上は均し迄數回に打立て定規摺をなし表面凹凸なく仕上ぐる事 但し床コンクリート打立後一週間は葎かけ毎日其上に撤水する事。

一、壁及柱の假枠取解方着手はコンクリート打立後夏季に於て三日間冬期に於て

五日間以上とし床の假枠取除方着手は夏季に於て二週間冬期に於て四週間以上とし尙ほ係員の承認を受けて後取解に着手すべし又た冬期に於て特別の保温手當を施すに非れば毎日華氏寒暖計四十度以下に於てコンクリート工事を行はざる事但コンクリート打立に當り毎日現場に於て使用中のコンクリートに付試験塊二個宛を作成し置き後日假枠取外し其の場合の參考に供する事。

一、コンクリート床は可成繼手少きを望むと雖も已むを得ざる場合は兩梁間に夾む床板の張間の中央部に於て垂直に打方を止むべし如何なる事情あるも鐵筋梁の工事を半途に中止せざる事又壁のコンクリートは各階の間に於て水平繼手を可成二ヶ所以上に設けざる事。

一、屋根コンクリート打立に當りては英國製セレジット又は米國製トラスコン防水劑原液に各防水劑規定の水を加へたるものを以て練合せ使用し其上水分の不足は一々係員の承認を得て適宜清水を以て補足する事。

一、右陸屋根コンクリート打立後表面凹凸なく平均四分厚にセメントモルタル塗



りを爲し乾燥を待て其上にマルソイドダンプコースと良質のアスファルト原料液を交互に四層村なく敷込み表面凹凸なく水流し良く耐水に仕上げ軒上飾バラベツト明り取屋根鐵骨銅板張り軒蛇腹軒樋等と取合の所兩仕舞入念に出來の事。

一、軒上飾バラベツト電動昇降機上部屋根コンクリート工事及階梯鐵筋コンクリート工事明り取ガラス屋根工事は前條に準し追て渡すべき圖面に依り係員の指揮に従ひ叮嚀に施工する事。

一、鐵筋は總て軟鋼材を使用し徑四分の一時乃至一時四分の一の丸棒並に巾二分の一時厚八分の一時の帶鐵等を用ひ大さ配置等總て圖面に依り繼手は重ね繼とし不明の部分其の他の特殊の部分にして圖面に現はれざる個所は係員の指揮を受け豫め一部分宛組立て下拵を爲し置き敏速に現場工事を進むる事。但し鐵筋交叉點は所々二十一番亞鉛引鐵線にて結付け繼手は鐵筋直徑四十倍以上の重ね繼とし十六番乃至十七番亞鉛引鐵線にて繼手一ヶ所に付き兩端を鐵線五卷以上巻締め鐵筋端末は大小に由り二三吋内外折届け又は割擴げ置く

べし梁鐵筋と末端外壁に入る部分其他緊要の場所には鐵筋をポートルトにて鐵骨に締固むる事。

一、鐵筋配置方は壁縱筋に鋼鐵の量コンクリート容量の約四百分の一以上横筋に同三分の一以上を用ひ床スラブの縱筋即ち主筋に同二百分の一以上横筋即ち補助筋に同八百分の一以上を使用し各室金庫置場金庫室四周の壁及床天井窓入口の上下左右並に四隅の位置及陸屋根スラブは特に鐵筋の量及本數を増加し鐵柱及工形梁の周圍を小形の鐵筋にて圍み又は鐵線にて巻き包み温度の變化其他に基因する鐵筋コンクリート工事の伸縮龜裂其他の缺點を豫備する事。

#### 張瓦及人造石工事

一、現場事務所下小屋内にある張付瓦全部本館用の分を渡すに付白色の分は一階裏側に赤色の分は二階以上に適用し現場に應じ瓦拵を爲し塵埃拂ひ去り壁付肌十分水濕し縦横目地通り良く一段毎に遣形より白絲引通しモルタル十分に飼ひ目違なく叮嚀に貼り付け所々樋吊鐵物通風鐵物其他必要の鐵物積込み出



來の上清水にて數回清洗し化粧目地仕上を爲すべし尙現場係員の見込に由り化粧張瓦下地に防水劑入セメントモルタル塗り厚約二分位を爲さしむる事あるべし。

但窓入口廻り及表側東北隅壁面彎曲の部分のコンクリート壁と窓入口枠の間に残りたる壁の部分と都合に由り普通煉瓦にて積立て窓入口廻り石材枠締付鐵物木煉瓦等を積込むべき事。

一、表側一階の内東北二方并に兩側の一部四間道路に接するところの窓入口廻り其他壁面の帶石側石共地上高約二十尺通り又其他の裏側々石二段通り高約二尺五寸總て相州堅石若くは花崗石を使用し他請負にて彫刻据付を爲すに付其他窓入口廻り全體軒蛇腹下平壁持送り軒上小壁、軒上飾等は特に圖面に記入せるものの外總てコンクリート下地の上を花崗石撰粒入人造石上等仕上とし入念に出來の事。但し軒蛇腹は金屬製とし軒樋堅樋共本請負にて施工の事。

#### 假設工事

一、工事に要する足代棧橋取溜所遺形下小屋等は總て堅牢を旨とし工事の進行に

從ひ便宜に取設け係員をして安全に何れの個所へも容易に達し得る様設備し尙ほ本工事中本足代を他請負に流用する事あるべきに付石材其他重量品の取扱に差支なき様注意して取建つる事。但本工事に付帶し上部足代取建の前後に當り基礎工事埋戻土不足の部分と本館新築地盤の高さ迄構外大名小路沿東南筋向地所内にある埋戻土持運び敷均し通行に便する事。尙本建築敷地西方當部材料置場内にある割栗石約三十六坪は本館基礎工事用殘品に付請負にてレールを敷設し右材料置場南西隅竹矢來外へ持運び纏り良く併立て片付け木製門二ヶ所本工事用下小屋約四十坪を右材料置場當方指定の位置に新設する事。

#### 附則

一、工事は總て完全を期す不完全の箇所は請負人に於て費用自辨何ヶ所にてても手直しを爲し又は改作し完全に出來の事。

一、本工事用の材料中左記の物品は當方渡しとし受負人にて持運び使用する事。

一、足代下小屋及遺形養生用材料。 一、窓入口枠扣ポールの通風鋼樋吊鐵物



- 一、コンクリート流し樋用材料
- 一、コンクリート假枠材料
- 一、コンクリート用軟鋼材鐵線一切
- 一、ポートルランドセメント
- 一、川砂
- 一、防水劑、鑄留用塗料、現寸圖型板

右記載外の材料鐵骨假取付用のポートルト其他必要の諸道具は請負人持出しにて工手間現場運送共一式請負の事。

- 一、當方よりの渡し品請負人の持出し品共請負人に於て取締るべき事。
  - 一、工事着手の上は請負人若は相當の代人毎日出場職工人夫に過失なき様充分注意し石工左官大工建具其他關係工事請負人等に打合せは不都合なく進工の事。
  - 一、圖面仕様相違の廉あらば係員に問合せ其決に従ふべき事。
- 但し仕様書に掲げたる條項にして圖面に漏れたるもの或は圖面に示して仕様書に漏れたるものは總て仕様書にも圖面にも顯はしたる條項と同様に工事を

實施し圖面並に仕様書の何れにも記載なき諸條件は總て係員の決に従ひ工事  
上必要の廉々請負人にて一々誠實に取行ふべき事。

- 一、當所に於て目下建築中の某地の某會館建築場構内にあるランソム式コンクリート混合機壹臺及卷揚機付屬鋼鐵塔電働機共一式を貸渡すに付請負人にて取  
解き持運ひ係員指定の場所に小屋取設け据付けコンクリート流し樋を架設し  
前掲指定の調合を以て混合機械にて水加減良く充分に混したる後捲揚機及コ  
ンクリート流し樋にて間斷なく現場に送りコンクリート工事を敏速完全に出  
來する事。但し混合機及卷揚機に要する使用料はコンクリート立壹坪に付電  
氣料共金參圓とし給水費据付費修繕費諸雜費は請負人持の事。

- 一、當所の都合に由り鐵筋及ひコンクリートの量に幾分増減あるべきに付全部出  
來の上實地施工數量に由り請負金増減あるべき事。
- 一、本館屋根コンクリート工事出來後汽罐室工事に取掛り妨碍となるべき砂利砂  
置場棧橋の一部を取毀ち構外材料置場内に取片付け必要に應じ「ミキサ」「ホイ  
スト」の位置を移轉して汽罐室コンクリート工事を進行し本館陸屋根に準じ屋



根マルソイド葺工事を出来し半圓形軒樋及堅樋二ヶ所取付け間内壁及天井共厚五分白漆喰四遍塗外壁面防水劑入花崗石粒入人造石塗仕上内部床又床コンクリート厚三寸の上に備前燒五寸角敷瓦敷込幅木セメントモルタル塗仕上げ上下け若くは廻轉窓兩開口枠共杉材ペンキ塗正壹分厚硝子切込金具取付建具吊込みエリア階段及土留壁鐵筋コンクリート上にセメントモルタル塗土留笠石及階段花崗石粒入人造石洗出仕上エリア上亞鉛引鐵板葺庇共取設け煖房機に關する工以外總仕上迄本請負人にて出来の事。但し本工用材料中花崗石粒白漆喰塗壁材料は請負人持とし其他材料は當方渡ししの事。

一、本工用として拾貳听レール既設の分共約四分の一哩を貸渡すに付請負人にて架設使用し工事中破損の部分は請負人にて修繕の上検査を受け返納すべき事。但本工事中當方に於て石工事運搬用に流用する事あるべし。

一、本工事は請負確定後三日間に着手し充分に職工人夫を差出し敏速に工事を進行し晴雨を論ぜず來る六月參拾日限り鐵骨工事全部を出来し同拾月拾日迄に屋根コンクリート工事全部を出来し大正四年壹月末日限り本請負工事全部を

出来する事。但し當方の定休日も此日限内に加算する事。

一、右仕様圖面現場材料共熟覽の上不明の廉は係員に聞糺し不相當なく積り立て來る四月六日午前拾壹時迄に入札すべし即時開札の事。

## 第一百十二節 某公館煉瓦積仕様書

外側窓迫持化粧煉瓦積大小 何ヶ所

但化粧洗ひ出し

外側化粧裏并石裏間仕切共獨逸形塗下煉瓦積此煉瓦數凡三拾七萬五千本。

但し化粧煉瓦は此内に算入せず。

内化粧裏迫持及石裏迫持間仕切迫持共百二十二ヶ所。

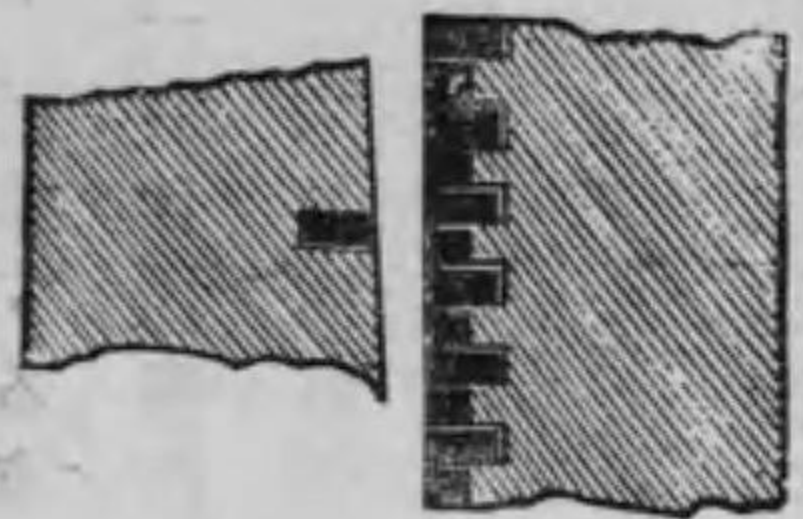
右仕様

窓迫持化粧積煉瓦は小屋内にある楔形煉瓦を持運び格好不充分のもの或は太さ不揃の者摺合せ煉瓦拵を爲し積場所掃除を爲し清水を注ぎ假拵遣形及圖面組合せ番號に倣ひ不揃無之様目地幅壹様に爲しセメントモルタルにて定木摺り見本



積の通り裏積と組合せ能く積立ブラシにて丁寧水洗ひを爲すべし化粧裏等の煉瓦は場所内にある獨逸形煉瓦を持運び汚物等附着せるものは藁ダワシにて洗ひ落し稀鹽酸を注ぎ積込の場合は石裏石上又は在來煉瓦付の處共掃除を爲し清水を注ぎ指圖に従ひ獨逸法を以て煉瓦割を爲し煉瓦は適度に清水に浸し遣形及圖面に従ひセメントモルタル充分に用ひ上下段に繼手壹様ならざる様積立て壹段毎に注トロ充分に注ぎ込み通り及建入能く積立つべし。

下積の煉瓦割は勿論角窓脇石付等各煉瓦組合方は時々掛官の指圖に従ひ積立つべし。



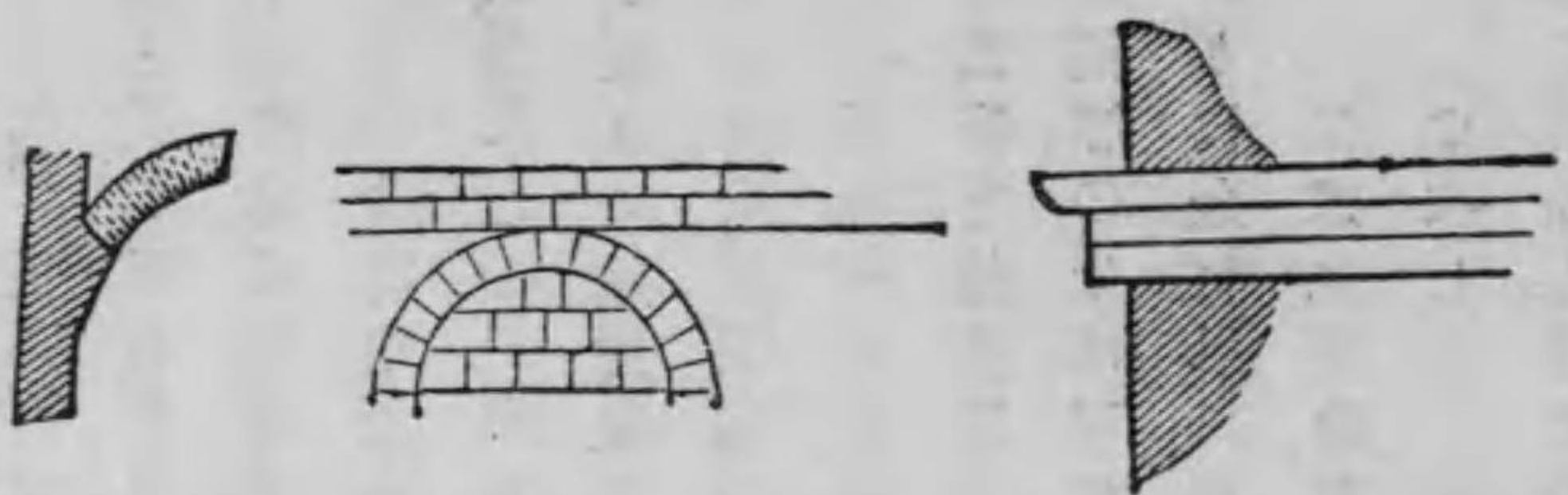
但窓又は石付にして自然煉瓦拵を要する處は煉瓦拵を爲すべし。

但し石より繋ぎ鐵物ある處は之れを積込むべし。

外面の積方は化粧裏は如圖積立べし。

但し半拵と半羊羹を用ひ交互に層を爲して積むべし。

入口及窓化粧石等繋ぎ鐵物引締めボルト等指圖に従ひ積込むべし。



し入口の左右へ八個つゝ楔形木煉瓦を如圖積込み窓左右へ拾個づつ貳分五厘角深半枚の穴を積くべし。

窓并石裏共迫持化粧に非らず並煉瓦積は楔形並煉瓦又は並煉瓦にて假拵造形に做ひ積立つべし。

但し腰蛇腹裏の迫持何箇所は迫持下丸形に瓦拵を爲し積立其上迫持共如圖に積立べし。

廊下通り迫持請柱塗下蛇腹圖面の通り煉瓦拵を爲し積立つべし。

迫持天井の迫請并廊下等の迫請他の煉瓦壁へ接續する迫請は如圖煉瓦拵を爲し積立つべし。

石裏に成る部分は石に馴染能く同じヒロを見込煉瓦拵を爲し前同様積立つべし。

石裏并化粧裏間仕切塗込の迫持積は假拵に做ひ煉瓦拵を爲しセメントモルタルにて積立つ可し。



但し半圓形化粧裏用の煉瓦は異形煉瓦にて相渡候事。

窓請石窓下石等を据付くる分煉瓦積み分先に積立つるときは充分其石据工事に差支なき様逃げ積に爲すべし。

厚壁の分は中積へ四つ切の屑煉瓦を積込むことあるべし。

前項凡べての裏積煉瓦は東の方半面は腰蛇腹より胴蛇腹迄西の方面は窓迫請石下端より胴蛇腹迄積立る事。

モルタルハ製練の上相渡候條持運び使用すべし。

但モルタルは日々使用すべき高を世話役より其前日に掛官に申出べし。

本工事と他の工事と取合せの場合は能く打合せ不都合なき様施工すべし。

裏積等の分は現場に於て多少増減相生ずべきに付此際は積立本數に應じ平千本當り代金を以て請負金精算すべし。

但窓化粧迫持の分苦し増減あるときは壹ヶ所當りの代金を以て請負金精算すべし。

前記の如く煉化數を以て計算せるものあるに依り小煉瓦の計算は左の割を以て

すべし。

七五形煉瓦は壹個を以て壹本とす。

貳つ切煉瓦は貳個を以て壹本とす。

四つ切煉瓦は參個を以て壹本とす。

足代は官に於け掛渡と雖も若し歩行板所々不便なる箇所は脊板類貸渡候條受人に於て都合能く手丈夫に掛方致すべし。

煉瓦及びモルタル共無益に費へざる様取扱に注意を爲すべし。

工事の順序等は掛官の指揮に従ふべし。

竣功期限は契約確定の日より雨天除き日數百五十日間に皆出來を爲すべし。

但工事の繁閑は掛官の指圖に依り職工人員の増減を爲し尙工場の都合に依り期限を延長する事あるべし。

工事出來の上は屑煉瓦類の足代上に散在するものは勿論地上に散在するものは掛官の指揮する場所へ取片付跡掃除を爲すべし。



## 第十五章 建築豫算法(Estimation)

豫算は積算亦は單に積りと稱し圖面仕様書等の出來せる時夫れに要する材料及び工賃等を計算し全部の經費を豫知するの法なり。

豫算法に(甲)概算法(乙)精算法の二類あり。

(甲)概算法とは所謂略積りにして西洋にも日本と類似せる方法あり。

(1)日本の方法は習慣上家屋の品位に依り凡そ六尺平方或は六尺五寸平方の壹坪に付何十圓或は何百圓と云ひて價格を定む而して平家にては武階家にては三階家にては皆平坪即ち建坪にて計算す又延坪と稱し武階乃至三階の坪を階下の平坪と合して計算することあり。

(2)西洋の方法には(A)(B)の二種あり。

(A)は家屋の根積より家根の中央迄の高さと梁行及び桁行を乘じ立方呎に付ての立積を算出し夫れに一立方呎に付ての單價を乘じて總費額を算出するなり。



最も西洋諸國には各其國に於て其家屋の品位に依り一立方呎に付き何ベンス或は何  
マーク等と云ふ定めあり。

此法にて烟突及地形は普通算入せざれども何れも長大なる場合には算入すべし又大  
なる家にて軒の高低種々なる時は同一なる高さのものを集め数群として立方呎を算  
出し之れを加ふべし概して市中の建造物は一面のみ道路に面するを以て美術的にな  
すも他の三方は裏となるを以て飾るに及ばず然るに邊鄙の地に建つる家屋は四面と  
も望見し得べく比較的多額の輕費を要す。

(B)は殆んど我國の方法に彷彿たるものにして家屋の品位に依り百平方呎に付  
て何十圓或は何百圓と單價を定め置き桁行と梁間とを乗じ之れを百平方呎  
にて除し品位に應じて其單價を乗じ總費額を得るにあり此方法にては凡て  
延坪にて階下、二階、三階、四階等皆別に計算するなり。

(乙)精算法とは工事に對する工賃及材料の價格等を時價に應じて算出する法にし  
て最精確なるものなり然るに之れに熟達せざるものは往々積り落しを爲し損  
失を醸すことあり夫れを防ぐには可成工事を爲す順序に積りを爲すを最可な  
りとす。

備考 西洋にても圖面より材料を拾ふを(Taking off)と云ひ實物を測るを(measuring)と云ふ

而して此拾上げ済みし後抽出(abstracting)を爲し書上(Billing)を行ふなり。

### 第百十三節 豫算書の分類

#### 地形工事之部

#### ○工費

根切は長延と巾と深さを乘し立何坪と云ふ容積を算出し夫れに要する土工費を  
乗じて工費を定む普通深四五尺なれば立一坪に付土工人夫一人四五分なれど  
も大工事なれば左の如き工手間を要す。

側廻り 上口巾十六尺 丁堀深さ平均十三尺 土工人夫立一坪に付二人二分

水替所二ヶ所取設根切 同 二人

山留堰板取設其他 大工 何人

手傳人夫及火夫 何人

釘鉸類 何べ目

#### 土の堀取及運搬